デアボリック・ボルノRPG
絶対隷奴
リプレイ 黒山羊の淫宴
著：神谷 涼
成人向け
FOR
ADULTS ONLY
このリプレイには性的な
内容が含まれています
ＺＱワークス

# 絶対隷奴リプレイ

# 黒山羊の淫宴

# 目次


▼まえがき …… 5

▼第０話　魔族降臨 …… 6

▼第１話　魔女ヶ森 …… 8
●コラム：サバトとは …… １４
●コラム：魔族たちの人生観 …… １５

▼第２話　菌類帝国 …… １６
●コラム：異形モンスター …… ２９

▼第３話　魔宴の都サバティア …… ３０

▼第４話　監獄迷宮 …… ３８
●コラム：天と魔の諜報活動 …… ４８

▼最終話　決戦！　堕天要塞 …… ５０
●コラム：これがバフォメット軍の全貌だ！ …… ６４

▼おまけ　キャラクター設定ラフ …… ６６
●コラム：獣欲界について …… ７４

# まえがき

最初に言っておこう。
これはオンラインセッションのリプレイである。
オンラインセッションとは、オンラインの……つまり、ネット回線を介してチャット形式で行うＴＲＰＧだ（これに対し、普通に顔を合わせて行うセッションはオフラインセッションと呼ぶ）。
さまざまなチャットソフトを利用して、オンラインセッションを行うことはできる。
必要となるのは、まとまった時間とタイピングのスピードだろうか。もちろん、マナーやルールブックだって必要だが。
サイコロを振ったりする面でも、ダイスボットを使うことだってできる。
筆者は地方住まいであり、実際に友人と顔を合わせてセッションをする機会が非常に少ないため、オンラインセッションを多数行うようになって久しい。
そして、オンラインセッションの難点や利点もなんとなくわかってくる。

まず難点。
相手の様子や表情がわからないため、ちょっとした勘違いや行き違いになかなか気づけない。文字が残るため、どちらのミスか後で確認はしやすいが、対面では避けられる問題が深刻化するまで気づかないこともある。
上と似ているが、ジェスチャーや口調を使えない。それらを使う際には描写として文字に書き出し、きちんと言葉として伝える必要がある。
オフラインのセッションより時間がかかる。人数が増えれば増えるほど、かかる時間も増える。もちろん、ＧＭがうまく裁けば何とかなる場合もあるが、その際にＧＭに要求されるハードルはかなり高い。

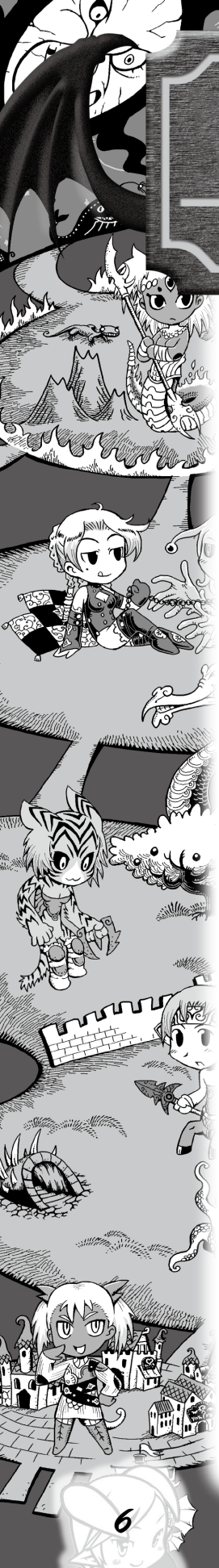
そして利点。
ログとしてセッションのやり取りが全て残る。一言一句が残るため、情報を逐一聞き返さなくても、読み返すだけで理解しやすく、簡単なリプレイのようにログを保存できる。
オンラインセッションでは、深いロールプレイを恥ずかしがらずに行える。異なる性別でも、子供や老人でも、文字としてそれらしく演じて描写を加えれば十分にそれらしく、素晴らしいキャラクターとなる。同様にＧＭがＮＰＣ同士の会話を演じることも、さほど難しくない（ＰＬの見せ場を奪ってはいけないが）。
移動時間を気にせず遊べる。平日の夜などに数時間ずつ遊んでいくことも十分可能だ。実のところ、地方住まいの身にはこれがもっともありがたい部分である。
少人数のセッションに深みを持たせやすい。難点と対応する形だが、２人や１人といったＰＬ人数でも十分に深いセッションを楽しむことができる。

もっとも、オンラインセッションは日進月歩。
自分が始めてからでもソフトや手法はどんどん発達している。今では複数のソフトを使うことで、オフラインと変わらぬ時間で多人数セッションを行うことすら可能となりつつあるのだ。

さて、それはそれとして。
筆者はエロが好きである。
いや、正確にはエロ描写が好きである。
身内同士とあらばついつい、シナリオやセッションを性的な話に持っていってしまう悪癖があり、よろしくないなぁと思いつつも、何とか思う存分できないものかなぁとかつて思っていた。
オンラインセッションを始めて思ったことは。
少人数相手の身内相手なら、がっつりやっちゃってもいいよな……という思考であった。
そして作った。
作ったとはいえ、まずテストはオフラインだった。
そう、今から考えるといろいろすごいが、オフラインである。
気心の知れた友人と、酒の入った深夜の空気に感謝すべきだろう。
そしていろいろあって、一応この『絶対隷奴』の原型と呼べるゲームが生まれた。

オフラインでそれなりに遊べた『絶対隷奴』は、オンラインではさらに加速した。
暴走したと言ってもいい。
そして最初の絶対隷奴から、はや７年。
ルールブック発売からでも、６年。
このゲームが本当に遊ばれているという証明も必要だろうと、思い始めた（遅い）。
そう、筆者はこのゲームをおそらく最も遊んでいるのだ。他に遊んでくれているＧＭやＰＬを横で眺めてもいる。自作品の中ではダントツのセッション回数だろう。ＰＬ１人相手に、３時間くらいで終わらせているのだから！
今回のリプレイでは、性的描写については参加してくれた２人のＰＬの描写を最大限に使わせてもらっている。これだけ濃い描写は、筆者もオフラインではちょっと無理である。
しかしオンラインならできる！
一対一、あるいは一対二の状況ならできる！
あなたが『絶対隷奴』をネタ本としてお持ちなら、ぜひ遊んでみてほしい。互いの禁忌事項をぶつけあい、好みの嗜好で共鳴できる関係の人と。
己の性欲のままに動くのではなく、描写を楽しむ気持ちで……。

2012 年 7 月　神谷涼



# 第０話　魔族降臨

絶対隷奴（デアボリック・ボルノRPG）
Absolute Slavery

とあるＩＲＣチャンネルに、ＧＭとＰＬが集う。
キャンペーンの開幕だ。

**ＧＭ**：さて、キャンペーンを開始することになったのだけど。ざっとＰＣを作ってもらおう。それなりに長く使うから、ちゃんと考えてね。
**ＰＬ１**：えーと、ＰＣ２人なんだよね。先に関係考えておきたいな。
**ＰＬ２**：普通に行きずりの仲間とかでもいいんでしょうか？
**ＧＭ**：いや、それなりに強い関係の方がシナリオとしてやっていきやすいね。主従、姉妹、**姉弟、母子**、恋人、なんかかな。
**ＰＬ１**：うーん、恋人は他のＮＰＣと絡みにくくなりそうだな。
**ＰＬ２**：血縁があると、特性とか同じの取りたくなりますね。
**ＧＭ**：じゃあ主従かな。
**ＰＬ１**：そうだね、その方針でー。
**ＰＬ２**：片方が奴隷になれば最初から★がある状態で始められますし！
**ＧＭ**：じゃあどっちが主人でどっちが奴隷に？
**ＰＬ１**：むむ。どうしよう。
**ＰＬ２**：公平にダイスで決めましょうか？
**ＰＬ１**：だね、じゃあ２ＤＲで、高い方が主人ってことで……。

こうして振った出目は。
ＰＬ１が８。
ＰＬ２が４。

**ＰＬ２**：わたしが奴隷ですね～。
**ＰＬ１**：主人かー。じゃあ調教とか得意なタイプにしないとだ。
**ＧＭ**：あとはまあ、あんまりハードコアすぎる魔族にしないようにねー。自分の**ＮＧ**は拡張、切断、出血、虐待なので、ご留意を。
**ＰＬ１**：こっちのＮＧはうーん……極端に痛いの以外はだいたい大丈夫かな。
**ＰＬ２**：食べたり塗ったりするスカトロはちょっと……。
**ＧＭ**：二人ともわりと許容範囲広いんだな。了解、まあお互いそのへん気をつけるようにしよう。あとは自由にキャラ作成どうぞ。
**ＰＬ１**：ショタご主人様、ふたご主人様、お姉さんご主人様、どれがいいかな……。
**ＰＬ２**：わたしは女性にするつもりですけど。
**ＧＭ**：３Ｐするなら、主人はショタかふたの方がいいかもしれないね。
**ＰＬ１**：じゃあショタにしようかな！
**ＰＬ２**：それじゃ、こちらは年上女性にしましょう～。
**ＧＭ**：ふむふむ、いい組み合わせだね。
**ＰＬ１**：よーし、じゃあとりあえず特性から決めてくか！　一つは 56 番の特性で確定として、残りをダイスで……。
**ＰＬ２**：あ、獣人にしてもいいですか？　野生的な生活してた子が、快楽を教え込まれて奴隷にってことで。

そんなこんなで魔族ができていく……。
ほどなく、二人の魔族は完成した！
データは右ページを参照されたし。

**ＧＭ**：ふむふむ、淫魔ショタと獣人お姉さんね。
**ＰＬ１→ヴァル**：通称はヴァル。えっち以外は全然ダメだし、戦闘はハルディアに任せるよ！
**ＰＬ２→ハル**：こちらの通称はハルにします～。
**ＧＭ**：なるほど、役割ははっきり分かれているわけだね。
**ハル**：代わりにハルの調教は４ですし～。
**ヴァル**：ヴァルは戦闘が４……まあ、誘惑は魔娼着入れて９あるし！
**ＧＭ**：よし、ＰＣの使い勝手を見るためにも、さっそく短めのセッションをしてみようか。
**ヴァル＆ハル**：おー！

**姉弟、母子**
このＧＭはショタ姉のカップリングが好きなため、放置するとこういう組み合わせを出してくる。絶対隷奴に成人男性キャラがほとんどいないのは、製作者の偏った嗜好によるところが大きい。

**ＮＧ**
セッション内でしないで欲しい性的行為。エロは人によって嗜好が異なるため、予め恥ずかしがらず言っておいた方がいい。

# ヴァラック

**階級**：魔人（★）
**領地**：なし
**性別**：男性

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **戦闘**： | 4 | **調教**： | 7 (+2) | **体力**： | 5 |
| **運動**： | 6 (+1) | **奉仕**： | 6 | **魔力**： | 7 |
| **情報**： | 6 | **誘惑**： | 7＋2 | **自尊**： | 6 |

**魔族特性**：悪魔の尾、魅惑の声、56番
**アイテム**：魔道杖（外見は鞭）、魔娼着、責め具一式、盾（外見はマント）、闇の牢獄（外見は腕輪）、魔奴隷（ハルディア）
**呪文**：ドレインライフ、シェイプチェンジ
**所持金**：2ソウル

illustrator: あわじひめじ

**「ちょっとっ、なに勝手に話を進めてるの？　主役は僕でしょ？」**

少年の姿をした淫魔。悪魔の尾と、山羊の角が特徴。
性格は淫乱にして享楽的。気分さえ乗ればどんな相手とでも喜んで性交に応じ、性的魅力を感じれば積極的に求める。他者を奴隷にすることに馴れており、誰が相手でも敬意を払うということをしない。もっとも、自身が奴隷となることにも馴れているため、我侭ではあるが暴君ではない。
目下、ハルディアを奴隷にしたことで気が大きくなっており、魔王を目指し始めている。

# ハルディア

**階級**：魔人（★）
**領地**：なし
**性別**：女性

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **戦闘**： | 7＋1 | **調教**： | 4 | **体力**： | 6 |
| **運動**： | 7 | **奉仕**： | 6 | **魔力**： | 6 |
| **情報**： | 5 | **誘惑**： | 6 | **自尊**： | 7 |

**魔族特性**：戦闘形態、吸血牙、獣人（白狼）
**アイテム**：死神の鎌（自身の爪）、淫欲軟膏（自身の唾液）、魔獣装甲（自身の毛皮）、闇の牢獄（指輪）、魔奴隷
**呪文**：ネイキッドロア、メガロファロス
**所持金**：6ソウル

illustrator: あわじひめじ

**「あらあら、ヴァル様ったらそんなこと……」**

純白の毛皮を持つ狼タイプの牝獣人。アイテムや呪文は肉体能力であり、ほとんど裸で行動している。
戦闘を得意とするが性格はおとなしく、主のヴァラックに振り回されがち。基本的には誘い受けタイプで快楽と主人に従順。もっとも自制心が低く、欲望のままに行動してしまうこともしばしば。
元々は魔界の森深くで獣同然の生活をしていたが、ヴァラックに性的快楽を教え込まれ奴隷となった。このため、快楽に貪欲ながらも技術や知識はあまり高くない。

# 第１話　魔女ヶ森

魔界を彷徨う主従二人。
彼らが今いるのは、ねじくれた木の並ぶ森の中。
魔女ヶ森と呼ばれるこの森には、色事の得意な魔族や**ダムンド**、**ゴブリン**がたくさん住んでいて、それはそれは毎日がおもしろいやらしい乱交状態……と聞いてやってきたのだが。
そんな気配はまるでなく。
二人は文句言いつつ森を進むのだった。

**ヴァル：**「噂はアテにならないなぁ。なにもないじゃないかっ」 ご主人様らしく、ハルにだっこしてもらいながら！
**ハル：**「そうですねぇ～」 なでなで。
**ＧＭ：**魔界としても、こんなに気配がしないのは不自然だ。ちょっと情報判定してみて。
**ヴァル：**「うーん、エッチするにも見せ付ける相手とか欲しいよねー」 ２成功。
**ハル：**失敗です～。
**ＧＭ：**では、ヴァルは感じる。この森の中に、酷く淫らな場所がある。モンスターや魔族が見当たらないのは、そこに集まってるんだろう。
**ヴァル：**「あ、面白そ……あっち行こっ！」ハルの乳首いじって、そっちに向かわせるー。
**ハル：**「ひゃう……そ、そんなことされたら我慢できませ……んっ」 途中で一回くらいおねだりしちゃいつつ、向かいますよ～。
**ＧＭ：**では、次第に淫らな香りがたちこめ。木々のざわめきに混じって喘ぎ声や快楽にむせび泣くような声色が聞こえ始める。
**ヴァル：**「んっ、聞こえてきたっ」 ハルの誘いには我慢して、まっすぐ目的地へ！
**ハル：**「くすん……あら？　すごそう……」しょげながらも、犬耳がピクピクと動いて察知します。
**ＧＭ：**では運動判定どぞ。二人とも成功したら、こっそり覗けるよ。
**ヴァル：**あ、失敗した。
**ハル：**気にせず覗きましょう。別にやましいことじゃないですし。

あくまで魔族的にである。
人間界的には実にやましい。

**淫声（ＧＭ）：**「はぁっ……ぁはぁっ……もっと、もっとくださいぃ……」「はやく……ぅ、だしてくださぁい……」「もっとっ、もっと突きまくってぇっ♪」「きもちいぃのぉ……きもちいいのが……止まらないのぉ……」 二人が覗けば、無数の女・両性具有・少年少女らが、いやらしく絡み合っている。それはこの森にいると聞いていた、ダムンドやゴブリンなどのモンスターだ。

こんなロールプレイはオンラインならでは。
オフラインで行った際の責任は持てない。

**ヴァル：**「うわぁ、かわいい子ばっかり……」
**ハル：**「わぁぁ……気持ちよさそうですねぇ～」

凄まじいほどの精液と愛液と汗と尿の匂いが立ち込める広場。
無数の肉体が絡み合うその中心には、身長４メートル近い山羊頭の巨大なモンスターがあぐらをかいて座っていた。大きな乳房とペニス、それに山羊の頭が特徴的なそのモンスターに、複数のダムンドたちが群がって奉仕をしている。

**ヴァル：**でけぇ！
**ハル：**「あ、あれがここの支配者でしょうか」いやらしい光景に目が釘付け。
**ヴァル：**サバトみたいで羨ましいなっ！
**ＧＭ：**では二人とも情報判定を。
**ハル：**うっ、失敗です。
**ヴァル：**４**性交**だ！

**ダムンド**
堕地獄者、といった意味の名前を持つモンスター。快楽地獄に堕ちた亡者の皆さん。ザコだけどキレイどころがそろってる。

**ゴブリン**
絶対隷奴のゴブリンはエロいロリショタオンリー種族。

**性交**
絶対隷奴に限らず、エロ茶やエロセをする人が多発するタイプミス。似たものに「社長秘所」「それは秘蜜です」「人気のある触手」などがある。

**ハル：**性交だなんてそんな……（赤面）。
**ヴァル：**いや、成功！　４成功！
**ＧＭ：**……ともあれ、ヴァルにはわかる。あれはどうやら**ミノタウロス**の亜種で「サバトマスター」というモンスターだ。女性に発情効果のあるフェロモンを発しているぞ。
**ハル：**「はららら？　体が熱く……」 ハルも影響を受けてしまいますよね？
**ヴァル：**ヴァルは男だから発情効果を受けない！　ちょっと有利だな。
**ＧＭ：**馴れたＰＬは話が早いなぁ。いかにも、ハルはその場で『**発情０**』状態だ。見ていれば、ダムンドに群がられるサバトマスターの長大なペニスが大量の精液を放出している。その様子に、周囲のモンスターたちはさらに乱れ、激しく互いを貪るのだ。
**ハル：**「はぅ～。混ざりたいですぅ～、ヴァル様～」 様子を見つめてオナニーしつつ、ヴァル様の腰に頬ずりしてましょう。
**ヴァル：**「あーもうっ、それにしてもあいつら気づいてないのかっ」 ショタらしく勃起してるよっ。
**サバトマスター（ＧＭ）：**「ふぅ……そこな魔族らよ、隠れるな。出てこい……歓迎してやろう」　低めの、しかし魅力的な声。
**ハル：**「あららー…見つかっちゃってましたのね」 声を聞きあらあらどうしましょうとばかりに。
**ヴァル：**「こいつっ……、**普通の**ミノタウロスじゃないぞ！」 ハルに警告しとこう。普通のミノタウロスかもしれないけど！
**ＧＭ：**データもちょっと普通のミノタウロスとは違うよ。
**サバトマスター（ＧＭ）：**「我はルノー。魔王バフォメット様にこの森を任されしサバトの支配者なり。我が領地を通るならば、我が歓迎を受けよ」 ぬらぬらと精液と汗にぬめる、いやらしい体で両腕を開くようにして見せてくる。
**ハル：**「ま、まあ～、歓迎だなんて。どうしましょう、ヴァル様～」 相手の体にすでにめろめろです。
**ルノー（ＧＭ）：**「魔族狩りは最優先命令。じっくりと歓迎し、バフォメット様の元に送ってやろう」
**ヴァル：**「な、なんだとー！　魔族はみんな、ぼくの奴隷だっ！　バフォメットとやらが誰だか知らないけど、お前こそぼくが奴隷にしてやるっ！」
**ハル：**「ヴァル様は並の魔族とは違いますからね～」 奴隷らしく生あたたかい目で見守ってあげるのです。
**ルノー（ＧＭ）：**「おもしろい……どうやら実力の差を教えてやる必要がありそうだな」
**ヴァル：**「うるさーい！　ぼくに勝てると思うなっ！　思い知らせてやるっ！」
**ハル：**「接近戦はハルディアにお任せください～」 鋭い爪を生やして臨戦態勢っ。
**ヴァル：**「ハル、殺しちゃダメだよ。話を聞きたいし……エッチもしたいからねっ」
**ハル：**「はぁ～い、ヴァルさまぁ」
**ＧＭ：**では戦闘開始だ！　**行動順**的にルノーからだね。周りのモンスターたちは戦闘に参加しないよ。

**●第１ターン**
**ルノー（ＧＭ）：**「牝犬よ、これに口づける権利を与えてやろう。来るがいい」 立ち上がりもせず、発情中のハルを手招きして調教するよ。
**ハル：**「わ、わたしは狼ですよ～。でも、その大きいのは、ちょっといいかもしれません……（ごくり）」 すごく大きい逸物にふらふらと引き寄せられてしまいます。
**ＧＭ：**ではハルは、手を伸ばしたルノーに、ひょいっと持ち上げられ。何度も精液を射精したその亀頭の先……凄まじい淫香を発する鈴口に、顔をぐりぐりと押し付けられる。さらに、巨大な指が乱暴ながらも馴れた手つきでハルの体を這い回り、弱点を的確に弄ってくるのだった。
**ハル：**「ひゃあ！　だめですよぉ～。せっかくの毛が乱れちゃいます！」 亀頭に顔をすりつけるようにイヤイヤしてます。
**ヴァル：**「このっ、ハルはぼくの奴隷だぞっ！」
**ＧＭ：演出ボーナス**＋２もらって、調教は２成功。
**ハル：**自尊で３成功です！　抵抗しましたっ。

**ミノタウロス**
よくあるファンタジーのそれと同じ、パワータイプの獣頭巨人モンスター。もっとも、絶対隷奴では女性と両性具有を自動的に発情させる能力＜淫香＞を持っている。初期の女性魔族が一人で出会うと、かなりの確率で奴隷にされる。

**『発情』**
自尊判定に成功しないとエロいことしかできない上、誰の調教でも受け入れてしまう状態。要するにエロエロモード。

**普通の**
絶対隷奴のモンスターは生物学的な存在ではないため、相当品ルール的にしょっちゅう外見だけ変更される。もっとも、今回はスペシャルで用意させていただいた。

**行動順**
魔族なら運動、モンスターなら攻の数値が高い順に行動する。

**演出ボーナス**
エロいことを具体的に描写するともらえる判定ボーナス。誘惑、調教、奉仕の際に付く。

次はわたしの……。
**ＧＭ：**（遮って）サバトマスターは特殊能力＜サバト＞により、複数の相手を**陵辱**・調教できる。ヴァルにも陵辱。体力で３成功。
**ヴァル：**勝てないー。攻８の調教が毎ターン２回とか**ちょとｓＹレならんしょこれは・・？**
とても危険な状況であり英語で言うとピンチ。
**ルノー（ＧＭ）：**「小僧はこっちだ」 抗議してきてたヴァルをひっつかんで、ペニスの下……じくじくと濡れっぱなしの大きな女陰にべとりと押し付ける。
**ヴァル：**「はぅっ」 頭ごと入ってしまいそうな膣孔に体を震わせてる。
**ＧＭ：**じゃあ簡単に調教＋１で。３成功。
**ヴァル：**成功足りないー。調教されたっ。PPに９ダメージっ。押し付けられたそこに、ついつい舌を伸ばして嘗め回し、脚に腰をぐいぐい押し付けちゃうよっ。
**ＧＭ：**では、今度こそハルの番だ。どうぞ。
**ハル：**「ヴァル様が大変っ……！」 発情の自尊判定は成功しました！ 意気込んで攻撃しようとします！
**ヴァル：**うわ、主人より調教に強い！
**ＧＭ：**では、好きな行動をどうぞ。
**ハル：**「もう、ヴァル様に手を出すなら、こっちだって容赦しません！」 ルノーを攻撃します！
**ＧＭ：**こーい。
**ハル：**いきまーす。

出目は６ゾロ。

**ＧＭ：**げえええええ！！
**ハル：クリティカル**しました！
**ヴァル：**奴隷 TUEEEEEEE ！！
**ハル：**２倍で 40 点の通常ダメージです！ 鋭い爪がぐりぐりしてくれてたペニスをがりっと……きゃー、書いてて痛いー。
**ルノー（ＧＭ）：**「ぐわぁぁぁぁ……！！」
鉤爪にその巨根のみならず体まで引き裂かれ、吹き飛んだ。
**ハル：**「あ、あらあら～……ヴァル様、今ですよ～」ちょっと力入れすぎたなぁと思いつつ。
**ＧＭ：**ヴァル、どうぞ。
**ヴァル：**「ん、こほん、ふふふ、僕の奴隷の強さ見たでしょ？ どう？ 僕につかない？」
ふっとばされたルノーのところへ行って。巨大な肉棒を抱きしめながら、れろん、と舌を這わせて見上げてやろう。いやらしく微笑みかけるのだ。誘惑するよ！
**ＧＭ：**では誘惑＋２でどうぞ。
**ヴァル：**７成功！ えろはまかせろー！
**ルノー（ＧＭ）：**「ま、待て。お前こそ我らの手下になれば、この森の半分をお前にやろう！」
クリティカル以外勝てない……誘惑されたー。
**ハル：**どんなレスポンス！？
**ヴァル：**せめて魔界の半分くらいよこせよ！
**ＧＭ：**手下に…… →なる →ならない
**ヴァル：**→奴隷にする！
**ハル：**「手下もいいですけど、ヴァル様の奴隷の方が気持ちよくなれますよ～」
**ＧＭ：**うわぁ。１ターン目にして勝ち目ねぇ……。

**●第２ターン**
**ルノー（ＧＭ）：**「おのれぇぇ……その程度で奴隷になると思うなぁ！」 せめて戦闘力を見せ付けてやる！ ハルに３成功で攻撃！ 暗黒エネルギーが手に集まって、幾条ものビームが魔法陣を描いきつつ貫く！
**ハル：**えっと……すみません、４成功です。
**ＧＭ：**避けやがったー！
**ヴァル：**これは**厨二描写**的に恥ずかしい。
**ハル：**「んもぅ、素直じゃないんですから～」
暗黒ビームあっさり避けました！
**ルノー（ＧＭ）：**「ば、バカなぁ！ 魔人如きにぃっ！」
**ハル：**「うふふ」
**ヴァル：**「こんなに強かったのか……ハルを奴隷にしてる僕ってすごいなー」 バカっぽく言ってます。
**ＧＭ：**次はハルの行動だ！
**ハル：**ヴァル様が次は調教するでしょうし……奉仕しましょうー。
**ＧＭ：**くぅ、完全にナメきってやがる……っ！
どうぞー（涙）！

**陵辱**
通常は誘惑して相手を『魅了』状態にするか、魔法や能力で『発情』させて調教する。しかし、無理やり力任せに行うことも可能だ。陵辱とは、無理やり調教することである。

**ちょとｓＹレならんしょこれは・・？**
プロント語。知らない人はググるべきそうするべき。

**クリティカル**
とにかくすごい成功。ダメージを２倍にしたり、追加攻撃を行ったりできる。ＧＭにとってはたいてい、大きな誤算の元。

**厨二描写**
ルール上の数値や結果は適用しつつ、トンデモなスケールの描写をすること。「暗黒なんとか」「見ると死ぬ」「世界を滅ぼす」「封印された力」などが代表的。判定前にさんざん描写しておいて失敗すると、とても気まずい。

**ハル：**「んっ……ヴァル様は、すごいんですよ？　わたしにこんな素敵なこと、教えてくださったんですから……」 ヴァルのパンツを下げて。勃起したペニスの先走りをおいしそうに舐めるのです。

**ヴァル：**「えへへ、だよねー」 ハルの頭をなでなで。

**ハル：**「ペロッ、ンフッ……どうでふかヴァル様？　私の**奉仕**、うまくなったと思いません？」 丹念に舐めて、犬口でぱっくり咥えて激しくしゃぶり回します〜。**以上で**。

**ＧＭ：**では、奉仕＋３で判定どぞ。

**ハル：**では……えーと奉仕６に修正３、３成功で９回復？

**ＧＭ：**いや、成功値も足すのだ。奉仕６＋修正３＋成功値３で合計12。ヴァルは12点回復する。

**ハル：**わーい、全快ー。

**ヴァル：**「うあっ、あ、ハルぅっ……！」 ハルにしゃぶられて、膝をがくがくと震わせてる。

**ＧＭ：**どっちが主人でどっちが奴隷だよ（笑）。

**ヴァル：**よーし、それじゃ主人っぷりを見せてやる！

**ＧＭ：**こ、こーい。

**ヴァル：**「んんっ、は、ほら、っ、キミだって、ダムンドなんかの奉仕より、僕みたいな魔族のほうが、いいでしょっ……」 甘い声で囁きながら、巨根に抱きつくようにして口付け。ローションを**取り出す**と、体をぬるぬるにして、全身を扱いてあげよう！

**ルノー（ＧＭ）：**「ぐ……ぎっ……くぅぅぅ……！　くぅ、バフォメット様の使徒たる我が……っ！」 声に艶っぽいものが混じり始める。

**ハル：**「あらあら、ヴァル様ったら楽しんでますねー」 いっしょにルノーのを弄ってあげましょう。

**ヴァル：**「ふふっ、声が、高くなってきた……ここにいない奴のことなんて忘れなよっ！」 息を荒くしつつ、ルノーにふさわしい腕サイズの張り型を取り出して。れろりといやらしく舐めて見せてから、秘所に少しずつ挿入してあげよう。

**ルノー（ＧＭ）：**「ひ……っ、ぁ……」 挿入されると、そちらは慣れていないのか、巨体が痙攣するように震える。

**ヴァル：**「この感じじゃあんまり犯してもらってないんでしょ？　僕ならいつだっていくらでも、相手したげるよ？」 囁きながら、全身でペニスを扱きたて、ぐりぐりと膣内を張り型でかき混ぜて。びっしりついたイボで膣壁を擦ってあげる。

**ＧＭ：**では**特別に＋６**あげよう。責め具ボーナスとは別だ。

**ヴァル：**合計 14 ！　……よし！　11 成功！

**ＧＭ：**無理。抵抗できない。

**ルノー（ＧＭ）：**「アアアアアアアアアッッ！！！」 艶めいた悲鳴をあげて盛大に射精し、膣口からは大量の潮を吹きながら……ルノーは心を折った。彼女はヴァルの奴隷になる！

**ＧＭ：**戦闘終了。周りのモンスターもルノーが倒れると、森の木々に波を引いていくがごとく**消えていった**……。

**ヴァル：**ああっ、もったいない。

**ハル：**まあまあ、奴隷は手に入りましたし〜。

**ヴァル：**よし、気を取り直して。「じゃあ、そのバフォメットについて、教えてもらおうかなー」 ルノーの上によじのぼって乳房に甘えつつ聞いてみよう。

**ハル：**「どんな方なんでしょう〜」 こちらも射精したばっかりのペニスに奉仕です〜。

**ルノー（ＧＭ）：**「ふぁ……バフォメット様は魔族全てを快楽の中に封じ込め、モンスター主導の世界を築くおつもり、だっ」 ヴァルを巨根に跨らせ、乳房の枕に頭を挟むようにして教えてくれる。

**ヴァル：**「……でも魔王ってことは、そいつ魔族なんでしょ？」

**ハル：**「すると、わたしやヴァル様もモンスターの奴隷になっちゃうんですか〜？」 発情顔で亀頭に頬ずりしながら〜。

**ルノー（ＧＭ）：**「魔族は異形モンスターの群れ

---

**奉仕**
魔族がエロいことをして存在性を昂ぶらせ、ダメージを回復すること。

**以上で**
誘惑・調教・奉仕などにおける演出は、どこで終わりなのかＧＭや他のＰＬに分かりにくい。オンラインセッションでは、そろそろ判定、という意味を込めて「以上」とつけるといい（ここからの本文では省略する）。

**取り出す**
ヴァルはアイテム『責め具一式』を持っている。このため、淫具演出をした方が判定では有利なのだ。

**特別に＋６**
通常、演出によるボーナスは＋５までである。しかし、今回のヴァルのように奴隷の利点を説いていたり、情を抱くような演出をしたりすれば、ＧＭ権限でそれ以上のボーナスを与えてもいいだろう。もちろん、毎回行ってよいことではない。

**消えていった**
主が死亡したり奴隷になったりすると、その奴隷は自動的に安全な場所に逃げることができる。奴隷にした相手が持っていた奴隷を手に入れることはできないのだ（配下系アイテムを除く）。

に放り込まれるか、穴奴隷にされ……る。魔界をモンスターの世界に変え、自らが唯一の魔族となるおつもりなのだ……っ」 ルノーのペニスは淫香を放ちハルを昂ぶらせつつ。二人の奉仕に喘いでいる。

**ヴァル：**「そんなややこしいことしなくても、魅力的な相手がいればみんな従うと思うけどねぇ」 胸を揉んだり吸ったりしてるー。

**ハル：**「……そっ、そうですよねぇ～！　別にやましいことは考えてませんよ～」 その様子を妄想していたので、慌てて取り繕ってます。

**ルノー（ＧＭ）：**「バフォメット……は、多くの人間界で信仰を得た。多数のモンスター奴隷もいるっ、我も既に幾人もの魔族を送った……っ」

**ヴァル：**「鼻持ちならないなぁ。ちょうど大物の奴隷が欲しかったし……」 バフォメットに「様」をつけるのをやめたね（にやり）。

**ハル：**「そのバフォメットさんもやっちゃいましょうかー？」 無責任に煽っておきましょう。負けてもハルは安全に逃げられますし！

**ヴァル：**「そうだねー。でも、まずは手下の子たちからかなー。ルノー、他の手下のアジトも知ってるよね？」 さすがにいきなりは挑まないよ！（汗）

**ルノー（ＧＭ）：**「っ……我はこの森を任されていた。しかし、この一帯にもその勢力は多い……っ」 再び射精してハルの顔に噴水のような精液を浴びせつつ。いくつかの候補地を教えてくれる。ここは二人で、どこに行きたいか決めるのだ！

**ヴァル：**なるほど！

**ハル：**「あはっ♪」 決定はヴァル様に任せてルノーにご奉仕ご奉仕♪

彼女は誰の奴隷なのだろう。

**ＧＭ：**では候補地だ。

**→クラーケンの湖**
**→マイコニドの森**
**→フェンリルの山**
**→デュラハンの魔都**
**→リッチの地下迷宮**
**→サラマンダーの城**

**ヴァル：**マイコニドだけ上級魔人級か。順当にいけばそこかなあ。

**ハル：**クラーケン、フェンリル、デュラハン辺り、すごい無理臭がします……。

**ＧＭ：**どれもボスがコレってだけで、他のモンスターもいるよ。

**ハル：**うーん、やっぱりマイニコドでしょうか。

**ヴァル：**だよねー。

**ＧＭ：**では今日はここまで。次回はマイコニドの森へ！

**ハル：**はい～、また続きをよろしくお願いします。

**ヴァル：**じゃあＤＰもらえるかな！

**ＧＭ：**そうだね、アイテムや呪文の獲得はナシ。**セッション達成分**として５DP を二人に。それとヴァルはルノーを奴隷にした分で 10DP、使わなかったハルの★分で１DP……つまり、ヴァルに 16DP、ハルに５DP だね。

**ヴァル：**了解！　まずは置いとこう！

**ハル：**次はハルも**奴隷を手に**入れたいですね～♪

**ヴァル：**そういえば、ルノーがいるから、これからはいつでもハルを発情状態にできるな！

**ハル：**あわわ、好きに発情させられちゃうんですか！

**ＧＭ：**元々発情してるようなものだろう。

**ハル：**いやまあ、えへへ。

**セッション達成分**

今回はキャンペーンということで、成長を促進するために従来のルール以外にも特別にＤＰを与えている。ＰＬに甘く見えるかもしれないが、テンポよくキャンペーンを進めるには必要な処置である。

**★**

正式名称ダークスター。表記上は★で表される。一つ使えば出目を６に変換でき、気軽にクリティカルを発生させることができる凄いポイント。

**奴隷を手に**

奴隷となったキャラクターは、それまで所有していた奴隷を全て失う。しかし、新たな奴隷を持つことができないというわけではない。

## ◆サバトマスター（★★）

**知能**：高い
**会話**：可能
**攻**：８　**受**：６　**ＨＰ**：４５

**＜暗黒撃＞**：攻撃／２０ダメージ（闇）
**＜サバト＞**：攻撃／最大で３体の対象に陵辱・調教を行ってよい
**＜淫香＞**：視界内の任意の女性・両性具有に『発情０』（常時発動・抵抗不可）

ミノタウロスの亜種。魔王バフォメットが化身として創り出した山羊頭の怪物である。人間たちがイメージする典型的な「悪魔」であり、通常のミノタウロスとは比べ物にならない高度な知性を持つ。身長は３メートル以上あり、歪曲した長い角と豊満な乳房、巨大な陰茎を持つ。個体によっては黒い翼を持つこともあるが、飛行能力はないようだ。

体からは強烈なフェロモンを発しており、たいていは無数の下級モンスターや魔族に囲まれて淫らな宴を繰り広げている。特にダムンドやブラウニー、ハーピー、ゴブリンなどが参加していることが多い。基本的に魔王バフォメットの代理人として魔界や人間界で小規模な領地を支配する存在であり、自身の支配領域を動くことは少ない。立場上、その階級にふさわしからぬ大規模な奴隷を抱えているため戦うならば注意が必要だろう。さらに、心すべきはそれだけではない。サバトマスターは基本的にバフォメットの奴隷である。ゆえに、このモンスターを倒し奴隷とすることは、それ自体が魔王バフォメットへの明確な敵対を意味するのだ。

## サ　バ　ト　と　は

基本ルールブックP92『アンコモン呪文表』において、同名の呪文がある。これは歴史長き魔王バフォメットが編み出した呪文だ。また、サバトマスターと呼ばれるモンスターが、自らの特殊能力によって開く淫らな宴もまた、サバトと呼ばれる。

共通項は広範囲に対する発情効果。

魔界において、サバトとは参加者が欲情し退廃の中で溺れあい快楽を貪り合う乱痴気騒ぎ、パーティー、宴会だ。モンスターも魔族も好きに参加し、飽きれば離れ、適当に熱が冷めれば解散する。

古き魔王バフォメットが象徴する、ひとつのスタイルにすぎない。

流行の様式として他の魔界にも広がり、特に退廃界などではお決まりのパーティースタイルだ。忘却界においても所得層を問わず、あるいは秘めやかに、あるいは公然と、行われる祭りの様式と言えるだろう。

魔界のサバトとは、それだけのものにすぎない。

とはいえ、人間界ではさにあらず。

バフォメットは古き魔王にして、人間界にも少なからず影響を持つ。支持者も多い。

人間界におけるサバトは、魔界のそれとは意味も異なり、スタイルも微妙に異なる。

それは不徳、不倫理の実践場であり、ある種のイニシエーションだ。

人間と言う矮小な生物が、魔界の価値観になれるための儀式。

ソウルを得るために、同族を殺す。

怪物との情交に備え、獣と交わる。

快楽に狂わぬように、秘薬を飲む。

その儀式は一定の周期によって繰り返し行われ、多くが狂い、壊れ、死んでいく過酷なものだ。

死者はそのまま、主催者のソウルとして懐に入る。

しかし、中には快楽への稀有な才能を見せる者も現れる。

彼ら、快楽の覚醒者たちは、人でありながら魔族に近しい者たちだ。

美貌と若さを与え、他の参加者の羨望を受けさせながら……サバトの主催者は、彼らに真の魔術と快楽を教えていく。

主催者（多くは魔界の魔族や怪物）と交わり、教え込まれるのだ。

この段において脱落しても、もはやソウルとなることはない。

ダムンドとして主催者の奴隷となり、魔界に連れ去られようとも永劫の快楽の中で生き続けることが約束される。

そして、主催者との度重なる交わりにも溺れきらず。

魔族として恥ずかしくない実力を得た者たちが、魔界における一角の魔族となることを許されるのだ。

彼女ら、彼らは魔道士や狂王、または吸血鬼カテゴリの魔族として魔界を跋扈する。多くはサバトの主催らの奴隷として従い続け、主催者の勢力を強固なものとするのだ。

サバトマスター以外のモンスター、魔族にとってこれはあくまで娯楽。

自らを神とする教団を運営するよりは、曖昧な基準で活動できるため、人気の高い様式に過ぎない。

魔族の中でも、血なまぐさい活動を好まない者は、人間界でこうした活動をとることが多い。

スカウトと小遣い稼ぎ、何より暇つぶしとして最適だからだろう。

事実、人間界で行われるサバトには、バフォメットと何の関連もない魔王や魔将が片手間で行うもの、ある程度の知能持つモンスターが辺境で崇拝対象として執り行っていることも少なくない。中には、不心得な人間が勝手に魔族の名を騙り行っていることすらあるのだ。

魔王バフォメットはこうした、サバトの流行と曖昧化について、特に注意は向けていない。もっとも、配下であるサバトマスターたちが、人間界での一部のサバトに怒りを下した例は少なくないという。

# 魔族たちの人生観

当たり前のことだが、魔族は人間ではない。
ゆえに、多くの価値観が異なる。
人間と同じ価値観を持つ魔族がいないわけではないが、それはごく少数派である。よく言って個性的、悪く言えば変人の部類なのだ。
これは『絶対隷奴』を楽しむ上で、覚えておいた方がいい。それゆえに、人間たちが主人公ならば考えにくいことも、多々起きている。

ゲームとして遊んでいれば必ず気づくことだが、魔族たちは無限に近い時間を生きるにも関わらず、かなりのスピードで成長する。
魔人が一月も経たぬ内に魔王となってしまうことすら、あるだろう。
ならば、魔界はすぐに魔王で満ち溢れ、下級の魔人や魔族などいなくなるのが当然ではないだろうか？
残念ながら、そうはならない。
なぜだろうか？

それは多くの魔族が「成長を望まない」からだ。
大半の魔族たちはDPを手に入れたとしても、アイテムや呪文、振り直しなどに使ってしまう。手に入れたアイテムや呪文も、ソウルに変えて遊びに使ったり、ちょっとした贈り物に使ったりしてしまうのだ。
下級魔族であっても、ダムンドやオーク相手に十分に楽しむことができる。
飢えることはない。
年老いることもない。
病に苦しむこともない。
見栄を張る必要などない。
嗜好品として飲食物が欲しいなら、少し物乞いの真似事をしても、ちょっとした性的な奉仕をしても、得ることは簡単だろう。
家住まいしたければ奴隷や娼婦になってもいい。個室程度はどこでも与えてくれる。
衣服を着ずに全裸でいても、とやかく言う場所は少ない。あるとすれば羞恥心を“楽しむ”ための場所だ。何より、基本的に大半の魔族は自らの瘴気を物質化して自身の衣装を作り出す能力を持っている。
快楽娯楽となれば、なおさら困るものではない。特殊なものはソウルが必要だが、自身が絶世の美男美女であり、周囲も種々多様な美男美女で溢れている。趣向を変えたければオークやヘルハウンドに尻を振ってもいい。沼地に入り込めば、スライムやテンタクルスも相手をしてくれるだろう。
奴隷になるリスクを気負う魔族も少ない。
何千年何万年も飽きずに奴隷にし続ける主人などいるはずもなく、通常は数ヶ月、長くとも百年程度の付き合いだ。積極的に奴隷を増やす主人なら、奴隷同士で戯れる機会にも困らない。

つまり、魔族に生まれた……あるいは、魔族となった時点で、努力など必要ないということだ。
魔人ともなれば、多くの欲求を満たすことはたやすい。
一部の趣味に没頭する者はそれなりにいる。
しかし、それは単なる趣味だ。
彼らは片手間で、活動する。
日々を楽しむこと、怠けることを重視し、魔界の瘴気の中でたゆたうように日々を過ごし。
やがて一日という境界も曖昧になり、世界の中へと溶け込み背景の一部がごとき存在となる。
これを読むあなたが、同じ境遇を手に入れた時、そうならないと断言できるだろうか？
何もしなくても十分満たされる日々、何のリスクもなく欲しいものの大半は得られる日々。

そんな中で、どれだけの魔族がリスクを負って上のステージに上がろうと、努力するだろう？
元が人間であっても同様だ。
相応の苦難の果てに得た桃源郷の日々。それに溺れず、更なる高みを目指せる者がどれだけいるのか？
どの魔族も、己が魔王になりうる存在だと知っている。
なら、“なりうる存在”で十分ではないか？
快楽と怠惰の日々を捨て、今日から魔王になろうと頑張れるか？
答えは否である。
ただ、自らのいる環境が劇的に変わり、己にとってそこがそぐわない時のみ。
魔族たちはのそのそと移動を始めたり、消極的な努力を開始する。
大半の魔族はそうなのだ。
努力しないことを咎める者もいない。
努力しなくても、魔族は十分に強いのだから。

そんな中で、プレイヤーが操る魔族たちは上昇志向を持っている。生き飽きた末か、人の頃の野心か、私的な復讐か。ともあれ、何かを持っている。
彼らは上級魔人を目指し、魔将を目指し、魔王を目指す。場合によっては魔界王を追い落とし、大魔王すら目指すかもしれない。
しかし、大魔王を目指す魔界王はそれなりに居ようとも、大魔王の現れる気配はない。
それも多くの魔界王たちが、一つの小魔界を獲得した時点で満足してしまうからだ。
一つの世界を自由に作り変え、己の色に染め替えることは至福である。
しかも想像力さえあれば、いくらでも細部まで己の価値観と妄想を反映した魔界となる。
一つの自我が覆い尽くすには、たとえ小魔界であろうとも世界は広い。全てを理想とし、全てを望むままに変えるには、いくら時間があろうと足りはしない。
新たな次の世界を必要とする魔界王は少ない。
そして、新たに得たとしても。
二つの世界を管理するだけで満たされてしまうのだ。
むしろ、魔王や魔界王となったことに満足し、飽きて自ら引退を決める魔王の方が遥かに多い。およそ数百～千年を経た魔王たちは、手に入れた力の大半を捨て、一部の寵愛する奴隷だけを囲って隠遁生活を始めるのだ。
大魔王の条件を満たす魔界王が現れる様子は未だない。

かくして、停滞した社会に生きる魔族たちだが、皮肉にも天使たちの駐屯・侵攻が停滞した空気を壊す。
自らを滅ぼしうる存在、そして向けられる殺意に。
魔族たちは大いに焦り、活性化する。
放棄していた努力を取り戻し、力を蓄え、武装し、子を産み、強大なモンスターを配下に加える。
天使と勇者の侵攻が深刻化すればするほどに、魔族は本来のポテンシャルを発揮して凄まじいスピードで強化されていくのだ。ともすれば、魔界王級の魔王複数による議会制となった魔界すらあるという。
残念ながら、これは魔族同士の衝突では起こらない。
一部の偏った価値観を持つ魔族を除き、大半の魔族にとって戦争とは馴れ合いの娯楽イベントだ。奴隷を獲得したり、奴隷にされたりして、一定期間の気分転換を楽しむ。
こうした魔族の常識において、疫病界で権勢を誇るアーバイン軍（基本P109、永劫P55）は実に異質の勢力と言えるだろう。

# 第２話　菌類帝国

奴隷にしたサバトマスター、ルノーの案内で**マイコニド**の森へ向かう二人。
その森は精臭ただよう異形の森であった！
木々はほぼ立ち枯れて。
無数のピンクや肌色、褐色、紫といった色合いの隆々とそそり立つ茸に覆われている……！
マイコニドの操る肉茸の猛威に、二人の間に緊張が走る！

**ヴァル：**「（性的な）話し合いでわかってくれるといいなー」 森の様子に期待でドキドキしてる。
**ハル：**「す、すごい光景ですね……（ごくり）」
ペニスそのものにしか見えない肉茸が広がる様子に、しっぽをぱたぱた振っちゃいます。

魔族の緊張はこんなものである。

**ルノー（ＧＭ）：**「注意しておけ……何がいるかわからん」 二人に注意を促してくる。
**ハル：**「そうですね、何かモンスターが隠れてるかも……」 一応、警戒しときましょう。

ここで二人は、誘惑判定。
判定と言えば普通、成功すべきものだが。
この判定はどれだけのモンスターが二人に引き寄せられて来たかを決めるものであった。
当然ながら二人には何も教えない。

**ハル：**３成功ですー。
**ヴァル：**４成功！
**ＧＭ：**では、茸の塊と思えたものがごそごそと動き始める。
**ヴァル：**おおっ？
**ＧＭ：**群生した肉茸と思われていたものが、ぬらりと一気に丈を伸ばす。先端が全てペニス状になった**テンタクルス**が三体現れる。色とりどり、形もさまざまな、ペニスの塊が三人に襲い掛かってきた！
**ハル：**えー！
**ヴァル：**多いー！
**ＧＭ：**さらに肉茸から大量の精液を吸い取って真っ白な精液**スライム**が樹上から落ちてくる……！
**ハル：**多すぎですよ！
**ヴァル：異形モンスター**ばっかしじゃん！　勘弁してよ！

多いように見えたが、ルノーがテンタクルス２体を相手してくれる。
二人の相手はテンタクルスとスライム、１体ずつだ。
★１つのモンスター２匹、魔人二人の前には楽勝と思われた……が。

思わぬ長期戦。
何とか倒すことはできたものの、ヴァルはさんざんスライムに搾られ、PP がボロボロになってしまった。

**ヴァル：**「うーっ……、もう疲れたー……」 どろどろじゃないか～。
**ハル：**「危うくスライムに取り込まれるところでしたね～」 ヴァル様に奉仕しようと思いますけど。
**ルノー（ＧＭ）：**「はぁはぁ……しぶといテンタクルスだった……」 ルノーも**さんざん**テンタクルスに嬲られたようだ。

**マイコニド**
ところかまわず男性器そっくりのキノコ「肉茸」を生やして回るフタナリ少女モンスター。魔法も使えて、けっこう強い。

**テンタクルス**
要するに触手。ジャンルを問わずエロゲの超基本モンスター。

**スライム**
某忍者砦以来、ファンタジーでエロシチュと言えばこのモンスター。

**異形モンスター**
特殊能力＜異形＞を持つ一連のモンスターたち。誘惑も調教も奉仕も通用しない、ヴァルのようなエロ専魔族には天敵のような存在だ。

**さんざん**
ルノーはＰＣである二人が勝利すれば自動的に勝利、となっていた。つまり二人が長期戦に入ると、おのずとルノーも長期的に……。

しかし、一息つく暇はない！

よく見れば、森のそこかしこに白いスライムが蠢き、無数の肉茸を同時に咥えこんで精液を吸い搾っている。そして、次々と伸びてはそこに先端を突き込んでいるものは……マイコニドによる肉茸ではなく、すでにテンタクルスだ。

**ヴァル：**「うわっ、いっぱいいる！」
**ハル：**「す、すごいですね……（ごくり）」 そんな森の様子に、湧き上がる肉欲を抑えてます。
**ＧＭ：**無数のスライムやテンタクルスは、じわじわと三人に近づいて来るように見えるぞ。
**ヴァル：**「ルノー、そいつがどこにいるか知らないの！？」 あわわ、奉仕してもらう暇がない！
**ルノー（ＧＭ）：**「森の奥だ。連絡用の道がある」
**ヴァル：**「よっし、行こう！」 とりあえず**魔奴隷**効果でPPを10点回復しとく！

巨体では狙われやすいと見た二人。
ルノーを闇の牢獄へ収め、森の奥へ向かう！
そこには半ば肉茸に侵食された屋敷が！
屋敷の周囲にはいくつかの家もまばらにあり、元は魔将の領地だったことがわかる。

**ヴァル：**「ここ、だね」
**ハル：**「すごい繁殖力ですねぇ～」 しげしげ。
**ヴァル：**「元領主の人もいるかもね」 入口に門番とかいる？
**ＧＭ：**門番はいない。その代わり、屋敷の壁とか屋根とかあちこちにスライムやテンタクルスが蠢いているね。
**ハル：**すばやく入らないとひどい目にあうわけですね。性的に。
**ヴァル：**じゃあ、さっさと屋敷の中に入ろう！
**ＧＭ：**では、小さな肉茸のいくつも張り付いた扉が開く。中からは無数の男女のすすり泣くような喘ぎ声が聞こえ。さらに、凄まじい精液臭が二人を包んでくる。
**ヴァル：**「ふあっ……♪」 ルノーやハル相手だとお尻は**使ってない**し、そっちが疼いたりとか！
**ハル：**「っっっ！！？」 凄まじい精液臭に、思わず悶絶です。

中は本来ホールだったのだろうが、今は床が腐敗してわずかな端を残すのみ。
剥き出しの地面は抉られ、無数のテンタクルスとスライムが蠢いている。
そこには数十人の魔族が囚われ、触手と粘液に終わることのない快楽を与えられている……触手と肉茸、それに魔族たち自身が、大量の愛液と精液を撒き散らしていた。

**ヴァル：**「うわぁ……」 予想はしてたけどすごいな！
**ハル：**「すごい光景ですね～。なんだか気持ちよさそうな顔をしてますし……」
**ヴァル：**あれ全部奴隷にしたらステキなDPが得られるな！
**ハル：**混ざったら気持ちよさそうですね！
**ＧＭ：**スライムとテンタクルスはざっと見て、それぞれ３個**中隊**ずつってとこか。合計600体。囚われてる魔族は魔人が大半で、わずかに上級魔人が混ざるのみだ。
**ヴァル：**迂回していこう。
**ハル：**迂回していきましょう。

ここで魔族らしからぬ冒険者的判断を行えるのが、ＰＣとＮＰＣの違いである。

**ＧＭ：**残った床の縁を歩いて行けるよ。穴の中の惨状がじっくり見物できる。穴という穴を触手で犯され、体中を粘液に這い回られ、白目を剥いている。
**ヴァル：**「僕もあれくらい、いろいろ使えたらなあ」 それはじっくり見ちゃうね！
**ハル：**「羨ましっ……って、いけないいけない」 混ざりたい気持ちを我慢しつつ。
**ＧＭ：**では何とか奥へたどり着く。二階への階段と、奥への扉があるよ。
**ヴァル：**ボスはきっと二階だね！ 二階に行こう！

**ＧＭ：**二階は床も壁もほとんど肉茸で覆われているが……二つだけ覆われていない部屋がある。領主の部屋と使用人部屋だ。
**ハル：**使用人部屋の方がなんだか怪しく見えますね。

**魔奴隷**
魔族の基本回復アイテム。外見や設定、描写は自由。当然ながら、ヴァルの魔奴隷はハルである。

**使ってない**
ルノー相手なら使えるじゃん、とおっしゃる変態紳士も読者諸兄にはおられるだろう。しかしＧＭが拡張＆ボコォＮＧである。エロセッションでは、参加者同士の性嗜好を尊重し合わなくてはならない。一般的なセッション以上の協調性が求められるのだ。

**中隊**
100体のモンスターが集まった際の集団として強化されたデータのこと。全体攻撃にこそ弱いが、攻撃回数やHPは油断できない。

**ヴァル：**じゃあそっち先に見てみよう。
**ＧＭ：**では二人とも情報判定……成功したか。じゃあ、使用人部屋と領主の部屋は頻繁に行き来されているようだ。使用人部屋の中からは、小さな嗚咽が聞こえる。
**ハル：**「ここからも喘ぎ声が聞こえますね～」

喘ぎ声とは言っていない。

**ヴァル：**開けてみるよ！
**ＧＭ：**室内は肉茸でびっしりだ。精液臭もすごい。中央にはアイマスクとボールギャグをつけられ、緊縛された**魔将**がいるよ。
**ヴァル：**前の領主の人来た！　これで勝つる！
**ハル：階級が上で★**にならないのが残念ですねー。

もう奴隷にしたつもりである。

**ＧＭ：**魔将さんはエルフ耳に、植物の髪、鹿の角を生やしたお姉さんだ。当然ながらいやらしく拘束され吊るされている。
**魔将（ＧＭ）：**「ぅー！　うぐー！」 誰か来た気配を感じてもがくが、体勢上お尻をくねらせることしかできない。
**ヴァル：**アイマスクとボールギャグ外してやろう。
**ハル：**「まあ……どんなことをされたんでしょう」 ドキドキしてます～。
**ＧＭ：**二人とも近づけば気づくけど、拘束された脚の間の下には香炉があって、そこから催淫ガスがとろとろと立ちのぼり、彼女の股間を炙っている。PP ０の、調教されたら誰の奴隷でもなってしまう状態だ。
**ハル：**「……なんて酷い」 拘束も解いてあげましょう。
**ヴァル：**「ありゃ、いい眺めなのにもったいなーい」
**魔将（ＧＭ）：**「ぷはぁっ……だ、誰ですのっ！」
　延々と催淫ガスで炙られた彼女は絶賛発情中だ。
**ヴァル：**「大声出さないでっ。お姉さん、誰？」
**シルヴィア（ＧＭ）：**「あ、あなたたちこそっ、誰ですかっ。わたしはシルヴィア、この森の領主……だった者です」 息を荒くしながら、なんとか答えてくれる。
**ヴァル：**「僕はヴァラック。いろいろ聞きたいことはあるけど……とりあえずハル、奉仕して？」 このままラスボスだとヤバイよ（笑）。

　序盤戦でボロボロになったヴァルは、MP と PP がほとんど回復していない。
　奉仕してもらえる機会を伺っていたのだ。

**ハル：**「あらあら、ヴァル様ってば……シルヴィアさんに興奮しちゃったんですか？　こんなに大きくして……ん、はむっ」 嬉しそうに跪いていそいそと、ヴァルのパンツをおろして、むしゃぶりつきます。手で陰嚢とお尻も、気持ちよくしたげますね。
**シルヴィア（ＧＭ）：**「えっ？　えっ？　……そ、そんな、目の前で」
**ハル：**「んっ、わぅっ、あぐっ……こちらも気持ちよくなりたいですか？」 ヴァル様のお尻もいじってあげましょう～。
**ヴァル：**「んっ、うん……っ、気持ちよくしてっ！」 我慢とかしないで、ハルの口にびゅるびゅる射精するよー。
**ハル：**「んっ……はふ……っ」 じゅるじゅる精液を飲み干しつつ……**それから、メガロファロス**の呪文を唱えます。お尻希望だそうですし！

ハルの股間にむくむくと男性器が生える。

**ヴァル：**「はぁ、はぁっ、シルヴィアさんも、したいんでしょ？」
**シルヴィア（ＧＭ）：**「そ、それは、まあ……わたしも、その……」
**ハル：**「ヴァル様、参りますねっ！　シルヴィア様も、ヴァル様を慰めてさしあげてください……っ！」 ヴァル様のアナルを一気に貫きます。
**ヴァル：**「んんっ♪　ハル、犯してっ♪　シルヴィアには、僕のあげるよ……っ」
**シルヴィア（ＧＭ）：**「う、うう……す、すみません、わたしもっ！」 目の前の痴態に我慢できなくなって、ヴァルに尻を突き出してくる。
**ヴァル：**「僕もっ、入れるぅっ！」 犯されながらシルヴィアの秘所に後ろから挿入して、アナルも悪魔の尾でズボズボ犯してあげるよ！

**魔将**
　魔族は互いの階級を一目で判断できる。特殊な呪文やアイテムを使わなければこの階級認識を間違うことはない。

**階級が上で**
　魔族は同じ階級かそれ以下の者を奴隷にした時しか★を得ることはできない。

**それから**
　そろそろ、邪魔な判定文は欄外にて。ハルは奉仕に＋３のボーナスを受け、４成功した。ヴァルは 12 点の回復である。

**メガロファロス**
　ナニを生やしたり大きくしたりする呪文。

**ハル：**「ふあぁぁんっ！　ヴァル様の中、やっぱりイイっっ！！」
**シルヴィア（GM）：**「ひぁっ……ぁっ！　両方っ……嬉し……ぃひぃっ！」 両穴を犯してやれば、飢えきった体はすぐに絶頂し、ヴァルのものを搾ってくる。
**ヴァル：**「お姉さんのおまんこっ、すごいっ、僕のおちんちん絞られてるっ♪　あはああぁぁっ♪」
**ハル：**「ヴァル様の中、熱くてキツくて、すぐイッちゃいますぅっ！」 射精しながら、腰を打ち付けちゃいます。
**ヴァル：**「はひいいぃっ！　熱いの出てっ、出てるのにかき混ぜられてるよおぉっ♪」 びくびくと全身を痙攣させて腸内射精されながら、シルヴィアのお尻にしがみついてこっちも射精ー！
**シルヴィア（GM）：**「いひぃぃぃ！　精液いいぃ！！」 もうイキっぱなし。
**ハル：**「またっ、また出ますっ！　オオッ、オオォォォオン！！」 **獣の咆哮**をあげつつ、また射精～。
**ヴァル：**「ぼ、僕のお腹、ハルの精液でいっぱいになっちゃうよぉっ」 つられて**連続射精**。

　そうして、三人でバターになった後。

**シルヴィア（GM）：**「はぁっ、はぁっ……あ、あの子を、なんとかしないとっ。捕らえられた領民たちも取り戻さなくては……」
**ヴァル：**「うんっ、その後でまたしようね？」
**ハル：**「その子ってのはマイコニドのことですか～？」
**シルヴィア（GM）：**「は、はい、実は……」

　シルヴィアはこの領地“安らぎの森”の領主だった。しかしある日突然、配下のマイコニドが裏切ってシルヴィアを奴隷に変え、自ら領地の支配者となる。
　マイコニドの名はロベリア。
　ロベリアは魔王バフォメットの支援を受け、通常のマイコニドを超えた力で異形モンスターを支配下に置き、彼らを率いてファンガスクイーンと名乗っている。
　かつてはシルヴィアによくなついていたのに、今では監禁し陵辱してくるばかり……。

**ハル：**「でも、他の魔族は集団でぐちゃぐちゃに犯されてましたよねぇ」
**ヴァル：**「特別扱い……シルヴィアを独占したかったのかなぁ」
**シルヴィア（GM）：**「……」 うなだれてる。
**ハル：**「ロベリアさんは、シルヴィアさんが本当に好きなのですね～」 微笑んで元気づけましょう。
**ヴァル：**「シルヴィアさんが話してダメなら、僕たちじゃ無理だよね……力ずくしかないかな」
**シルヴィア（GM）：**「ごめんなさい……きっと、あの子が悪いわけじゃないんです……」 ロベリアに悪意は持っていない様子。
**ヴァル：**「大丈夫だよ。どうせ悪いのはバフォメットなんだから！」 安心させるようにシルヴィアをなでなで。
**ハル：**「もう一回くらいしたいですけど……そろそろ」
**ヴァル：**「うん！　行こう！」 では、シルヴィアも連れて領主の部屋へ！

**ハル：**「……ヴァル様お気をつけて」 警戒しつつ扉を開こう。
**ヴァル：**「お邪魔するよっ」 どうせ気づいてるだろうから、堂々と入ろう！

　が、魔界はＰＬが思う以上におおらかである。

**ロベリア（GM）：**「すぴ～　……うにゃぅ……しるびあしゃま……そんにゃ……ぁ♪」 マイコニドが部屋の中央で、すひゃーと緊張感のない寝息をたてている。まだまだあどけなさの残る彼女は、口元からはよだれもたらしている……。
**ヴァル：**ぜんぜん、気づいてねぇー！
**ハル：**なんか、かわいいですし！

　もっとも、部屋の中は、無数の触手と肉茸で覆われている。
　無邪気に眠るロベリアの膣穴と菊座は、ずっぽりとその肉茸が入り込み犯していた。

**ハル：**「あらあら♪」 きっと魔界的にはすごく微笑ましい光景なんですよ！
**ＧＭ：**ロベリアは寝ているが、触手が君たちを迎え撃つように襲い掛かってくる！
**ヴァル：**ぎゃー。まずはこれを片付けないと！
**ロベリア（GM）：**「ふにゃぅぅん、そんなにしめつけちゃ……だめですよぉ……♪」 寝言で

**獣の咆哮**
　リアルリアリティ的に敵地でそれはどうなのだろう。

**連続射精**
　ここで全員＋５で調教や奉仕を。ヴァルは調教で４成功、順当にシルヴィアを奴隷化。ハルとシルヴィアはそれぞれ奉仕して、ヴァルを全快させた。

言いながら、マイコニド特有の巨根でぴゅっぴゅっと夢精してる。
**ヴァル：**「うー、ずーるーいーずーるーいー！　僕もだらだら気持ちいいことしたいのにっ」
**ハル：**「そうですねー、ヴァル様の奴隷にしちゃいましょう」
**ＧＭ：**この触手と肉茸の群れは一体の**ラルヴァ**として扱う。これを倒すまで、ロベリアを対象にしたりダメージを与えたりはできないよ。
**ヴァル：**って、ラルヴァか（素に戻って）。通常と闇無効じゃ勝てない！
**ハル：**うう、わたしの死神の鎌も通常属性ですよ。
**ヴァル：**15DP 使って別属性の装備か呪文を手に入れるしかないか……。
**ＧＭ：**あ。ラルヴァがダメージを受けるごとにロベリアが起きるかどうか判定するよ。起きたらロベリアも同時に攻撃してくるからね。
**ハル：**ああっ、そっと激しく叩かないとっ。
**シルヴィア（ＧＭ）：**「あ、あそこに、わたしが使っていた武器がありますっ……あれを使えば！」

シルヴィアが部屋の一角を指す。
そこには触手に埋もれるようにして、一振りの剣。

**ＧＭ：**一人なら２ターン目終了時、二人がかりなら１ターン目終了時に剣を手に入れることができる。
**ヴァル：**「ま、まずはアレを取りに行こう！」
**ハル：**「はいっ！」

**●第１ターン**
武器を取りにいく二人にも、敵は容赦しない。

**ＧＭ：**じゃあ、二人に**＜無限輪姦＞**で陵辱！　ハルに６成功！　ヴァルには５成功！
**ハル：**抵抗も０成功で負けました〜。
**ヴァル：**３成功で負け〜。
**ＧＭ：**では、剣を取りに向かう二人に、触手が群がり絡みつく！　足下から大量の肉茸が雁首を伸ばし、脚に擦りつけられる！
**ハル：**「きゃうっ！　こ、攻撃さえ効けば……」
**ヴァル：**「は、早くあの剣を……！」
**ＧＭ：**触手たちは、無数の肉茸の上に腰を下ろさせる！　粘液まみれの触手が二人の股間をぬらぬらと擦り。肉茸が肉孔に押し付けられる……というわけで二人分だし少なめで調教＋２いただいて、４成功！
**ヴァル：**「ひゃうっ、まっ、まだまだー！」　へたりこみつつも抵抗成功！
**ハル：**「き、気持ちよさそ……あうぅっ！？」　失敗です……思わず腰くだけになっちゃいます！
**ＧＭ：**では、ハルはびっしり肉茸の生えた床にしゃがみこまされ。下から突き上げるように伸びる肉茸に、両穴を犯される。
**ハル：**「ああっ……そんな、両方……わうぅぅぅんっ！！」
**ヴァル：**「くそーっ、僕の奴隷に手を出すなーっ！」
**ハル：**「ヴァ、ヴァル様ぁっ、すみませんっ！　武器を〜っ！」　ずんずん脈動する肉茸に蕩けちゃいます……。
**ＧＭ：**では、お待ち兼ねのターン終了だ。剣を手に入れていい。
**ヴァル：**「ハルっ！　これをっ！」　というわけで、剣を手に入れてハルに投げ渡すよ！
**シルヴィア（ＧＭ）：**「そ、それを使えば、この触手や肉茸も倒せるはずです！」　その剣は**アンコモン**アイテム「**封魔剣**」だ！　剣の形をしているが、持ち主の好みで**変形**させていい。
**ヴァル：**うわ、強い！
**ハル：**じゃあ、受け取ったら剣がむくむくと形を変えて…ハルの腕にガントレットとして装着されます！

**●第２ターン**
**ロベリア（ＧＭ）：**「ふぁぁん……やだぁ……しるびあしゃまったら〜」　寝ながら腰使って、二本のペニスに貫かれて悦んでる。
**ヴァル：**ちくしょう、羨ましいなぁ！
**ハル：**「これでっ……ヴァル様、今助けますから

**ラルヴァ**
悪霊集合体。単体で輪姦モンスター。PP ダメージやバッドステータスだけでなく、通常属性と闇属性のダメージまで無効化するため、多くのキャラクターにとってどうしようもない敵である。

**第１ターン**
この戦闘での行動順は、ハル→ロベリア→ヴァル→ラルヴァである。シルヴィアは戦闘に参加していない。

**＜無限輪姦＞**
ラルヴァの特殊能力。１ターンに２回、陵辱や調教をする。

**アンコモン**
通常のアイテムや呪文よりも希少で持つ者が少ないアイテムや呪文を示すグレード。さらに希少なものは「レア」と呼ばれ、全魔界でも数個しかないらしい。

**封魔剣**
アンコモンアイテム。氷属性で、HP だけでなく MP にもダメージを与える武器。呪文メインの魔族には天敵だ。もっとも、この戦闘では氷属性という点が要点。

**変形**
絶対隷奴のアイテムや呪文は相当品ルールを推奨している。自身の肉体能力にしたり、バイブレーター型「魔奴隷」やローブ型「暗黒甲冑」なども可能だ。

ね！」 触手に攻撃します！　う、０成功……。
**ＧＭ：**げ……失敗。
**ハル：**わーい！

　ダイスボットを使ったオンラインセッションは全てがオープンダイスだ。
　出目はそうそう空気を読んではくれない。

**ハル：**「すごい！　これなら……！」 23点氷ダメージ！
**ＧＭ：**痛ぁーっ！！　たった一撃で触手と肉茸の群れは半分以上が分解され、存在自体が抹消されていく！　っと、そうそうロベリアの**目覚め判定**……目覚めた！
**ハル：**あはは、やりすぎちゃいました（汗）。
**ロベリア（ＧＭ）：**「ひゃふんっ、そんなはげししゅぎ……ぃ……んっ？」 ぱちっと目を覚ます。
**ヴァル：**むしろ、よく今まで目が覚めなかったなぁ！
**ハル：**「あら？」
**ロベリア（ＧＭ）：**「なっ、なにもにょよ、アンタたひっ！　この菌類の女王！　未来の魔界神！　偉大なるファンガスクイーン！　ロベリア様の部屋に何勝手にはひっふぇるのっ！」 じゅるっと涎を拭き、目を擦って。
**ハル：**「どうしましょう……起こしてしまいましたね～」
**ヴァル：**「できれば話し合いで仲間になって欲しいけど……聞いてくれるつもりはないんでしょ？」
**ロベリア（ＧＭ）：**「はっ！　下級魔族二匹程度で、あたしと対等のつもり？　……って、しるびあしゃｍ……シルヴィア！　奴隷の分際で、魔界の帝王たるあたしに逆らおうってのっ！」
**ヴァル：**「素直に好きだからいっぱいえっちしたいって言えばいいのに」
**シルヴィア（ＧＭ）：**「もう、やめましょ？　ね、ロベリア……怒ったりしないから。みんなも、ごめんなさいって言ったらわかってくれるから」
**ＧＭ：**まあロベリアはこのターン、まだ半寝ぼけ状態なので何もしない。ラルヴァの行動は、二人にそれぞれ凌辱。ハルに１成功、ヴァルには３成功！
**ヴァル：**犯られたー！
**ハル：**「ああっ、ヴァル様っ！」 あ、わたしは抵抗成功です。
**ＧＭ：**背後で触手が絡み合い、ドリル状になって……ヴァルの菊座をずぶりと一気に犯してくる！
**ヴァル：**「んひあああぁぁっ、おひりいぃっ♪」
　舌を突き出してびくびくと痙攣。
**ＧＭ：**触手はそのまま、ずぶずぶと奥へ奥へ入り込んでくる。触手は、腸内で無数の舌と化し、腸壁をねっちりと容赦なく全て嘗め回してくるのだった。修正＋３で……あ。

　ここでクリティカルである。

**ヴァル：**抵抗できるかー！
**ＧＭ：**では、倍ダメージ。PPに20点だ。
**ヴァル：**「はぁっ、奥までぺろぺろされてぇっ！　お尻っ、とろけちゃうよぉっ♪」 あっさりと射精させられて。自分の精液まみれになりながら、手近な触手をしゃぶったり扱いたり始めるー。
**ハル：**「ヴァル様がすっかり堕ちてしまって……はぅぅ……」 主の痴態を見ながら自慰してます。あ、行動じゃなくて**演出で！**
**ヴァル：**くぅ、こっちは自分に奉仕っ。ロベリアと戦う前にPP少しでも回復しとこう。**描写はさっきの**で。
**ＧＭ：**では＋３でどうぞ。
**ヴァル：**げ、失敗。何もできないうちに戦闘**終わりそう**……。

**●第３ターン**
**ヴァル：**ここでハルが外したら触手とロベリアのダブルアタック……当ててー！
**ハル：**「ウォォォォーンッ！！」 咆哮をあげて、快感を打ち払うように攻撃！　４成功です！
**ＧＭ：**失敗……やられた！　その一薙ぎで、触手たちは完全に消滅する！

**目覚め判定**
　そんなルールはないので適当。２ＤＲで６以下が出れば覚醒。

**演出で**
　行動として自身に奉仕することをルール上で「自慰」と呼ぶ。ハルは単なる演出描写でしているだけと宣言しているわけだ。こうした描写は絶対隷奴では推奨される。

**描写はさっきの**
　性行為という相互行為を描写する以上、行動の対象となった側も一定のレスポンスは返すべきである。そして、内容が沿っていれば、それをそのまま自身の行動描写としてもいい。間延びしがちなエロセの時間短縮にもなるため、推奨されるプレイスタイルだ。

**終わりそう**
　本来、ＧＭはこう言われないよう考えておくべきだ。判定の出目も問題だったが、実際ここでヴァルに取れる行動は少ない。各ＰＣに見せ場を与えられるよう、シナリオは考慮すべきなのだ。

**ハル：**「ヴァル様っ、終わったらご褒美くださいねっ」
**ヴァル：**「うんっ……好きなだけあげるよっ」
**ロベリア（ＧＭ）：**「っ！　あたしの超進化型肉茸をよくもっ！　ただで済むと思わないことねっ！」
**ハル：**「えへへ～、こっちこそただじゃ済ませませんよ～」
**ヴァル：**「ここの子達みんな奴隷にして乱交パーティーしよう！」

どさくさにまぎれて何を言うのか。

**ロベリア（ＧＭ）：**「このぉ！　あたしに逆らった罪、思い知らせて……って、聞きなさいよ！！」 怒鳴ると同時に、ぼふんっと彼女の頭から大量の胞子が！怒りの催淫胞子を……あ。

さらにクリティカル。
ＧＭのクリティカル連発はＫＹ極まりないが。オープンダイスではイカンともしがたい。いやぁ残念残念（邪笑）。
もちろん、ＰＣは抵抗失敗だ（笑）。

**ヴァル：**ちょっ、怒りすぎー！　発情した！
**ハル：**「ヴァル様……今じゃダメ、ですか…？」
うう、発情します……。
**ＧＭ：**そして、彼女は元々二回攻撃できる強化マイコニドなので追加攻撃加えて**＜魔道＞**を２回……っと。

さらに出る６ゾロ。
ＰＬの時が止まる。

**ＧＭ：**あ、これはコモン呪文表からランダムに振ってるだけだから。**サディズム**の呪文ね、ロベリア自身にかけとくよ。もう一発は**ルミナス**。エロ強化だけした感じだ。
**ハル：**……助かりました。今回はダイス目が最大の敵ですね。
**ヴァル：**こっちか……うーん、**誘惑しよう**！
「ねえ、ロベリアちゃん、えっちで気持ちいいことしよ？」
**ロベリア（ＧＭ）：**「な、なによっ！　**魔界神**になろうっていうあたしに、ちゃん付けとかありえないでしょっ！」
**ヴァル：**「魔界神になってどうするの？　そんなことより、僕と気持ちいいことしよ？　ね？」
よりそって肉茸に指を這わせ、精液を指ですくって舐めて見せたげようー。
**ＧＭ：**では、誘惑修正＋３だ。
**ヴァル：**誘惑は任せろ！　８成功！
**ロベリア（ＧＭ）：**「うっ……し、シルヴィアだって、魔界神の奴隷になれたら嬉しいはずだもん！　あ、アンタだっていっしょに奴隷にしたげてもいいのよっ！」 抵抗失敗ー。
**ハル：**個性的なツンデレですね……。

**●第４ターン**
**ハル：**「うう、ヴァル様ばっかりエッチして……」 発情への抵抗は成功、ちょっと拗ねつつロベリアに攻撃です！　５成功！
**ヴァル：**えっちばっかりの主人でごめんよー。
**ＧＭ：**命中したよ。
**ハル：**23点氷ダメージです！
**ロベリア（ＧＭ）：**「ぎにゃーっ！　こ、このあたしに刃を向けるなんてっ！　ワームヒドラ軍団とプリズンケージ軍団が完成してたら、ラクショーなのにっ！　あいつらののろま！　アホ！　バカ！　役立たずっ！（涙目）」
**ヴァル：**「あいつら……？」
**ハル：**「確かにそんなのいたら勝てませんね……」
**ＧＭ：**ではロベリアから、ハルに**＜超肉茸＞**……４成功！
**ハル：**よーし……。

ここでファンブル。
断じてＧＭの意図ではないし、リプレイの捏造でもない。

**ハル：**はぎゃー！？
**ヴァル：**本当に今日のダイス運は地獄だぜ、フゥーハハハハ！

**＜魔道＞**
ランダムなコモン呪文を使用するマイコニドの特殊能力。出目頼りのため、まるで役に立たない呪文を使ってしまうことも多い。

**サディズム**
コモン呪文。敵にHPダメージを与えると自身が回復できる。

**ルミナス**
コモン呪文。調教・奉仕判定強化。

**誘惑しよう**
この際にも発情への自尊抵抗は必ず振っている。絶対隷奴は判定をして６が出た回数がそのまま成長につながるため、機会があったら判定した方がいい。外れた攻撃でも回避判定してみたりとか。

**魔界神**
そんな階級は今のところない。

**＜超肉茸＞**
ファンガスクイーンの特殊能力。マイコニドの＜肉茸＞と違い、能力値２項目をほぼ任意に選んで１減らせる。

**ＧＭ：**ではにょきにょきっと、ペニスがハルの股間に……。あ、さっきのメガロファロスまだ効いてるから二本目ね。戦闘と自尊を－１したまえ。

**ハル：**「ええっ……！？」 さすがにびっくりしてます。

**ロベリア（ＧＭ）：**「はーっはっはっ！　見たかー！　この未来の魔界神ロベリア様の力を！！」 さらにそちらのファンブル効果で追加の＜超肉茸＞をハルに……は失敗。＜魔道＞で呪文は……**バーサーク**か、意味ないなー。

**ハル：**「んんっ……きゃぅっ！」 思わず、生えてきた肉茸を肉球でいじっちゃいます。

**ヴァル：**では調教を。 「ロベリアは、本当にシルヴィアさんを肉奴隷にしたかったの？」 奉仕するようにロベリアのペニスに口付けて。

**ロベリア（ＧＭ）：**「なっ、なにが言いたいのよっ！」 反抗するようにぐりぐりとヴァルの顔に大きなペニスをすりつけてくる。明らかに動揺しているね。

**ヴァル：**「んっ、ちゅ、もっと、『仲良く』したかったんじゃないかな、って……」 とろーりとローションを塗りつけながら、体を絡ませてあげよう。

**ロベリア（ＧＭ）：**「あ、あたしはシルヴィアのご主人サマなのよっ！　偉いのよっ！　不満なんてあるわけないでしょっ！　アンタたちといっしょにしないでよぉっ！」

**ヴァル：**「ふふ、怒らないで。ほらっ、僕のお尻に入れていいからっ、仲良くしようよ……っ！」 ロベリアのものを、きつく締め付けながら飲み込んでいく。

**ＧＭ：**じゃあ＋４で判定どうぞ。責め具も認めるよ。

**ヴァル：**８成功……って、★使ってクリティカルにすれば勝つる！？

**ＧＭ：**まあ勝てるかも、ね。どうする？

**ヴァル：**よーし、じゃあ使ってしまおう。24点のPPダメージ！

**ＧＭ：かかったな、アホが！**　まだ奴隷にはならない！

**ヴァル：**なんだとー！

**●第５ターン**

**ハル：**次のターンですね！　ロベリアを調教します！

**ヴァル：**うわああ、調教しちゃってー。PPないから、やられちゃうー！

**ロベリア（ＧＭ）：**「くぅ……っ、なによぉっ、男のクセに気持ちいい穴してぇっ！」 ずぽんっずぽんっ、と何度もヴァルの腸壁をひっかくように犯してくる。

尻を犯されてばかりのヴァル。
まさに犯られキャラである。

**ハル：**「だ、からぁ……っん！　気持ちよくなりましょ～？　ああっ、しゅごいぃ……」 ２人の行為に我慢できず、ロベリアの両穴に二本ペニスをいきなり挿れちゃいましょう。

**ロベリア（ＧＭ）：**「ちょっ、ちょっとっ、そんな同時にぃひぃぃぃっ！」 両穴をいきなり犯されて軽く達してしまう。

**ハル：**「あはぁ……きのこペニスもイイですっ！　もっとっ、いろんな気持ちよさを……知りましょうね……ぇっ！」 激しく犬腰を使い始めまーす。

**ロベリア（ＧＭ）：**「んぎぃぃっひぃぃぃぃっ！」 彼女は押し殺されるような悲鳴をあげ、大量の精液をヴァルの腸内に迸らせてしまう。

**ヴァル：**「あああああぁぁぁんっ♪」 合わせてこちらも、ぴゅるるるっと射精しながら、ロベリアのものを締め付ける。

**ハル：**「くぅんっ、すごいひぃぃぃぃっ！！」 二本分の快感に、あっさりと一度目の射精をしつつ……射精しながらも、精液をローション代わりに激しく抽挿したげます……以上で！

**ＧＭ：**では、＋４さしあげよう。

**ハル：**うう、調教は元が低いから＋４しても８しかありません……と、２成功です！

**ＧＭ：**抵抗できそうだな……ぐ。２成功。**ＰＣ有利の法則**によりやられた！　ロベリアはハルの奴隷だ！

**ハル：**じゃあ、このまま気が済むまで犯しまくってあげるのです！

**ロベリア（ＧＭ）：**「んっひぃっ！　らめぇっ！　らめぇっ！　とめてぇっ！」 両穴を犯され、

**バーサーク**
コモン呪文。「戦闘」の能力値を強化。

**かかったな、アホが！**
有名な死亡フラグ。元ネタは『ジョジョの奇妙な冒険』第一部より、ダイアーさんの発言。ＧＭは、「たぶんもう負けちゃうけど、今負けたわけじゃないぜ」程度の意味で使っている。知らない人に言うと単なる罵倒と受け取られるから注意しよう。

**ＰＣ有利の法則**
絶対隷奴では同じ成功値ならＰＣ側が勝ったものとして処理される。魔族の無敵感を演出するためのルールだ。

精液を搾られて……ロベリアは完全に連続絶頂状態だ。全身を痙攣させながらヴァルに精液浣腸するように、何度も射精してくる。
**ヴァル：**「ああぁっ、おなかいっぱいになっちゃうっ！」 まだまだ搾り取ってやろう。
**シルヴィア（GM）：**「あ、あの……できればわたしも……（おずおず）」
**ハル：**「ハッ……ハッ……大っ、歓迎ですぅっ！」
**ヴァル：**「うんっ、来てぇっ！」

かくして延々と互いに犯し犯され、四人でどろどろになったのだった。

**ハル：**「はぁっはぁっ……肉茸って、気持いいんですね～（くったり）」
**シルヴィア（GM）：**「はぁはぁ……すみません、見苦しいところを……」
**ハル：**「シルヴィアさんも気持ちよかったでしょう？」
**シルヴィア（GM）：**「あぅ……は、はい……」
**ヴァル：**「えへへ、赤くなってる、かわいー」
**ロベリア（GM）：**「ちょっとっ！　しるびあしゃまは、あたしのものなんだからぁっ！」
**ハル：**「ロベリアちゃんも、ヴァル様のおしり、気持ちよかったですか？」
**ロベリア（GM）：**「っ……はぁっ……し、しるびあしゃまほどじゃ、なかったけどねっ！」
**ヴァル：**「本当にシルヴィアさんのことが大好きなんだねぇ」
**シルヴィア（GM）：**「そ、そんなロベリア……」

**GM：**そんなこんなで、ロベリアを倒して外を見れば、ゆっくりと森に緑が戻りつつあるのが見える。
**ヴァル：**おおー、早いな。さすが魔界。
**GM：**茸がじわじわと瘴気に分解され。スライムやテンタクルスはどこかへともなく散らばっていく。
**ヴァル：**「……で、なんでこんなことしたのか、ちゃんと教えてくれる？」
**ロベリア（GM）：**「だ、だって、あたしがしてって言わないと、しるびあしゃま、エッチなことしてくれないし……他の子ともいっぱいしてたし……だったら、あたしだけの……ぅぅぅ。あ、あたしだったら、おしりも、おまんこも気持ちよくさせたげられるんだからっ！　持ってないおちんちんだって……！」

**ハル：**「あらら～、シルヴィアさんは恥ずかしがりですもんね～？　わたしのご主人様は全然恥ずかしがったりしないですけど」
**ヴァル：**「いや～、それほどでも」

魔界では褒め言葉らしい。

**シルヴィア（GM）：**「……（赤面）」
**ロベリア（GM）：**「……」
**ヴァル：**「ね？」 シルヴィアに。
**シルヴィア（GM）：**「そ、それはまあ、その……」
**ヴァル：**「ほらー、ちゃんと言わなきゃ、またロベリアちゃんがいじけちゃうよ？　非行に走っちゃうよ？」
**ハル：**「うふふ。気持ちいいことは恥ずかしいことじゃないですよ？　ねぇ、ロベリアちゃん」 いっしょに煽りましょう（笑）。
**シルヴィア（GM）：**「あぅぅ……わ、わかりましたわ、ちゃんとこれからは一緒にいましょう。いつも、ずっと、ね？」
**ヴァル：**「あ、でも僕たちともえっちしないとだめだからねっ」
**ハル：**「そうですよ～？　ロベリアちゃんの肉茸も、気持ちよかったですしねぇ」
**シルヴィア（GM）：**「そ、それなんですが。元領主として、保護者として……この子のしたこと、放置できません。お二人にはできる限り援助します。どうか、わたしたちをここに残していただけませんか？　お二人がいらした時はいつでも、好きに抱いてくださってかまいません……その封魔剣もさしあげます」
**ハル：**「はぁ……どうしましょう？　ヴァル様」
**ヴァル：**「いいよ。どうせ僕たちじゃ、キミの実力は扱えないし」 格上じゃ★にならないし。GM負担的にもどうせセッション中、あんまり出せないでしょ。
**GM：**……まあ、そうなんだけどさ。

メタなことは、あまり言わないでほしい。

**シルヴィア（GM）：**「将来、ここを安定させれば、領地もお譲りします。改めて奴隷として仕えさせていただきます……」 ムシのいいことを言っている自覚はあるのだろう。本当に申し訳なさそうだ。
**ヴァル：**「その代わり、出発まではいっぱいえっ

「……」
ＮＰＣ同士の無言の対話。無言に限らず、ＮＰＣ間の会話をあっさり描写できる点は、異性キャラクターのロールプレイと併せてオンラインセッションの大きな利点だ。

ちしてもらうよ？」
**シルヴィア（GM）：**「は、はい……それは、いくらでも……」
**ロベリア（GM）：**「し、しるびあしゃまといっしょによ！」
**ヴァル：**なんだよラブラブだな！
**ハル：**まったくラブラブですねー！　こっちもやっちゃいましょうか！
**GM：**さておき、せめてもの援助にと40ソウルとコモンアイテムを一つずつ、今の封魔剣、さらにアンコモン呪文「**ボンデージング**」をもらえる。
**ヴァル：**わーい、アンコモン呪文だ！
**ハル：**ソウルも貯まりますね～！
**GM：**さて。そうこうしていると、下からゴゴゴゴゴゴゴゴ……と不穏な音が！　屋敷全体が振動している！
**ヴァル：**「うわっ！　下に何かいるのっ？」
**ハル：**「きゃんっ！　な、なんでしょ～？」
**ロベリア（GM）：**「あ、バフォメットの手下のリッチとデュラハンが来てたんだっけ……えーと、あー、地下のアレの音……かな？」
**ヴァル：**「ああっ、デュラハンさんとは話してみたかったっ……って、アレってなに？」
**ロベリア（GM）：**「リッチのヤツがあたしの超スゴイ肉茸を使ってー、いっぱいテンタクルスとかスライムとかマントラップとか作ってたんだけどっ。ついにあたしを魔界神化させる最強軍団が完成しつつあったのっ！　ワームヒドラ＆プリズンケージ軍団！！！」
**ヴァル：**「……そんなの下から出てきたら僕たち勝てなくない？」
**ハル：**「えーと、さっきの本当でしたの？」 全然信じてませんでした！
**ロベリア（GM）：**「それができたらー。あたしの軍団が最強になるって言ってたよー。あっ、でもでも、あたしはっ、魔界最強より、しるびあしゃまが大事なのっ」
**GM：**ゴゴゴゴゴゴゴゴゴ……しゅうううううう……と、何か強力な圧力が全員を押さえつけていたが……突然に圧力は消えてしまう。
**ハル：**「……あらら？」
**ヴァル：**「あれ……？　失敗だったのかな」 見に行こう！

地下へ向かう一行！
そこにあったのは、巨大な空洞！
そしてチューブや薬液の跡……。
どうやら何か巨大なものが培養されていたようだが……今はわずかな残骸が残るのみ。

**ロベリア（GM）：**「ここで、**ワームヒドラとプリズンケージ**を造ってたの！　どんなモンスターか知らないけど、すごく強いんだって！」
**ヴァル：**「知らないで作ってたの？　それって、その、利用されてただけだと思うんだけど」
**ロベリア（GM）：**「そんなことないもん！　ちょっとずつあたしが動かせるようになってきてたんだから！」

ここで二人が魔力成功。
ハルが4成功で気づいた。
ここで使われたのは、魔界では珍しい大掛かりな転送呪文。それによって、リッチとデュラハン、そして起動間近だったワームヒドラ＆プリズンケージはどこか――おそらくは彼らの本拠地へ持ち去られたのだろうことがわかる。

**ハル：**「この魔力……おそらく、間違いありません！」
**ヴァル：**うわーん、なんか奴隷の方が明らかに有能だ！
**GM：**さて、では次回にデュラハンとリッチ、どちらに向かうか決めてもらおうか。
**ヴァル：**個人的にはデュラハンかな！　呪文とエロが効かないリッチは天敵だし……。
**ハル：**ですねぇ、デュラハンは死の宣告があるけど誘惑で落とせば……。
**ヴァル：**交渉の余地もありそうだし……デュラハンの本拠地に向かおう！

**GM：**では今日はここまで。今回のDPはセッションボーナスとして10DP。さらにヴァルは16DP（スライム、シルヴィア）、ハルは19DP（テンタクルス、ラルヴァ、ロベリア）だ。
**ヴァル：**おおー。上級魔人になれる！
**ハル：**わたしもですー。
**GM：**じゃあ、アイテム配分や成長させる能力値は次回までに決めておいてもらおう。
**ヴァル＆ハル：**はーい。

**ボンデージング**
相手を拘束するアンコモン呪文。

**ワームヒドラとプリズンケージ**
異形モンスター最強の双璧。交渉できない、調教できない、まず勝てない、の三無モンスター。★を大量に持つPCがクリティカルでゴリ押しするくらいしか有効手段がない。

## “森の淑女” シルヴィア

階級：魔将（★★★）
領地：安らぎの森
性別：女性

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **戦闘**： | 5 | **調教**： | 5 | **体力**： | 6 |
| **運動**： | 7 | **奉仕**： | 8 | **魔力**： | 8 |
| **情報**： | 8 | **誘惑**： | 8 | **自尊**： | 5 |

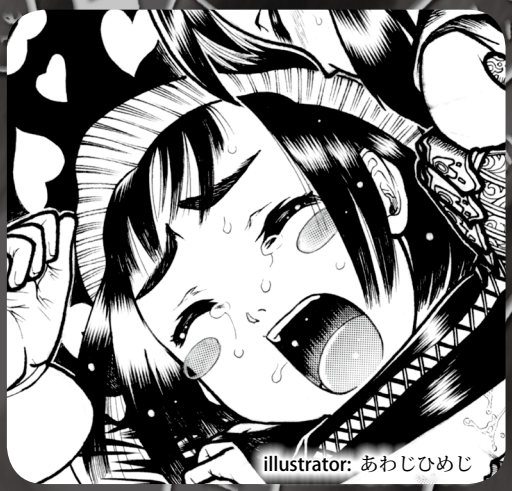
**魔族特性**：獣人（植物）、鋭敏感覚、名器、角（２本）
**魔王特性**：運命神
**アイテム**：アンコモン×１、コモン×４
**呪文**：アンコモン×２、コモン×６

illustrator: あわじひめじ

**「そ、そんなこと言わないでください……」**

魔族には珍しい人格者にして博愛者の魔将。その姿は森の女神そのものであり、魔族らしからぬ言動から領地のモンスターの中には彼女を魔族でなく、モンスターの一種と考える者さえいるようだ。

彼女は人間界から魔界へ堕ちてきた存在である。ゆきすぎた同族愛と人類の自然破壊への憎悪で知られたエルフの女王だった。彼女は魔法的トラップで魔界の森深くへ堕とされたが、絶望しなかった。やがて彼女は森の女神と化し、そこに自らの小王国を築く。最初に接触したのがブラウニーやフェアリーだったことも大きな助けとなった。やがて彼女は自ら奴隷となることも厭わず、ほとんど奴隷を作ることすらせずに多くのモンスターを味方につけていく。それは、彼女が外にある多くの欲望を知らなかった頃。初めての侵略に出会うまで続く彼女の黄金期である。



illustrator: あわじひめじ

## ◆ファンガスクイーン(★★★)

**知能**：あまりよくはない
**会話**：可能
**攻**：８　受：８　ＨＰ：５５
**＜催淫胞子＞**：攻撃／『発情１』（全体）（自尊で回避）
**＜魔道＞**：攻撃／コモン呪文表で 1D66 し、出た呪文一つを成功値３で使用（攻判定不要）
**＜超肉茸＞**：攻撃／対象の任意の能力値２つを選び、それぞれを－１してよい（重複可、戦闘終了まで持続）
**＜自動迎撃＞**：ファンガスクイーンは１ターンに２回行動を行ってよい
**＜菌類女王＞**：ファンガスクイーンは視界内の＜異形＞を持つモンスターを奴隷として扱ってよい（奴隷状態ではこの能力は発動しない）

マイコニドが異常進化した存在であり、外見上はほぼマイコニドと変わらない。周囲を取り囲む尋常ならざる数のモンスターと、彼女自身の奇妙な威圧感、そして本来の狡猾さを失った無邪気さがそれを示すのみだ。周囲を取り巻く異形モンスターは彼女自身の肉茸から生み出されており、敵対する者には忠実な兵士と化して立ち向かうだろう。彼女は一人に見えようと、決して一人ではないのだ。

戦闘力において、ファンガスクイーンは他の魔将級モンスターに一歩譲る存在だ。しかし、その「女王」としての能力は非の打ち所がない。あらゆる異形モンスターの上に君臨する存在であり、それは同格のプリズンケージやワームヒドラにさえも及ぶ。もっとも、自身も異形の存在に近づけてしまったがゆえ、彼女にマイコニドが持つ高い知能はない。会話や房事における手管はブラウニーやハーピーと同程度。しかし、だからといって油断してはならない。これこそは最も恐るべき帝国の女帝である。十分な手下を得たファンガスクイーンには、魔王さえも正面からは太刀打ちできないのだ。

# 異形モンスター

スライムやテンタクルスに代表される異形タイプのモンスターは、知的存在の快楽を養分とする原初的魔界生物と呼べる。
彼らは瘴気によって生まれる魔族やモンスターの中で、最も単純かつ原初的な存在だ。
体を自由に変形・変質させながら、その原初的本能に突き動かされるまま活動し、貪欲に餌を吸収して成長する。一定の成長を経て、そのまま分裂し、彼らは増殖する。マンイーターのような植物タイプにおいても、種子ではなく根を介しての分裂が一般的だ。
異形モンスターは完全に本能で支配されており、捕食と防衛と増殖以外の目的を持たない。

さて、ここに一つの事実化もしれない異端の説を紹介しよう。
今では一部の魔道士やリッチなど、ごくわずかな探求者しか知らぬ話だ。
かつてのこうした異形カテゴリモンスターは、決して癒されぬ飢えに支配され、ひたすらに魔界のあらゆる存在を喰らい、時として人間界にもその姿を現しては恐るべき災厄や破滅をもたらしてきた。
原初の異形モンスターによって滅ぼされた文明や人間界は決して少なくない。
飽くなき飢えに支配されていた彼らは、知性と呼べるものも持たず、ただ現象として全てを吸収し膨張してゆくだけであった。
旧き魔界の支配者であったそれは、旧支配者と呼ばれ、人間界においても恐れられた。
最初の大魔王であるサタンが実際にはこの原初的魔界生物であったという説もある。
彼の黒い太陽は件の大魔王の休眠状態の姿というわけだ。これについては、異なる大魔王の名が時として併記されることがある。盲目にして白痴なるものとされた彼の大魔王は、宇宙の中心において休眠し、従者らの慰めに身をくねらせているという……。

旧支配者についての知識は少なく、また小魔界によって偏りも大きい。
場所によっては当然の知識とされているとも言うが、多くの魔界では誰も知らない未知の知識である。
ただし、瘴気から派生する構造の複雑さを分類するなら、スライムこそが根源存在と言える。
魔界に渦巻く人間界からのある種の感情や意識……すなわち瘴気が一定量溜まることで、目に見えず触れることもできないそれが、わずかな粘液の塊へと結晶化する。粘液は似通ったベクトルの瘴気を集め、身動きの可能な限界まで肥大化する。この際に肥大化しすぎた粘液は分裂し、別の個体となる。
これこそがスライムの発生だ。

同様に、発生したスライムが大魔王リリス以後の法則である“快楽”に適応した形質を獲得したものがテンタクルスと言えるだろう。
それ以前においても触手を作り出す能力を持ったスライムは存在したが、あくまで捕食のための腕にすぎなかった。
現在のように先端部をさまざまに変形・変質させて相手の快楽を食らうよう進化したことは、快楽に適応した結果である。
そして、一定の方向へ極端に適応することで、各種ワーム類や植物タイプが発生していったものであろうと推測されている。
マイコニドの肉茸や、各種パラサイトにおいても同様である。

むしろ、これらこそが人型モンスターと異形モンスターを進化の系統樹において分ける存在と言えるだろう。その後、瘴気の塊が完全なる安定化を起こし、魔界内ではもはやいかなる境遇にあろうとも再集結して復活できるようなった時。
モンスターではなく魔族が生まれるのだとと言える。

スライムが快楽に適応した結果がテンタクルスと言えるわけだが、スライム自体が捕食生物のままだったわけではない。
今日では多く知られているように、彼らは魔族の本体はそのままに、存在を揺るがさぬ部位のみを器用に分解吸収できるよう進化した。すなわち、強制解除の力である。
これによって装備として顕現している魔族の一部分を瘴気に分解し、吸収してしまうのだ。
無防備となった魔族はそのまま全身を、飴玉のように粘液でしゃぶりつくされる。触手のような外見的刺激は少ないが、捕食対象から強制的に快楽を引き出すために内外から自在に攻めて来るのだ。完全に身を包み込んでしまうその攻めは相当にえげつなく、魔族においても望んで相手する者は少ない。
また、スライムにはかつての原始的本能を残すものも多く、快楽をもたらなさい者も稀に存在する。彼らは自然の捕食生物と同様、人間やモンスターが相手ならそのまま消化し、喰らいつくしてしまうだろう。
人間奴隷が居る場合は重々注意した方がいい。
オークやゴブリンがやたらと篝火をつけているのは、物陰から近づくスライムを退散させるためだとも言われている。

異形モンスターは人間界の生物と同様に、ある種の共生関係を築いていることが多い。
それは思わぬ狡猾さを秘めた、天然の罠ともなっている。
スライム、テンタクルス、マンイーター、ボトムワーム、ルストリーチ、プレグナントワームといったモンスターは、時として互いの弱点を補い合い、原始的ながらも巧妙な罠を仕掛けてくる。
また、プリズンケージやワームヒドラのおこぼれに預かろうとする異形モンスターも少なくない。
プリズンケージの檻の中に、先客としてテンタクルスがいることすらありえるのだ（もちろん、プリズンケージ本体とテンタクルス両方に攻め抜かれる）。

テンタクルスが代表的だが、異形モンスターとの交合で無聊を慰める魔族は少なくない。
時にはグループで耽り、それらを淫らな玩具のごとく扱う者たちもいる。
しかし、度を過ぎた異形モンスターの使用は危険だ。
異形モンスターは、知性を得たモンスターや魔族と異なり“飽きる”ということを知らない。捕まった魔族は運よく助けられない限り延々と、食料源として吸収され続けることとなる。
退屈と、自意識の喪失は知られざる魔族の消滅原因だ。
小魔界を隔てる魔海に落ちた魔族の大半が、二度と戻ってこないのはその底に無数に住まう大量の異形モンスターの仕業とも言われている。メロウやスキュラが語るには、魔海沖合いには大量の異形モンスターが跋扈し、落ちてきた魔族や迷い込んだ水棲知的モンスターを決して逃さず、数十年かけた快楽によって“消化”するのだという。
同様の事象が、陸地における辺境の沼地や湖底で起きていないとは、誰にも断定できないのだ。

# 第３話　魔宴の都サバティア

絶対隷奴（ディアボリック・ボルノRPG）
Absolute Slavery

**ＧＭ：**さて、アイテムと成長は決まったかな。
**ヴァル：**装甲薄いから、闇のまといでダメージ耐性つけたー。成長はセッション中に必要そうなの見つけたらって感じで。
**ハル：**ダメージアップに戦鬼の指輪もらいました！　あと、戦闘上げました。
**ＧＭ：**了解した。では、３回目のセッションを開始しよう。

　ヴァルとハルは、魔将シルヴィアの領地を後に、**デュラハン**の本拠地へと向かっている……。
　デュラハンの領地は巨大な城砦都市だ。
　明らかに元は魔王の領地だったことが見て取れる。

**ヴァル：**うへー。普通に旅人として入れるの？
**ＧＭ：**いや。どうやらそう簡単には入れなさそうだ。魔都に近づくにつれて……情報判定どうぞ。
**ヴァル：**１成功！
**ハル：**３成功！
**ＧＭ：**では二人とも、魔都に入ろうとする他の連中を見つける。
**フィーンド（ＧＭ）：**「キキキキッ、早く進めコラァ！」「まぁた濡らしてやがるぜぇ、キキャキャキャッ」
**堕天使さん（ＧＭ）：**「ぁうっ、や、やめて……くださいっ」
**ダークウォリアー（ＧＭ）：**「来イ……遅レルナラ引キズッテイク……」
**暗黒騎士さん（ＧＭ）：**「く、くそぉ……っ」
**ＧＭ：**その他いろいろ、モンスターに引きずられていく奴隷魔族の皆様が見える。
**ハル：**「あらあら～、なんだか物々しい雰囲気ですね」
**ＧＭ：**他にも単体で入ってくモンスターはちらほらいるが、魔族単体で入っていく様子はない。魔族はモンスターの奴隷としてしか、入れない様子だ。
**ヴァル：**「普通には入れなさそうだね。ルノー、お願いしていい？」
**ルノー（ＧＭ）：**「む……我はかまわぬが……ここはバフォメット様の重要拠点。立ち振る舞いに気をつけねば、**消される**やもしれぬぞ」
**ハル：**「このままじゃ入れませんし、ヴァル様の案ですもの、なんとかなりますよ～」
**ヴァル：**「だいじょーぶ、僕は奴隷経験だってあるんだから」
**ルノー（ＧＭ）：**「うーむ……」　では二人ともルノーの奴隷のふりを？
**ヴァル：**「心配してくれてありがと。ルノーも、僕のこと奴隷と思って、乱暴にしていいからね？」　ちゅっと乳房に口付けてあげとこう。
**ハル：**「（気持いいことも沢山出来るかもしれませんし……）」　そんな思いがチラホラと
**ルノー（ＧＭ）：**「……わかった」　大きな手でハルとヴァルの頭を優しく撫でてくれる。
**ハル：**「では、行きましょうか～♪」
**ヴァル：**ルノーかわいいなー。
**ルノー（ＧＭ）：**「では」　二人を抱き合わせ、その間に勃起した巨根を通しぶらさげ、門を通るつもりのようだ。
**ハル：**「わぁ……熱い……」　思わず全身擦りつけちゃいます～。
**ルノー（ＧＭ）：**「ヴルルルル……」　時折、二人の体ごと巨根を扱く。全身オナホ扱いだ。
**ヴァル：**「んんっ、ひゃい、綺麗にしますぅっ……」　亀頭に口付けて舌を這わせ、頬擦りしてうっとりと。
**ハル：**「んふぁ……綺麗にします～」　ルノーの淫香に思わず発情しながら鈴口をしゃぶってます～。

**デュラハン**
　とても強い女騎士モンスター。首は取り外し可で、主にエロギミックとして使われる。魔族殺しの攻撃能力を持つので、戦うより交渉しようとするＰＬは多い。

**フィーンド**
　空飛ぶ猿モンスター。うざい。

**ダークウォリアー**
　巨漢戦士型モンスター。魔界の一般的兵士。

**消される**
　通常、魔族は死なないが、一部のモンスターや天使による攻撃は魔族を消滅させてしまう可能性がある。

**ＧＭ：**それでは二人とも奉仕で判定どーぞ。
**ヴァル：**よーし……おお！？

このキャンペーンで初めて出す、ヴァルのクリティカルは、自身の奴隷への奉仕であった。

**ハル：**すごい主人の愛ですね……って、あー！？

そしてこちらはファンブルである。

**ＧＭ：**なんちう**スピードボール**状態！（笑）ハルはうっかりルノーに PP ダメージを与えてしまった！
**ハル：**「ハァ……アァ……ごしゅじんさまぁ」ルノーへの奉仕に夢中になりすぎて、容赦ない責めになっちゃいます。
**ルノー（ＧＭ）：**「ヴフォォォォッ！」 城門に向かう途中、二人の熱心な奉仕にたまらず、射精してしまう。黄色く粘るその精液は、二人をどろどろに汚していくぞ。ファンブルを受けた効果で、＜淫香＞も発動だ。
**ハル：**「すごく濃い……はぁっ、あぁっん！ご主人様ぁ～♪（発情中）」
**ヴァル：**「ふあああぁんっ、精液まみれっ、僕も気持ちいいよぉっ、ご主人さまぁっ♪」

そんな状態で魔都の門にたどりつく二人。
門では**ガーディアン**のお姉さんが通行人をチェックしている。

**ガーディアン（ＧＭ）：**「あらぁ……サバトマスター様、すごいわぁ……いやらしい匂い。奴隷さんたちもかわいくて羨ましいですわ♪」
**ＧＭ：**二人とも、誘惑＋２で判定だ。成功すれば奴隷だと思ってもらえる。
**ヴァル：**９成功！　淫蕩な笑顔で愛想を振りまいておこう。
**ハル：**６成功です！　すっかりルノーに心酔しきった表情で奉仕してまーす。
**ガーディアン（ＧＭ）：**「うふふ、売るつもりでしたら、きっと高く売れますわぁ。公共施設でも買い取りますから、よろしくお願いしまぁす♪」 ルノーの鈴口を淫蕩な表情でぺろりと舐めて、そのまま一行を通してくれた。

魔都に入れば、まずあるのは広場。
拘束台がいくつもあり、多数の魔族が拘束されてオークやワーウルフに犯されていた。
中には、ハーピーに騎乗位されてる少年魔族や、妊娠してお腹が膨らんでいる魔族もいる……。

**ヴァル：**すごいなー。うらやましー。
**ハル：**壮観ですねー。

魔族らしい感想である。

**ヴァル：**（あのシチュもありだな……）
**ハル：**（わ、わたしもあんな風に拘束されてモンスターに……）
**ヴァル：**「それにしても、どうやって孕ませてるんだろ……**魔族なのに**（小声）」
**ハル：**「そうですねぇ～。そういう能力のモンスターがいるんでしょうか～」
**ＧＭ：**では、情報判定をどうぞ。成功すれば犯してる連中の言葉から分析できるよ。
**ヴァル：**成功！　さすが魔族だ。

ここにいる魔族はモンスターを殺した罪人。
彼らは、殺した数だけ、モンスター子供を産むまで、延々と犯され続けることになっている。
産まれたモンスターは住人として認められ、魔族が産まれたら公営施設の娼婦になる、という仕組みのようだ。

**ハル：**「ふわぁ……すごいです」
**ヴァル：**「夢のようなところだ……」
**ＧＭ：**広場を通り過ぎると歓楽街らしき所に入り込む……そこも通常の魔都とはまるで違う景色だ。
**ヴァル：**ど、どんなだろ……。
**ハル：**広場からしてあんなだったから、わくわくしますね～。

すっかり観光気分の二人が見たものは。
上級魔人がオークに媚売る娼館の入り口。
魔人が、ダムンドのものをしゃぶる露店。
魔族をモンスターが売買する奴隷市場。

**ヴァル：**「みんなえっちで気持ちよさそうだなあ」

**スピードボール**
アッパー系ドラッグとダウナー系ドラッグを同時摂取すること。体にはとてもよろしくない。なお、筆者はアルコールとカフェインくらいしか同時摂取経験はない。

**ガーディアン**
そこそこ強い番兵モンスター。基本的に女性型なので夜のお相手もばっちり。

**魔族なのに**
魔族は当人が希望しないと妊娠しない。希望すればいくらでも産めるし、希望しなければ生涯妊娠経験ナシ。避妊いらずである。

**ハル：**「あの中に混ざるのも気持ちよさそうですよねぇ♪」
**ヴァル：**「でも、たまにだったらいいけど、全部こうなっちゃったら楽しくないよ。やっぱりバフォメットは敵だね」
**ルノー（GM）：**「ヴルルル……」 言葉を周囲に聞かせないよう、二人の顔を亀頭に押し付ける。
**ハル：**「ひゃん♪」
**ヴァル：**「あはっ♪」

　そうしていると。

**オーク（GM）：**「魔王ざま！　魔王ざまがぎだどー！」
**ダムンド（GM）：**「ああ、アンクー様！」
**魔族娼婦（GM）：**「ひ、ひぃっ」 地べたにひれ伏している。
**ハル：**「アンクー？　バフォメットじゃないんですか？」
**ヴァル：**「誰？？」
**GM：**ルノーはなんとか路地に隠れようとしてるけど、サイズ的に難しい。そうこうしている内に当人がやってきてしまうぞ。
**ハル：**あわわわ、大丈夫でしょうか。
**アンクー（GM）：**「フフフ、私は代行だよ。魔王様だなんて恐れ多いじゃないか」 中性的な声が響く。
**ヴァル：**デュラハンさん……かな。ここで戦うのはまずいね。
**ハル：**ルノーさんのものにしがみついて奴隷のふりしてましょう！
**ヴァル：**あ、こっちも同じくで！
**アンクー（GM）：**「我が都は今日も平和なようだねぇ」 近づくにつれて、ふーふーと獣の唸るような声と、ざっざっと地面をひっかくような音も聞こえてくる。
**ハル：**（ああ、ルノーさんの素敵……）
**アンクー（GM）：**「さて、私も今日の夜伽を……おやぁ？」 二人のそばで足音が止まる。
**ヴァル：**（僕は奴隷、僕は奴隷……）
**アンクー（GM）：**「……」 じろじろと見ている。
**ハル：**チラッと様子を伺いましょう。
**GM：**そこには凛々しい女騎士の姿。さらに二体の大型の猟犬型モンスター……**ヘルハウンド**だ！
**ヴァル：**う、ヘルハウンドだ。欲しい……。
**ハル：**わ、わんこですよー！
**アンクー（GM）：**「……やあやあ、ルノーじゃないか！　ロベリアの領地が壊滅してね！　キミの姿も見えなくて心配したよ！　元気そう……だねぇ？」
**ハル：**気づかれてる気が……。
**ヴァル：**でもここで暴れるのは……。
**アンクー（GM）：**「ぜひ城に来てくれたまえ。ねえ、ルノー。まさか私の誘いを断ったりはしないよねぇ？」 笑顔だが、目は笑ってない。
**ヴァル：**この潜入は**早くも終了ですね。**
**ハル：メイン盾がないと未来はにい。**
**ルノー（GM）：**「……」 ルノーは仕方なくアンクーについていく。

　かくして、複雑に入り組んだ路地、強力な門番、異形モンスター満載の堀……といった関門を労せずして越え、一行はデュラハンの城に入ることができたのだった！
　よかったよかった。

**ヴァル：**よくなぁぁぁい！！
**アンクー（GM）：**「本来ならきちんとした部屋に行くべきだが、キミも狭いところは苦手だろう」 城のロビーで歓談することになる。彼女はヘルハウンドたちを座椅子のように侍らせているね。
**ヴァル:**「……うー、うらやましー」 小声で言っちゃうよ！
**ハル：**「うう、ピンチな気がします」
**アンクー（GM）：**「さて、私はこの魔都を預かるデュラハンのアンクー。キミたちは？」 ルノーではなく、二人に声をかけてくるよ。
**ヴァル：**「ヴァラックだよ。ヴァルって呼んでね！」
**ハル：**「……ハルディアです」

　自己紹介する二人だが。

**アンクー（GM）：**「へぇ……で、ルノーに続いてロベリアを倒し、次は私を倒すのかい？」
**ヴァル：**ばれてる……、**こいつ絶対忍者だろ……。**
**ハル：汚いなさすが忍者きたない。**
**ヴァル：**「できれば、話してわかってくれるといいな。お姉さん好みだし！」 奴隷のフリはやめよう。

**ヘルハウンド**
　そこそこ強い野獣モンスター。獣姦ファンには大人気。

**早くも終了ですね**
　ブロント語。知らない人はググるべきそうす（ｒｙ

**メイン盾が～**
　ブロント語。知らない人はググるべ（ｒｙ

**こいつ絶対忍者だろ**
　ブロント語。知らない（ｒｙ

**アンクー（ＧＭ）：**「何をわかればいいのかなぁ？」 二人に、ヘルハウンドたちが飛びかかる。どうする？
**ヴァル：**わ、**わんこ相手だし**、まだ様子見るよ！
**ハル：**じっとしてます！
**アンクー（ＧＭ）：**「肝が座っているね。逃げたり攻撃したら、私も**剣を抜いていた**よ」 飛びついた二匹は、二人の体中をぺろぺろと舐めて、精液をきれいに舐めとってくれる。
**ヴァル：**「ひゃっ、ん、僕だって、モンスターとえっちするの好きだけどっ、でも、他にもいろいろやりたいからっ。バフォメットは間違ってるよっ。アンクーさんは、どうして手伝ってるのっ？」 わ、わーい！　信じてたよ！
**ハル：**「きゃわっ！　そ、それにぃ、モンスターの奴隷になるのも……悪く無いですけど、そればっかりじゃ楽しくないじゃないですか～」 わんこは友達！　こわくないですよっ！
**アンクー（ＧＭ）：**「直球だねぇ……ちょっと内密な話をしようか」 そう言って奥へ案内される。ヘルハウンドたちは二人を舐めたり頬ずりしたりしてくっついてくる。
**ヴァル：**「う、うん……」 わんこ、かわいい……。
**ハル：**わーい、やり取りはご主人様に任せて、わんこと遊んでましょう！

そんなわけでルノーを闇の牢獄に入れて、奥へ。
一行が案内されたのは地下に彫られた温泉である。

**アンクー（ＧＭ）：**「まあ、お互い不慣れだからな。裸のつきあいといこう」 鎧を脱ぎ始める。
**ヴァル：**「わー、すごーい！」 無警戒にぬぎぬぎ。
**ハル：**「そうですね～。気持いい交渉になりそうです♪」
**アンクー（ＧＭ）：**「おや、対話よりも情交がお望みかな？」 **ヘルハウンド二匹**が二人のお尻をぺろっと舐めてくる。
**ハル：**「わたしとしてはどちらも～……ひゃっ！」
**ヴァル：**「ひあんっ♪　うん、気持ちいいことしたいなっ」
**アンクー（ＧＭ）：**「フフ、魔族もキミたちみたいな子ばかりなら、こうはならなかったろうに」 モンスターだから**体洗わずに**湯船に入っちゃうよ！
**ヴァル：**同じく入ろう！
**ハル：**「そういえば～、ここって、昔はどうだったのですか？」 お風呂に入りながら、アンクーさんにちょっと尋ねてみましょう。
**アンクー（ＧＭ）：**「はぁ……ん？　ううん、そうだね。普通の魔都かな。私はここの領主の奴隷だった。処刑場の担当で随分と魔族を処刑したよ……モンスターはよほど力ある連中以外は道具扱いだったしね」
**ヴァル：**「その領主の人、ひどいね。モンスターしかできないこともたくさんあるのに（怒）」
**ハル：**「はぁ……バフォメットさんが来て解放されたのでしょうか～？」
**アンクー（ＧＭ）：**「どうだろうね。解放されたと思ってる連中も多いだろうけど……ここの領主は昔から変わらないしね」 肩をすくめて。
**ハル：**「……え？」
**ヴァル：**「バフォメットが前はそんな魔王だったってこと！？」
**アンクー（ＧＭ）：**「今も変わっちゃいない。単にモンスターを使って、唯一の魔族になれば大魔王になれるとか思いついただけさ。奴は自分以外、道具扱いだからね（ため息）」
**ヴァル：**「……これは何としてもバフォメットは倒さないとだね」
**ハル：**「ヴァル様が代わりに領主になっちゃえばいいですよ！」
**ヴァル：**「え、ええっ、そ、それは……」
**アンクー（ＧＭ）：**「そうだね、そこを聞きたい。ヴァラック、キミはバフォメットに成り代わりたいのかい？　それともただ快楽の中で過ごしたいのかい？」 ぐいっと二人を両脇に抱き寄せる。

**汚いな、さすが～**
ブロ（ｒｙ

**わんこ相手だし**
ヘルハウンドが弱いという意味では決してない。単にこの二人が獣姦好きなだけである（断言）。だからこそ、ＧＭはここでヘルハウンドを使った。ＧＭとＰＬの信頼が生んだ結果である。エロ嗜好の信頼だが。

**剣を抜いていた**
ここが戦闘になるかの分かれ目。「飛びかかる」と言ったのはこのため。オフラインと違い、オンラインではこういったポーカーフェイスを演じやすい。もっとも、言葉不足による勘違いも発生しやすいが。

**ヘルハウンド二匹**
このヘルハウンドは物語的には別には不要に見えるかもしれない。しかし、重要な役割があるのだ。ヴァルとハルのＰＬは獣姦好きである。互いの性的嗜好を尊重しあうことは（ｒｙ

**体洗わずに**
みんなはちゃんと洗ってから入ろう。

**ヴァル：**「魔王にはなりたいけど……バフォメットみたいにはなりたくないよ」

**アンクー（GM）：**「私は魔王アンクーになって見せる……魔族の力を決めるのは階級でも能力でもない。**野心**だ。私と共に来る気ならよし。来ないなら……奴隷に堕として道具にするよ」

すっと、彼女の指がヴァルの**ペニス**を撫で、ハルの秘所をそっとなぞる。

**ヴァル：**「ひあっ……それなら、手伝うよ。でも、代わりにいっぱい、気持ちいいこともしたいなっ♪」 ちゅ、とアンクーの胸元に口付けて。

**ハル：**「わたしはヴァル様にっ、ついていきます、っうん……」

**アンクー（GM）：**「じゃあ、おいで……ヴァラック、ハルディア」 彼女は無防備に手を広げてくる。調教か奉仕か、行動で示してごらんということらしい。

**ヴァル：**「うんっ」 奉仕するー。身体を擦りつけるように抱きしめて、乳首を口に含み、舌先で転がす。

**ハル：**「……はい、アンクー様」 奉仕しましょう。湯の中に顔を沈めてアンクーの秘所に口づけ、チロチロと舐めます。

**アンクー（GM）：**「……ん」 じゃあハルが舐めやすいよう水面に腰を浮かせてくれる。湯船でブリッジして胸や恥丘を水面から露出してる状態だ。

**ヴァル：**「んっ、アンクーさん、身体、綺麗……♪」 横から手を伸ばして、胸にさわさわと指を這わせ、揉んで**反応を探り**。

**GM：**アンクーの警戒が解れてくる。彼女からも二人に奉仕してくれるよ。ここからは**相互奉仕**だ。

**ハル：**「んっ、れろっ……ぺちゃっ……（ヴァル様もだけど、アンクー様もいい匂い）」 アンクーさんの秘所に舌で愛撫を続けて。

**アンクー（GM）：**「ふぁっ♪　ん、よく、わかった……」 ヴァルの額にキスしながら。ハルの頭を優しく撫でて、小さく口笛を吹く。ヘルハウンドたちが湯の中、二人の体に背中から覆いかぶさり。湯の中でもなお熱い獣の勃起を二人の尻にこすり付けてきた。

**ハル：**「はぁんッ！？　もしかして……」 ヘルハウンドに期待の視線を送ってしまいます。

**アンクー（GM）：**「……フフ」 ゆらり、とアンクーの髪が重力に逆らって動く。ヴァルの乳首を縛り、くんっと引っ張ってくる。

**ヴァル：**「んんっ、ふ、僕のお尻でよかったら来て……っひあああぁんっ♪」 ヘルハウンドに甘えながら、乳首を刺激されて女の子のような声をあげてしまって。

**アンクー（GM）：**「フフフッ、二人とも淫乱だね……かわいいよ」 ふわり、と**首が体から離れて**。髪でヴァルの乳首を引っ張ったまま、ハルの顔に舌を這わせてくる。

**ヴァル：**「はああぁっ、んあっ、ひ、ひっぱっちゃだめぇっ♪」 アンクーの乳房を強く吸いながら、悪魔尻尾を器用に使ってヘルハウンドのペニスを軽く扱いてあげよう。

**ヘルハウンドA（GM）：**「ぐるるるっ！　ぁおんっ！」 はむっ、とヴァルの肩口を甘噛みしながら。湯船の中でぐいぐいとペニスを尻に押し付け、挿入しようと穴を探している。

**ヴァル：**「ここっ、ここだよぉっ、入れてっ、僕のこと滅茶苦茶に犯してぇっ！」 自分の手で尻を広げ、位置を合わせようとして。

**ヘルハウンドB（GM）：**「ハッハッ……わぅぅ……」 興奮した熱い息をハルの耳に浴びせながら。明らかに膣穴を探るように、犬ペニスを陰唇にこすり付けてくる。

**ハル：**「んふぁ……アンクーひゃまぁ、わたしにヘルハウンドとっ交尾させて、くださいぃ！」

自ら腰を合わせます～。

**アンクー（GM）：**「おやおや、しょうのない子たちだね」 二人の顔や首筋にキスしてきたかと思うと、浮かぶ首がまた口笛を吹いた。

**ヘルハウンド（GM）：**「「わぉぉぉんっ！！」」

ずぷんっ、と深く容赦ない結合が二人の腰に襲い掛かり。魔獣の強靭な筋肉が、水中でも激しい交尾を開始する。

**野心**

実のところ大半の魔族は、だらだらと日々を送っており、魔王になろうなんて考えない。お腹すかない、家いらない、超美人の性奴隷がゴロゴロという世界で、わざわざそんな面倒なことしようとするのは変人の部類なのだ（ＰＣ含む）。

**ペニス**

こんなにペニスペニス連呼するリプレイが、かつて存在しただろうか。いやない。

**反応を探り**

ここで二人とも奉仕判定。修正は＋２。二人とも５成功でアンクーに恭順の意志を見せる。

**相互奉仕**

ルールにはないが、よく使われる処理方法。戦闘以外で奉仕を互いに行う場合は、とりあえずお互いにやりたい描写や行為をしたいだけして、後でまとめて判定する方がよい。身内セッションなら、調教さえもこれで行うことがある。

**首が体から離れて**

デュラハンはアクロバティックな体位を演出するのに便利だが、受け付けないＰＬもいるので要注意。

**ハル：**「きゃぅぅうううううんっ！！　アッ、あぁぁっ！　交尾っ、イイっ！」 一突きですっかり牝犬奴隷です〜。

**ヴァル：**「ひあああぁぁぁんっ！　は、ぁ、アンクーさんっ……♪」 アンクーの乳首を咥え、赤子のように吸いながら、腰を振ってヘルハウンドのペニスを扱いてやろう。

**アンクー（GM）：**「フフ、かわいいね……ほら、前は私が食べてやろう」 ハルから腰を引き、湯の中、ヴァルのペニスへと腰を下ろし交わっていく。離れた首は再びつながって、蕩ける二人を見下している。

**ヴァル：**「ふあああぅんっ、おちんちんも食べられちゃうぅっ！　ちゅっ、ん、はあぁっ、お尻もおちんちんも気持ちいっ、蕩けちゃうよぉっ♪」

**ヘルハウンド（GM）：**「「ふぁふっ！　わふっ！　ぁおんっ！　おぉーんっ！」」 二匹は二人の肉穴を激しく犯しながら、うなじや肩を熱い舌で嘗め回す。

**ハル：**「あぅっ、はっ、あうぅっ！　イヒィィィ！！　激しっ♪」 ヘルハウンドの激しい腰使いに、膣が発情して搾るように締めつけちゃいます。

**アンクー（GM）：**「うん……っ、キミのも気持ちいいよ……っ」 甘い声で囁きながら、ヴァルのものを肉襞で**しゃぶってくる**。

**ヘルハウンド（GM）：**「「わふっ！　わぅっ　わぅぅぅぅぅっ！！」」 ヘルハウンドたちが突然腰を止め。二人の体内でペニスを固まらせ、膨らませながら震えはじめる。

**ハル：**「わふっ、ぁふっ、わうぅっ！！」 突き込まれる犬ペニスに合わせて、すっかり犬同士の交尾になってます〜。

**ヴァル：**「しゅごいのぉっ！　ヘルハウンドさんのおちんぽも、アンクーさんのおまんこもぉっ♪」 アンクーにしがみついてきながら、こっちの腰は止まらずに。

**アンクー（GM）：**「そろそろ……この子たち出すみたい、だねっ、ヴァラックも、私の中に……出すと、いいっ」 ヴァルのものを咥えた腰を、いやらしくくねらせる。

**ヘルハウンド（GM）：**「「あおおおおおおんっ！！！」」 風呂場に獣の鳴き声が響く。二人の中に、熱すぎるヘルハウンドの精液が迸る。獣の射精は長く、凄まじい量だ。

**ハル：**「来て、来てぇ！　わたしの中に、思い切り出してぇぇぇぇっ！！　種付けしてぇっ！」

絶頂しながら、射精を促すよう締めつけて……ヘルハウンドの種付けに連続絶頂しちゃってます♪

**ヴァル：**「ひあああぁぁぁんっ、だめぇっ！　僕もっ、びゅーびゅー出るっ、アンクーさんの中にいっぱいっ、あああぁぁーっ♪」 ヘルハウンドに注がれながら、びゅるるるるるっ、と勢いよく、アンクーの中に**トコロテン射精**してるー。

**アンクー（GM）：**「っ、くぅ……」 押し殺した声で、射精中のヴァルにきつくしがみついて絶頂を味わう。

というわけで、３人と２匹は激しい快楽をたっぷりと味わって、湯船から上がり。

さらに洗い場でいやらしく体を洗ったりして、楽しいバスタイムを過ごしたのだった。

**アンクー（GM）：**「その二匹をキミたちの目付け役に付けておこう」

**ヘルハウンド（GM）：**「わぅぅ〜」「あぉん！」

それぞれ、さっき交尾した方になつきながら。

**ヴァル：**「えへへ、ありがと……よろしくねー」

おいでーって手招き。

**ハル：**「では、ありがたくお借りします」 クリティカルの絆で、ヘルハウンドとべたべたしてます〜。しっぽパタパタさせて、すぐにまた交尾しちゃいそうです……。

**アンクー（GM）：**「それと、バフォメットについて話しておこう――

バフォメットは……野心家だが努力家ではない。間も抜けてもいる。ただし、強運で今まで奴隷になったことがないらしい。妄想と現実の区別がつかず、それが下級モンスターへの妙な求心力となっているのだ。もっとも、組織経営や人心掌握はできず、側近の不平不満は多い。

バフォメットの目的は、全魔族を行動不能にし、自らが唯一の魔王となって繰上げで大魔王となること。さらには、**天界モンスター**とも手を組んで、

**しゃぶってくる**

ここで全員、修正＋５で誘惑と奉仕の判定。多数の判定の中、ヘルハウンドBが誘惑で、ハルが奉仕でクリティカルという珍事が発生。ハルがヘルハウンドとラブラブになってしまう（お互いにクリティカル）。

**トコロテン射精**

出されると同時に出してしまうこと。フタナリやショタっ子がよく行う。

**天界モンスター**

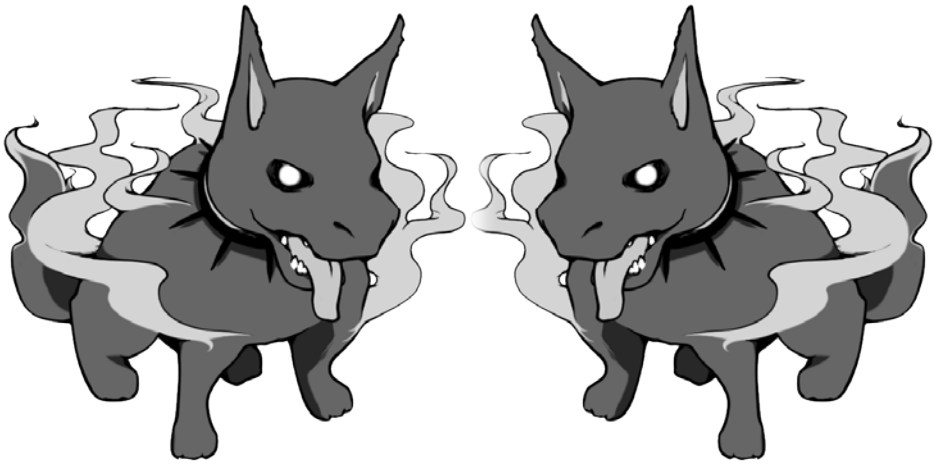
天界に住むモンスター。天界のメイン種族である天使に、利用されたり虐げられたりしている。

**天界**も同様の植民地に変えるつもりのようだ。今は天界モンスターを集めるため、人間界を巡っているらしい。

**ヴァル：**「うわぁ……スケールのでかい魔王だなぁ」 魔界の中で領地争いしてる魔王しか知らないぞ！
**ハル：**「そうなると天使が魔界に来ちゃうんじゃ……」 ロベリアと似てますね。

アンクーは魔王としてこの魔都の代行ではない完全な領主となりたい。
しかし、バフォメットの奴隷の身ではどうしようもない。魔界でバフォメットと直接対立しているのは、今のところヴァルとハルしかいないそうだ。
また、通常の方法ではバフォメットは奴隷にできないという。何か厄介な特殊能力を持っているようだ。

**ヴァル：**「だから僕たちを奴隷にもしないで、手伝って欲しいってことかー」 やっぱり変な**魔王特性**持ってるんだな！
**ハル：**「でも、どうすればバフォメットさんを奴隷にできるんですか？」
**アンクー（GM）：**「そのためには……リッチを倒さなくてはならない」
**ヴァル：**「ロベリアの地下にいたってリッチ？」
**ハル：**「リッチがバフォメットを落とす策を持っているのですね？」
**アンクー（GM）：**「そうだ。あのリッチは抜け目のない奴だからな。バフォメットへの切り札となる呪文を持っている」
**ヴァル：**「それを手に入れれば、バフォメットを奴隷にできるのか！」
**アンクー（GM）：**「その通りだ。明日には出発してくれ。言っておくが、私のことは口外するなよ」 対リッチの用意としてアンクーは「属性両手武器（火）」「抗魔の盾」をくれるよ。兵力としてヘルハウンドたちも貸してくれる。
**ハル：**わーい！　武器もらいますね！
**ヴァル：**盾はいただいた！
**GM：**そんなところで。今日は終わりにしようか。二人には、セッション達成で5DP、ヘルハウンドを一応調教したものと考えて10DP、それぞれ15DPあげよう。成長とかは次回までに考えておくように。
**ヴァル＆ハル：**はーい。



**天界**
魔族と敵対する天使たちの住む世界。独善的かつ官僚的で内部腐敗が酷く、魔族からは嫌悪されている。人間界の支配権について天界と魔界が争うことは多い。

**魔王特性**
魔将以上の魔族が持つチート能力。魔将や魔王が強いのは、能力値よりもこれによるところが大きい。

# 第４話　監獄迷宮

**ヴァル：**よーし、DPにも**余裕が出たし**調教と誘惑上げて上級魔人に、そして名器を取る！
**ハル：**わたしも上級魔人になりました。戦闘上げるべきなんでしょけど、豊饒の乳房が欲しいので上げるのは自尊と運動です。
**ヴァル：**別にいいよー。おっぱいは正義！
**ＧＭ：**では始めよう。

　**リッチ**の迷宮へと向かうこととなった二人。

　魔都のデュラハン、アンクーから様々な援助を受け取り、ルノーに加えてヘルハウンド二匹も連れ、魔都の地下通路を使って迷宮に挑む！

　そこは冷たい石に覆われた、情欲を持たぬリッチの精神を象徴するかの如き迷宮！
　隠密行動のため、モンスターたちは隠しておくしかない！
　果たして、二人はこの迷宮を打ち破れるのか！？

　……とはいえ、今や二人は上級魔人。
　入り口の番人だった**ソウルイーター**も、上級魔人となった二人には、あっさりと倒されてしまうのだった。チクショー。

**ＧＭ：**というわけで、無数の扉や階段があり、曲がりくねって見通しも悪い通路に入り込んだ。
**ヴァル：**うわぁ。ＧＭの説明に**マッピング**の余地がない……。
**ハル：**ど、どうしましょうか〜。
**ヴァル：**どうせリッチの居室はわかりやすい所だろうし、目立つ部屋以外はスルーしていこう。
**ＧＭ：**では情報判定どうぞ。
**ヴァル：**む、失敗。
**ハル：**うわ、わたしも失敗ですよ。
**ＧＭ：**では特に目立つ部屋というのも見当たらないな。ただ、どの部屋も多かれ少なかれ、淫らな気配を発しているね。
**ヴァル：**「リッチって、えっちとか嫌いじゃなかったっけ？」 うーん、とりあえず適当な部屋を覗いてみよう。
**ハル：**「エッチな事より魔法とか情報集めの方がすきみたいですからね〜」 覗いちゃいましょう。
**ＧＭ：**じゃあ、**調教で**判定してみて。
**ヴァル：**５成功！
**ハル：**１成功。
**ＧＭ：**おお、合計６成功か……えーと。**じゃあ**部屋の中は、濃厚な淫臭が漂ってる。獣めいた悲鳴と、ぐちゃぐちゃと粘膜をかき混ぜる音が聞こえてくるね。
**ヴァル：**獣とな！
**ＧＭ：**違うよ（笑）。中には**ベインゴーレム**に嬲られて**レイプ目**の大魔将が一人。二十代くらいの両性具有だ。

**余裕が出たし**
　振りなおしやアイテム・呪文獲得をすべきかもしれないと、ＰＬたちは成長をせずにいた。

**リッチ**
　魔将級モンスター。かなり強いはずだが、噛ませ役になることが多い。

**ソウルイーター**
　エロくないモンスター第１位。しかし商人や官僚として世界構成的には、けっこう重要なポジションにいる。

**マッピング**
　ダンジョンの内容を知るため、地図を描いていく作業。どんな通路でどんなドアがいくつあるか、階段はどうかなど具体的に説明を受け、ＰＬがそれを記録していくのが正しい冒険の作法である。しかし、魔族にそんなものは関係ない。

**調教で**
　いかにエロい部屋（情報を引き出せる部屋）を見つけるか判定している。調教の成功値合計によって、ロクでもない部屋か手がかりのある部屋か決まるのだ。なお、どちらかがファンブルを出せば、第二話で回収されたプリズンケージ＆ワームヒドラに対面する予定だった。

**じゃあ**
　リプレイでは省略しているが、実際には室内の様子を見る情報判定や、こっそり入るための運動判定もしている。

**ベインゴーレム**
　そこそこ強いモンスター。自走型オトナのオモチャ。容赦なくターゲットを責め抜く。

**レイプ目**
　あるいはヤンデレ目。漫画・アニメ・ゲームなどにおける、目から光が消えている表現のこと。

**ハル：**このキャンペーンの魔族ＮＰＣって、嬲られてる人ばっかしですね……。
**ヴァル：**そういえば、そんなのしか見てないなー。

　そんなこともある。

**ＧＭ：**それはさておき、二人が部屋に入るとベインゴーレムが侵入者に襲いかかってくるぞ。
**ヴァル：**「おっと、それじゃあ相手してやろう」
　外から敵を呼び寄せないようドアは閉めておくよ。
**ハル：**「ゴーレムと戦ってもつまんないですけどね……大魔将さんはおいしそうですし、がんばります！」
**ＧＭ：**では、戦闘だ。

　ついさっき、ソウルイーターをあっさり倒しただけに余裕である。
　しかし絶対隷奴の戦闘は運次第。
　そうそう上手くいくとは限らない。

**ハル：**４成功です！
**ＧＭ：**うん……避けられない。
**ハル：**じゃあ、爪で引き裂いてこっぱみじんにしまーす！
**ヴァル：**いやー、ノーダメージで勝ててよかった。

　……まあ、上手くいくこともある。

**ハル：**「だいじょうぶですか～」 とりあえず大魔将さんの拘束を解いてあげましょう。
**大魔将（ＧＭ）：**「はぁ、はぁ……魔族が、どうやって、ここに？」 HP も PP もゼロの発情状態だ。
**ヴァル：**「えへへ、ちょっといろいろあって～（じろじろ）」
**ハル：**「ちょっと、ここのリッチさんに用があるんですよ～（じろじろ）」
**大魔将（ＧＭ）：**「……笑いたければ笑えばいいじゃない」 すっかり心は折れているようだ。自身の肢体に向けられた、二人の視線に抗う余裕もない。
**ハル：**「笑いませんよ～♪　まずは体を綺麗にしましょうか？」 ぺろっと体を舐めたげつつ。
**ヴァル：**……っと、タイム！　ＧＭ、いつもセッション終わってから DP もらってるけど、今回はこの人調教して即 DP もらっていいかな！
**ＧＭ：**む？　**別にかまわない**よ。
**ヴァル：**「あ、よかったら、僕の奴隷になってくれないかな？」 気軽に聞いてみよう（笑）。
**ハル：**どうすればいいか、わかんないので控えて待ってます～。
**大魔将（ＧＭ）：**「……あなたたち、上級魔人でしょ？　あたしを奴隷にしたって**しょうがない**んじゃないの？　売るつもり？」
**ヴァル：**「違うよ。僕の奴隷としていっしょにいて欲しいんだ」
**ＧＭ：**む。いいだろう。奴隷にされると★は増えるしＮＰＣは増えるしで困るから大魔将にしていたが……何かあるというなら、やってみてもらおうか。
**ヴァル：**「奴隷にしてもいいかな？　僕はヴァラック、バフォメットを倒すつもりなんだ」
**ハル：**「わたしはハルディア。ヴァル様の奴隷です～」
**大魔将（ＧＭ）：**「あたしはニコラ・レミ。ニコでいいわ……」 長身で胸の大きな年上系。**ぱっと見てわかる魔族特性**はメガネ、闇のオーラ、支配の魔眼、あたりかな。
**ヴァル：**「じゃあ、ニコ。僕の奴隷になってよ」
**ハル：**「はふぅ、レロ、ペチャ……うふふ、安心してください～♪」 念入りに体中舐めてあげましょう♪
**ニコ（ＧＭ）：**「さんざん人形に弄られたあげく、上級魔人の奴隷……うう……」
**ヴァル：**「僕はこれからバフォメットも奴隷にするんだよ？」 慰めながら、くっついて。
**ニコ（ＧＭ）：**「そんなのどうせ無理よ。だって……」
**ヴァル：**「だって、なに？」 あ、発情してる内に調教しよう！
**ハル：**「こっちにもちゃんと手はありますよ～」
**ニコ（ＧＭ）：**「うう……だって、バフォメットの手下はすごい数なのよ？　あたしだって、元々はバフォメットと契約した人間だし……」
**ヴァル：**「ふーん、でもこれから君が契約するのは僕だよ？」 抱きしめてあげようー。
**ハル：**「わたし達だって正面からで勝てると思っていませんよ～」 私もニコによりそいますー。

**別にかまわない**
　本来、奴隷化や勝利による DP はその場で与えられるものである。このキャンペーンで DP を最後に渡しているのは、ＰＣが二人いることで計算が面倒になることと、セッション終了時のボーナス DP と同時に宣言しているからにすぎない。

**しょうがない**
　ヴァルたちは上級魔人なので、二段階格上の大魔将を奴隷にしても通常の魔族奴隷のような恩恵（つまり★の増加）はないのだが……？

**ぱっと見てわかる魔族特性**
　これで相手の方向性がわかるため、ＮＰＣが登場した際には重要。特にエロ描写の考慮において、より重要になる。

**ニコ（ＧＭ）：**「くぅ……」 困った様子で、ついついヴァルの背に腕を回して。
**ヴァル：**「奴隷になるんだから、お互いに好きになった方が楽しいよ？」 甘く囁きながら、乳房に口付けて――調教するよ！
**ＧＭ：**なるほど。じゃあ、ハルもフォローに入ってると考えて＋４あげよう。
**ヴァル：**よし、６成功！
**ＧＭ：**む、５成功だけどそっちの勝ちだね。ニコはヴァルの奴隷になってしまった。約束どおり 20DP あげよう。
**ヴァル：**じゃあ奉仕と魔力を上昇！　魔将になるよ！
**ＧＭ：**へぇ……ああ、**なれるのか**。で、どうするのかな。
**ヴァル：**魔王特性で「**大魔王の器**」を取るよ！
**ＧＭ：**ほう！　そんな手があったのか。一気によく上げたものだなぁ。
**ハル：**さすがに DP 稼いでただけありますね！
**ヴァル：**溜めててよかった！！
**ＧＭ：**ＯＫ、じゃあニコはヴァルの奴隷だ。★も四つ持っていいよ。ただ、自力で動けるようにするには奉仕してやらないとね。
**ヴァル：**望むところだー。
**ハル：**じゃあ、わたし下行きますね。
**ヴァル：**うぃ、ニコをハルと正常位になるようにして、ヴァルは後ろに行くぞ！
**ハル：**「そんな弱気になってちゃいけませんよ♪」 正面からキスしましょう。
**ニコ（ＧＭ）：**「だって、もうさんざん負けて……んむっ」 発情した彼女はされるがままだ。
**ヴァル：**「僕たちは、ニコの嫌がるようなことはしないよ？」 後ろからペニスをお尻に擦りつけよう。
**ハル：**「そうですよ～」 正面から乳房を揉みつつ、全身を擦り付けます～。
**ニコ（ＧＭ）：**「はぁ、はぁ……」 二人の間で息を荒くして身悶えしている。
**ハル：**「うふふ……私のケモまんこでよければ、好きにお使いください～」 足を開いて、直接擦り合わせてあげましょう♪
**ヴァル：**「んふふ、ね、ニコはどう？　ぼくのおちんちん欲しい？　ハルのおまんこ入れたい？」
**ニコ（ＧＭ）：**「ぅ……え、ええ、欲しい……わ」
**ヴァル：**「いいよ、僕たちのことっ、好きに使っていっぱい、気持ちよくなっても」 焦らしてみよう。

**ニコ（ＧＭ）：**「ど、奴隷なんだからそんな……」 何とか入れてもらおうと、浅ましく腰を使ってくる。
**ハル：**「ニコ様も、同じ奴隷のハルを好きに使っても、いいんですよ…っ！」 むしろ使ってくださいとばかりにしがみついちゃいます。
**ニコ（ＧＭ）：**「い、いいのっ？」
**ヴァル：**「恥ずかしがっちゃダメだよ。して欲しいこと、して欲しくないこと、ちゃんと全部僕に教えて？　僕も全部教えるから……、えっとね、とりあえず僕は、ニコのおまんこに、おちんちん入れたいなっ……♪」 まだ挿れたげなーい♪
**ハル：**「ニコ様っ……こんな雌犬でよければ、どうぞお使いください」
**ニコ（ＧＭ）：**「い、いいのねっ！　挿れる……からっ、ヴァラック……様もっ……来て……っ」 ハルの腰を捕らえ、ゆっくりと挿入を始める。同時に彼女の膣口が吸い付くようにヴァルのものを求めてくる。
**ヴァル：**「ヴァルでいいよ。優しく、してあげるっ……」 合わせるようにゆっくり腰を進めて、屹立をニコの中へ埋めていく。
**ニコ（ＧＭ）：**「んんっ、ふ、あ……ヴァル様っ」
**ハル：**「うわふっ、うふぅぅぅっ！」 こっちも交尾開始です～。
**ヴァル：**「んっ、ふふ、ニコ、かわいい♪　こっちにも、挿れる、よ」 尻尾を伸ばして先端で、菊座をぐりぐりしよう。
**ニコ（ＧＭ）：**「く、んっ……やさしく、ね」
**ハル：**「はぁっ、はぁっ、はいぃ……気の済むままに、楽しみましょう～」 腰をくねらせて。
**ヴァル：**「んっ、もちろんっ、やさしく、するよっ！」 やさしめに両方をかき混ぜてあげよう。
**ニコ（ＧＭ）：**「っ、は……は、い……っ」
　腰がびくりと跳ねて、ハルを突然強く突き始める。
**ハル：**「きゃひぃぃぃんっ！！もっと、もっとぉ……使ってくださいっ」 軽く絶頂しながら、自ら腰を動かします。
**ヴァル：**「んんんっ、は、今きゅってなったぁっ♪　は、僕のほうが先にイっちゃいそう、ニコぉっ！」 射精欲が高まるにつれて、腰は激しい動きになって。尻尾も腸内で捻り。
**ニコ（ＧＭ）：**「はぁっ、ふぁ、は、はひ……っ」 蕩けた目で乱れ……ハルの中で亀頭は張り詰め、ヴァルの粘膜に使い込まれた淫肉

**なれるのか**
　いざという時に呪文やアイテムを獲得したり、判定を振りなおすためヴァルは DP を貯蓄していた。

**大魔王の器**
　格上の魔族を奴隷にできる上、奴隷にできる人数自体も増える魔王特性。魔王になるとありがたみは減るが、魔将の時点ではとても役に立つ。

が絡みつく。
**ハル：**「あんっ！　うあぅっ！　わうっ！！　ニコ様っ、出してっ、中に出してくださいぃっ！！」 一気に上り詰め、射精を嘆願しながら膣肉を締めあげます。
**ヴァル：**「くううぅんっ、イっちゃうっ、びゅーびゅー出しちゃうよおぉっ♪」 しがみついて、勢いよくニコの胎内に精液を放っていき、尻尾も絶頂の痙攣で直腸をかき混ぜて。
**ニコ（ＧＭ）：**「ひっ……出るっ、出しながら、イっちゃうぅぅぅっ！！！」 二つの孔でヴァルをきつく搾りながら、ごってりとした精液の塊がハルの子宮に何度も打ちつけられる。
**ハル：**「あうぅぅぅ――んっ！！　あふっ……わぅぅ、すごひぃ……お腹が、熱いぃ……」
**ヴァル：**「あああぁぁんっ、すごい、搾られてるっ、とけちゃうっ、おちんちんとけちゃうよっ♪」
**ニコ（ＧＭ）：**「はぁ……はぁ……」 ニコはまだ、精液の残滓を注ぎ込みながら、荒い息をついている。
**ハル：**「わぅ……す、すごい、です」 こぽこぽ精液溢れさせちゃいます♪

**一汗かいて**落ち着いた一行。

ニコから聞きだしてみると、サマエルという迷宮を支配するリッチは、この迷宮で魔族の絶頂から発される瘴気を集めて異形モンスターを作っているのだという。

**ハル：**「うーん、かなりの規模ですよね～？」
**ヴァル：**「ねえ、ハル。もしかして、ロベリアさんのところから連れて行った奴……」
**ハル：**「えーっと、プリズンケージとかでしたっけ」
**ヴァル：**「うん……」 相手したくないよなぁ。
**ハル：**相手したくないですね……。
**ヴァル：**「でもしょうがない、ニコ、案内して！　そのサマエルってリッチに会いに行こう！」

部屋を出て冷静に観察すれば、そこかしこの部屋や通路の奥から、数え切れないほどの嬌声。
覗いてみれば、そこは粘液、触手、産卵、淫蟲……乱れる魔族に群がる異形モンスターの巣窟であった。
典型的エロＣＧ集の様相！
まさにここは快楽地獄なのだ！
そんなこんなでニコの案内通りに進めば、ついに迷宮の主の部屋にたどりつく。

**ヴァル：**「こんなに瘴気を集めてるなんて……うう、やらしいところだなぁ」
**ハル：**「す、すごかったですね～（発情）」
**ヴァル：**「いよいよかー」 ダメージ源はハルの属性両手武器が頼りだからよろしく！
**ハル：**はい！　いきましょう。

そして、二人は突入する！

**ＧＭ：**室内にいるのは、リッチ、ベインゴーレム２体、そして……骨の翼を持つ強そうなリッチがさらに一体だ。これがおそらくサマエルだろう。
**ヴァル：**うっ、まさかまた**強化**モンスター！？

ここで情報判定をするが、二人とも結果はおぼつかず。サマエルの正体についてはわからないまま。

**ハル：**ふ、普通のリッチもいますが……。
**ＧＭ：**言っておくけど、やっぱり突入やめるってのはナシだよ。
**ヴァル＆ハル：**ですよねー（汗）。
**ＧＭ：**まあ、ベインゴーレムはそちらからヘルハウンド２匹で対処していいよ。二人が勝ったらヘルハウンドたちも勝利だ。
**ヴァル：**くそー、やってやるっ！　突入！
**サマエル（ＧＭ）：**「大魔将が脱走か……むむ！」
**リッチ（ＧＭ）：**「ああっ、とうとうこの部屋まで脱走者が！」
**ヴァル：**「ぼ、僕たちは違うよっ、サマエルさんに用があって来たんだ！」
**ハル：**「はい。サマエルさんがバフォメットを倒す呪文を持ってると聞きまして～」
**サマエル（ＧＭ）：**「ほう、バフォメット様を倒すだと？　ふん、確かに並の魔族とは違う気配を感じるが……」 **大魔王の器を持った**ヴァル

**一汗かいて**
延々と続いているようだが、この合間で３回くらい奉仕をし合って、全員が全快状態したことは言うまでもない。

**強化**
ＧＭが勝手にデータをいじって普通より強く改造してしまうこと。たまに、とんでもない強さに改造されていることもある。

**大魔王の器を持った**
別に何を感じているわけでもないのだが。新しい能力を獲得したＰＣには、さりげなく演出でフォローしてあげるのがマナーだ。

に何かを感じているようだ！

**ヴァル：**「キミだって、あんなのに仕えたくて仕えてるわけじゃないんだろ？」 会ったことないけどね！

**ハル：**「いただけないようでしたら～……少し強引に行きますよ？」 臨戦態勢です。

**リッチ（GM）：**「バーカ！　サマエル様はバフォメット様の右腕！　バフォメット様の計画が成功した暁には、魔界の半分をもらうことになってる方なのだぞ！」

**ヴァル：**「その半分でなにをするつもりなの？」
　うわ、このリッチうざい。

**サマエル（GM）：**「さて、何をするつもりであろうな？」 リッチはスルー。

**ヴァル：**「研究なら別にバフォメットがいなくてもできるでしょ？」

**ハル：**「……呪文を渡してくれればお邪魔はしませんよ？」

**サマエル（GM）：**「ふん、邪魔というほどの存在でもない」

**リッチ（GM）：**「魔将と上級魔人、ヘルハウンドが２匹……ゴミですな」

**ヴァル：**「バフォメットに仕えてても先はないよ？」

**サマエル（GM）：**「確かに道理だ……だが、我を打ち破ることもできぬ連中の言葉に耳は傾けられんな！」 というわけで呪文詠唱開始。

**ヴァル：**う、戦うしかないかっ。

**●第１ターン**

**GM：**行動は、サマエル９、リッチ８。サマエルが**<大魔道>**使用。お、幸先いいな。**イビルブラスト**と**ブリザード**を成功値３で使用。イビルブラストは……ヴァルに使うよ。

**ヴァル：**闇のまといでイビルブラスト無効化！
　ブリザードも抵抗した！

**ハル：**うわー！　食らっちゃいましたー！

**GM：**ぐ、イビルブラストはハルにしとくべきだったか。じゃあ、ハルに 14 点の氷ダメージ。

**ハル：**うう、魔法相手はつらいです……。

**GM：**それとヘルハウンドは――両方抵抗失敗だね。氷に弱いから倍ダメージで 28 点っと。

**ヴァル＆ハル：**「「え！？」」

**GM：**何か？

**ヴァル：**へ、ヘルハウンドはあくまで補助戦闘してるから、**第三者からの攻撃じゃ**死なないんじゃ……。

**GM：**でも、全体攻撃で死亡するダメージ受けたら死ぬね。

**ハル：**は、早く戻しましょうっ！

**GM：**自分の手番でやってねー。次はリッチの<大魔道>……。

**ハル：**きゃーっ、全体攻撃とか出ないでーっ！

**リッチ（GM）：**「ククク、他のモンスターどもと一緒にするなよ！　我こそはサマエル様の副官として選ばれしエリートなのだからな！」 ウイドゥネットが２回だね。二人にそれぞれ使おう。魔力抵抗で３成功しないと戦闘 -2 だ。

**ヴァル：**抵抗したよ。

**ハル：**あう……まずいです。抵抗失敗。戦闘が７にされました……。

**ヴァル：**そ、それはまずい！　★使って抵抗成功させるよ！

　主ダメージ源であるハルの戦力低下はとてもまずい。
　呪文とエロ中心のヴァルではリッチにダメージを与えることができないのだ。

**ヴァル：**「たぁーっ！」 闇の力が浸食して、ハルに絡みついた糸を消滅させる！

**ハル：**「あ、ありがとうございます、ヴァル様！
　わたしなんかのために……」

**リッチ（GM）：**「こしゃくなぁっ！　しかし、こやつの闇の力を削りましたぞ！」

**ハル：**「くっ、次はこちらの番ですっ」 とりあえずわたしは攻撃します！　サマエルに５成功！

**サマエル（GM）：**「甘い……な」 ふふふ、６成功で巨大な魔法陣がハルの一撃を阻む！　**防御結界**だ！

**ヴァル：**長期戦はまずい！　★２つ使ってクリティカルだ！　闇のエネルギーでハルに！

**ハル：**「ふふ、あなたこそ……わたしたちの力を甘く見すぎです、よ！」 **暗黒パワー**で重力反動！　体を捻ってキックを叩き込みます！
倍ダメージ選んで、火属性 56 点です！

**サマエル（GM）：**「フハハハハハ、上級魔人如きが我が結界をごおおおおおおおお！！！」
　ズガァンと床がひび割れるくらいの一撃を喰

**<大魔道>**
　ランダムな呪文を二つ使う。マイコニドなどの<魔道>より選択肢の幅があるが、ランダムな上に表の内容が内容なので、ロクでもない呪文が出ることも多い。

**イビルブラスト**
　闇属性の攻撃魔法。MP 消費が安い。

**ブリザード**
　氷属性の全体攻撃魔法。

**第三者からの攻撃じゃ**
　不親切なＧＭである。

**防御結界**
　適当に言ってるだけである。そういう呪文を使ったわけでも能力を持っているわけでもない。

らって、頭蓋骨も陥没してしまう。
**ハル：**「（スタッ）結界が少し甘かったみたいですね～」
**ヴァル：**「**やったか！？**」
**ハル：**「ちょ、ヴァル様、フラグ立てないでください～」
**リッチ（GM）：**「ああっ！　サマエル様っ！はっ、待てよ……このままサマエル様が亡くなれば私がこの迷宮の……」
**ハル：**ダメなフラグも勝手に立ってるし！
**サマエル（GM）：**「ぐぐぐぐ……おのれぇ……並みのリッチならば死んでおった……ぞ」 ボロボロになりつつ骨の翼を羽ばたかせ、立ち上がる！
**ヴァル：**やっぱりなー。
**ハル：**「クッ、あれで倒れないなんてっ……」かなり強化されてるみたいですね。
**ヴァル：**ううん、行動をターン最後に遅らせていいかな。ヘルハウンドにこのターンだけ、ベインゴーレムの相手しておいてほしいんだけど。
**GM：**ふむ、まあいいよ。ただし、ヘルハウンドたちを収納するのは一行動とする。
**ヴァル：**了解。まあしょうがない。ここでこの子たちを道具扱いするわけにはいかないしね。
**GM：**じゃあ……そうだね、ヘルハウンドたちは一撃だけベインゴーレムにダメージを与えておいてくれた。
**ヴァル：**「二匹とも、下がってて！」 よし、ヘルハウンドを闇の牢獄に収納！

**●第２ターン**
**GM：**では次のターン、サマエルの＜大魔道＞！
**サマエル（GM）：**「おのれ、やってくれたな！」ハルに**ライトニング**とイビルブラスト！
**ヴァル：**「僕たちのことバカにするからだよっ」なんで攻撃呪文ばっかし出すんだー！　**庇え**ないかな！
**サマエル（GM）：**「おのれっ、魔族が庇い合いなど片腹痛い！」 いいけど、片方だけね。あと、抵抗失敗したらハルに問答無用でダメージだ。
**ヴァル：**「魔族にだって友情はあるんだーっ！」
　ふふふ、私**の魔力抵抗は 11 あります。しかも私は★をあと二回残している……その意味がわかりますか？**
**ハル：**「ヴァル様っ」 あ、ありがたいけど、そのフラグ立てはやめてください～っ！
**ヴァル：**……あ。

　抵抗失敗である。

**ハル：**だっ、だから言ったのにーっ！
**ヴァル：**……★使う。６成功になったよ！　抵抗成功！
**GM：**ハイハイ。じゃあ残りのイビルブラストはハルが抵抗してね。
**ハル：**はううう……受けましたー。
**GM：**じゃあ 19 点の闇ダメージね。
**ハル：**うう、痛いです。
**GM：**さらにリッチから＜大魔道＞。おや、**ヘルファイア**に**ヘルハウンド**とは。
**ヴァル：**なんでそんな強い呪文ばっかり出すんだーっ！
**ハル：**ええっとヴァル様、また庇ってもらえます？
**リッチ（GM）：**「……」

　リッチがわずかに迷う様子を見せる。
　と、次の瞬間――ヘルファイアはベインゴーレムとサマエルに向けて放たれる！

**ヴァル＆ハル：**「えええーっ！？」
**サマエル（GM）：**「な、何をする貴様ーっ！！！」
**リッチ（GM）：**「ククククク、貴方さえいなければこの迷宮は私のもの……魔族に受けた一撃が仇になりましたねぇ」
**ヴァル＆ハル：**う、うわぁ……。

　ベインゴーレムが一体大破。
　もう一体も半壊。
　サマエルはかろうじて抵抗。

**暗黒パワー**
　★を使って失敗を成功にする時は、とりあえず厨二表現で相手の成功描写を打ち消すといい。「秘められた力が発動」「一瞬だけ古の大魔王としての自我が覚醒」「しかしその失敗は倒れる寸前に見た幻影だった」など。

**やったか！？**
　ありがちな生存フラグ。そう言われてやられていた敵はまずいない。

**ライトニング**
　雷属性の攻撃呪文。対単体としてはコモン中最強。

**庇う**
　特にそういうルールはないが、できないということもないだろう。魔族的に考えて。

**私の魔力抵抗は～**
　『ドラゴンボール』より、有名な宇宙の支配者様の台詞アレンジ。こういったアピールが勝利につながることは少ない。

**ヘルファイア**
　火属性の全体攻撃呪文。コモン呪文では総合火力最強。

**ヘルハウンド**
　ヘルハウンドを１体召喚する呪文。コモン召喚系では最強。

**ヴァル：**あれ？　サマエルは**＜呪文防御＞**ないの？
**ＧＭ：**さあねぇ。
**ヴァル：**うーん、ＧＭが忘れてるだけって可能性もあるんだけど……。
**リッチ（ＧＭ）：**「私には貴方の呪文もベインゴーレムの攻撃も効きませんよぉ。何せ貴方と違ってちゃんとしたリッチですからねぇ……さあ、今です！　貴方たち、サマエルを倒しなさい！」
**ハル：**「向こうもなんだか大変な事になってますね～。とりあえずサマエルさんを倒しちゃいましょうか？」
**サマエル（ＧＭ）：**「ぐ……おのれぇ」
**ヴァル：**「待ってっ、サマエルさんを殺しちゃダメっ、先にあいつのほうを！」とリッチを指差して。
**ハル：**「あ、はいっ、そんな訳でごめんなさいっ！　ヴァル様の言うことなので～」リッチに攻撃！　５成功！
**リッチ（ＧＭ）：**「ちょ、約束が違うでしょおおおお！！」４成功、食らった！
**ハル：**「そんな約束してませんし～」28点の火ダメージです！
**ヴァル：**「だって、敵と戦ってるのに裏切る人なんて信用できないし」こいつは、絶対すぐに裏切る。
**リッチ（ＧＭ）：**「げふっ　おごっ！　ちょっ、味方ですよっ！　止めてっ　止め……！」
**ＧＭ：**ベインゴーレムはどうすればいいか分からない様子でうろうろしてる。
**ハル：**「え～と…何だかすごいことになっちゃいましたね～（汗）」
**ヴァル：**「ほらっ、サマエルさんも手伝って！」　と言いつつ、することないからハルに奉仕しとくー。
**サマエル（ＧＭ）：**「ぐぬぬぬ……よかろう！　こやつよりは、貴様らの方がマシだっ！」
**ヴァル：**「ハルっ、がんばってっ……」ハルの足元に跪いて、毛皮を撫でながら舐めて……そのまま秘所に舌を這わせていくよ！
**ＧＭ：**うむ、ボーナスは＋１だね。
**ヴァル：**よーし、８成功！　17点回復させたよ！
**ハル：**「ふぅ、ハァッ……これなら、まだ戦えそうですよ～」うわぁヴァル様、奉仕すごいですねっ。
**ヴァル：**それほどでもない。

主人としてそれでいいのだろうか。

**●第３ターン**
**サマエル（ＧＭ）：**「呪文が効かなければこうしてくれる！」**デストリア**と**ダークウォリアー**を召喚。
**ヴァル：**ホントに都合よく呪文が出るな！

いや本当に都合がよかった。
ダイス様も時には空気を読んでくださる。

**リッチ（ＧＭ）：**「ほ、ほら、手下を呼びましたよ！　力を合わせてあいつを倒しましょう！」
**バニッシュ**でダークウォリアーを送還。**ヒーリング**でハルを回復。
**ハル：**汚いなさすがリッチきたない。
**ハル：**「……どうしましょうか？」
**ヴァル：**「ダメに決まってるでしょ」
**ハル：**「そんなわけで、ごめんなさ～い♪」リッチに攻撃！　５成功ですね……。
**リッチ（ＧＭ）：**「ま、待て！　話せばわかります！　こいつが権限のすべてを持っているんですよ！　私なら貴方たちを……」５成功だけどＰＬ優先だね。
**ヴァル：**★あげるから、クリティカルで念入りに壊してあげて。
**ハル：**了解です！　56点の火ダメージをどうぞ♪
**ハル：**「ヴァル様は嘘付く人が嫌いですからね～」爪でバラバラに！
**リッチ（ＧＭ）：**「貴方たちを……ウボァァァァァーーーーー！！！」
**ヴァル：**「どうせ僕たちのことだってあとで裏切るつもりだったくせにっ」
**ＧＭ：**リッチが死ぬと召喚されたヘルハウンドも瘴気となって消えるよ。
**ヴァル：**「ああっ、ちょっともったいないっ」
**サマエル（ＧＭ）：**「……」

サマエルがベインゴーレムを下がらせ、戦闘態勢を解く。
戦闘は終了した。

**＜呪文防御＞**
不都合な呪文の影響を一切受けない、リッチのチート能力。

**デストリア**
召喚呪文。魔界の軍馬を召喚する。

**ダークウォリアー**
召喚呪文。暗黒の巨人戦士を召喚する。

**バニッシュ**
格下モンスターをセッションから退場させる呪文。

**ヒーリング**
回復呪文。ＨＰをエロくない方法で回復する唯一の手段。

**ハル：**「さて～、一悶着ありましたけど～どうしましょう？」
**サマエル（GM）：**「……よい。我も正体を明らかにするとしよう」 ばさりと、銀の光が室内に満ちる。
**ハル：**「正体、ですか。　きゃっ」 光に思わず目を覆う。
**ヴァル：**「うおっまぶしっ」
**サマエル（GM）：**「我はサマエル……天界モンスターにして魔界モンスターなり」 黒い薄布をまとった、ほっそりした両性具有の大鎌を持つ天使に見える。翼から溢れる光は、魔族の二人にはかなりつらい。
**ヴァル：**「て、天界モンスター？　え？　なんで、それが、ここに……」
**ハル：**「どうしてリッチなんて格好で？」
**ヴァル：**「それより、なんでバフォメットなんかに協力してるの？」
**サマエル（GM）：**「我は、彼の計画の後にバフォメットを討つつもりであった。上級魔人二人に負けた身では今更……であるが、な」
**ヴァル：**「つもりであった……って、今はちがうの？」 まともな人だったら、協力して欲しいし！
**ハル：**「そうですね。天界系の人とはしたことないですし～」

奴隷にしたいだけである。

**サマエル（GM）：**「我は滅亡をもたらす者。リッチの姿で取り入り、ヤツの勢力と計画を乗っ取るつもりであったが……この迷宮はアンクーの魔都を攻略せねば入れぬはず。魔族がかくも迅速に動くとは思わなんだ」
**ヴァル：**「もう言っちゃってもいいかな……実はね、アンクーさんが手伝ってくれてるんだよ」
**サマエル（GM）：**「……なるほど、な」
**ハル：**「アンクーさんは、僕たちにキミが持ってる呪文を手に入れてこいって言ってたよ」
**サマエル（GM）：**「……負けた以上、奴隷にされぬだけでも感謝すべきだ。我が領地の結束の脆さも見た。計画は再検討せざるを得まい（ため息）」
**ハル：**「それにしても、バフォメットさんって部下から本当に嫌われてるんですね……」
**サマエル（GM）：**「バフォメットの下でヤツに好意を持つ者などおらぬ。ヤツは、我らを玩具としか思っておるまい」
**ヴァル：**これは倒した後で、みんなに好かれる肉便器デビューとかさせるべきかな！
**ハル：**いいんじゃないでしょうか！
**ヴァル：**「じゃあ、バフォメットには、ちゃんと反省させないとね」
**ハル：**「えぇ、しっかり思い知らせてあげましょう♪」
**サマエル（GM）：**「かつてヤツの領民だった魔族は今、我輩やアンクーの下で犯されておる。信頼する者がいるわけもない」
**ハル：**「本当に嫌われてるんですねー」
**ヴァル：**「で、サマエルさん。その呪文はもらえるかな？」
**サマエル（GM）：**「……いいだろう。我よりもそなたらの方が奴を倒せる可能性は高い。しかし条件があるぞ。我はこれより、バフォメットと無関係に計画を実行していく。その邪魔はせんでもらおう」
**ヴァル：**「計画って……教えてもらえないのかな？」
**サマエル（GM）：**「我は我の目的がある。我とは相互不干渉を約束してもらいたい。また、捕らえている魔族もこれ以上の解放はせん」 ニコはＯＫということらしい。
**ヴァル：**ふむふむ、まあ構わないか。ニコがもらえるなら。
**ハル：**そうですね。あの人たちはあれで気持ちよさそうでしたし。

実に魔族的な思考である。

**ヴァル：**「他の領地を無理やり巻き込んだりしたら……また僕たちが出てくるかもしれないよ？」 一応釘は刺しとくけど。
**ハル：**「アンクー様はアンクー様で、そちらはそちらで、ですね。ともあれ、私たちはバフォメットを何とかしましょう」
**GM：**「ふむ。まあ今はその返事でよしとしておくか」 では、呪文をくれる！　レア呪文『エンスレイブ』だ。

●エンスレイブ
　レア呪文　消費 MP：20
　ＨＰが 1/3 以下となったモンスター、もしくは、ＰＰが 1/3 以下となった魔族・人間・天使に対してのみ使用できる。対象を使用者の『奴隷』にする。

**ヴァル：**すげー！
**ハル：**「これはヴァル様が使ってください」 わ

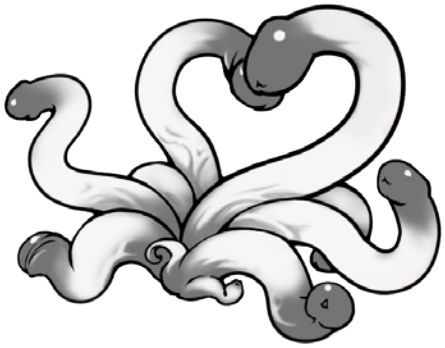
**うおっまぶしっ**
　カルトアニメ「MUSASHI -GUN 道 -」の迷台詞。

**肉便器デビュー**
　カットされているが、絶対隷奴のセッションではこういう雑談というか勝手な皮算用も多い。

たし魔力高くないですし！
**ヴァル：**「よーし、これでたいていの相手は奴隷にできるぞー！」
**サマエル（ＧＭ）：**「では、行くがよい。そなたらが奴を倒してくれること、我も願っておる」

かくしてサマエルに見送られ、二人はアンクーの魔都へと帰還するのだった！

**ＧＭ：**というわけで、今日はここまで！　DPをさしあげよう！　ニコさんの分は先に渡したからナシだ。セッション達成で二人に15点。ヴァルに２点（ソウルイーター）。ハルに９点（リッチ、サマエル、ベインゴーレム）だね。
**ハル：**わたしも早く魔将になって追いつかないと……。一気になりたいですし、まずはDP使わずにおきますね。
**ヴァル：**このままがんばって大魔将になろう！



## 天と魔の諜報活動

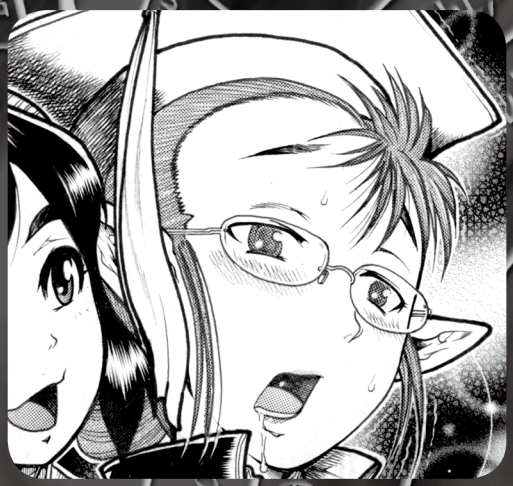
魔界において最悪の敵勢力は、天界である。
両世界が紛争を始めた発端については謎が多いものの、天界の奇妙な潔癖性癖にあるものと考えられている。
両者の間で行われた最終戦争により、天界は人口を極端に減らし、魔界は無数の小魔界へと分かれてしまった。
天界は、小魔界全てを監視することを不可能と判断し、主だった魔界のみ監視している。しかし、弱小の小魔界を見つければ容赦なく攻め込み、滅ぼそうとするだろう。
このため、両者の間では情報収集が常に行われており、組織化された天界においてそれは顕著となっている。

小魔界についての情報は天界にとって常に不足しており、それゆえパワー（永劫P44）やサマエルによる諜報活動が各自判断によって積極的に行われている。情報収集に特化した諜報用アポストル（P43）もまた使い魔として多数が放たれているようだ。また、拘束された魔族への各種拷問が行われていることも少なくない。
魔界へと斥候を兼ねて勇者を向かわせることも多い。彼らは言わば捨て駒であるが、成功すればセイントやエインフェリアへと取り立てられ、なお強力な天界の兵力となるのだ。
天界の情報収集は狭く深く、が第一である。天使たちは無数に分かれた小魔界を把握することを既に放棄している。一つの小魔界を徹底的に探り、確実に確固撃破せんとしているのだ。
大規模な軍が駐屯する場合を除き、魔界へ伝令役として現れる天使は下級の者たちばかりである。天界の上層部は自ら魔界などへはやってこないのだ。
神聖騎士（永劫P35）や姫巫女（永劫P37）といった低い立場と任務を受けた者たちが魔界へとやってくる。彼らは、天界における負け組であり、言ってしまえば堕天使ともなりやすい者たちだ。彼らは投げやりに、あるいは怯えながら任務をこなそうとする。多くは堕天使となるが、一部は生き残って任務を達成する。
こうして達成され、獲得された情報は天界で直ちに共有される。ことに組織力においては、天界は魔界より遥かに高い水準にあるのだ。情報共有についても、一部の私欲や醜聞に関する情報以外は直ちに魔界征伐のための作戦材料となるだろう。

こうした天界の諜報活動に対し、魔界が何もしていないわけではない。
疫病界の天使軍に対して重要なバランサーとなっていたのが“偽りの天使”ジリエル（永劫P61）だ。彼女の存在は多くの正面対決を避け、天界軍の力をそいできた。
天界と因縁ある魔界なら対天界エージェントがいてもおかしくない。天界と本格的にことを構えるなら、彼らの協力を得ることが大きな助けとなるだろう。..
また、大規模な戦争を始めるくらいなら、工夫を凝らして自ら天界軍に潜入してみてもいい。
それは魔族同士の馴れ合いの戦いでは決して得られない、おぞましくも心昂ぶる原始的闘争心を満足させてくれるだろう。死の際を歩み、殺意ある敵の中を縫って、勝利を掴み取るのだ。
快楽のぬるま湯に浸かり続けたからこそ、その感覚は妖しく。掴んだ勝利はすばらしい輝きを放つだろう。

天界と魔界が行うのは、人間同士と変わらぬ真の意味の戦争である。
敗北には地獄があり、勝利には苦悶が伴う。
たやすく得た勝利であろうとも、天界と魔界の戦争は傷み分けでは終わらない。
文字通り最後の一兵まで捕らえねば、魔族は殺されてしまうのだ。
魔族化する天使はいても、天使化する魔族などいない。

最後に。
天界との間で諜報戦が激化している際、堕天使らは要職から退けられ、牢獄に入れられる。
かつて、ある魔界において堕天使魔将が、天使だった頃の情に駆られ、天界に情報を流した。
開戦時にも天使らに協調行動をとったこの堕天使は、無数の領地を崩壊させた。
そして、最後には褒美として、天使長自らの手によってその堕落した恥ずべき存在を“消滅させていただいた”、のだという。
この逸話は、多くの魔王に広まっており、堕天使が実力を得ても地位を得づらい理由ともなっている。天使自体に対する差別意識にもつながっており、奴隷の立場にない堕天使ならば積極的に奴隷とすべき、といった風潮が強い。



## “黒の判事” ニコラ・レミ

**階級**：大魔将（★★★★）
**領地**：なし
**性別**：両性具有

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **戦闘**： | 6 | **調教**： | 5 | **体力**： | 5 |
| **運動**： | 8 | **奉仕**： | 8 | **魔力**： | 5 |
| **情報**： | １０ | **誘惑**： | 6 | **自尊**： | １０ |

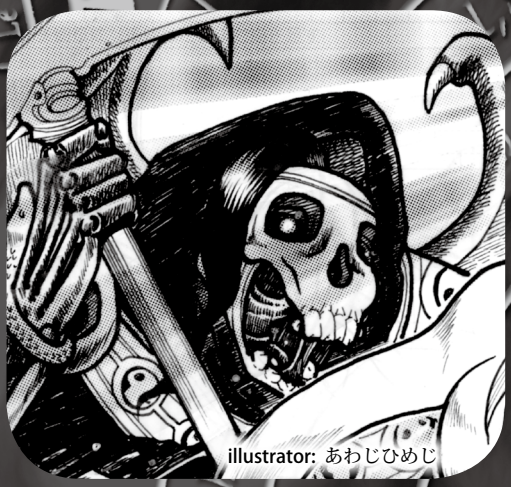
**魔族特性**：メガネ、人間、使い魔（拷問具）、闇のオーラ、支配の魔眼
**魔王特性**：天魔
**アイテム**：コモン×４（サマエルに捕まる前ならアンコモン×１を所有）
**呪文**：コモン×２

illustrator: あわじひめじ

**「そ、そんなっ、あたしだって好きでしたわけじゃ……！」**

魔王バフォメットの古株奴隷の一人。奴隷となった際は魔人だったが、率先して反対者を粛清する暗闘の結果、大魔将の地位にまで上り詰めた。バフォメットの懐刀の一人としてアンクー以上の立場を与えられていたが、魔族掃討という作戦に取り付かれたバフォメットは彼女を捨て、最下層奴隷としたのだ。新参の協力者サマエルの実験奴隷として幽閉され、皮肉にもかつて彼女が多くの人間や魔族にしてきた行為と変わらぬ境遇に堕とされる。

かつての彼女は人間の聖職者であった。狂信的かつ嗜虐的な彼女は内なる衝動のまま、残虐な尋問と判決を執り行い、魂を暗黒へ堕としては魔族化したのだ。その精神は臆病と猜疑、そして保身に満ちている。自ら頂点に立とうとはせず、誰かに依存して行動を正当化していくのだ。強き者が出会えば彼女は愛すべき奴隷と見えるだろう。しかし、弱き者が出会えばその限りではない。



illustrator: あわじひめじ

## ◆サマエル（★★★★）

**知能**：かなり高い
**会話**：可能
**攻**：９　受：８　ＨＰ：８０

**＜死の天使＞**：サマエルはターン開始時、リッチ（絶対隷奴 P82）かエインフェリア（永劫快姫 P46）、どちらかの外見と特殊能力を追加で獲得してもよい
**＜死の翼＞**：飛行移動、サマエルが受けるダメージは全て５点減少する
**＜死の手＞**：サマエルは死亡しても 1D66 日後に完全に回復した状態で復活する
**＜死の顕現＞**：サマエルは異なる世界や既に訪れたことのある任意の場所へ瞬時に移動できる（戦闘以外でのみ可）

天界と魔界、両方の力を持つ存在。あるいは唯一体しか存在しないイレギュラーという説もある。サマエルは美貌の聖戦士と白骨の死神という二つの姿を使い分け、魔界・天界・人間界、全ての世界で暗躍する。魔界で出会うとき、サマエルは一介のリッチに見えるだろう。しかし、これはリッチなどより遥かに恐るべき存在であり、高い知能によって自らの能力をよく認識している。

サマエルの恐ろしさは戦闘力ではない。その戦闘力はダークドラゴンやメタトロンなどの圧倒的暴力に比べれば遥かに制圧しやすいものだ。彼の恐怖は慎重さと計算、そして策略にある。死の天使たるサマエルは、それらを存分に振るい、終焉と滅亡を導くのだ。じっくりと時間をかけて用意された信頼や軍団こそ、彼の剣である。彼の計画と活動は全て、三界の均衡を崩すもの、一つないし複数の世界を滅ぼすために行われる。彼の役目は世界を終わらせることであり、既に複数の人間界や小魔界が彼の計画によって滅ぼされた。ただし、彼は役目として終焉を司るのみであり、常に理性的だ。悪意に囚われることはまずない。そのため、大きな貸しを作ることや、理詰めの説得によってその計画を変更させることは十分に可能である。

# 最終話　決戦！堕天要塞



　アンクーの魔都に帰還し、大魔将奴隷ニコラ・レミと束の間の休息を取る二人。
　しかし魔王バフォメットの計画はついに最終段階を迎え、この小魔界全てを巻き込み始める！
　二人はある人間界へ向かうべく、**ゲート**に案内されるのだった！

**ＧＭ：**というわけで、巨大な鏡状のゲートへと案内されるのだ。
**ヴァル：**おお、人間界で対決するのか。
**ハル：**これはまた壮大ですね〜。
**アンクー（ＧＭ）：**「密偵からの情報によれば、状況はかなりまずい。私はこの都の住人を避難させておく。この**小魔界**の運命が、お前たちにかかっていることは間違いない」
**ヴァル：**「運命……？　何が起きるの？」
**ハル：**「まだバフォメットさん当人のことロクに知らないんですけど……」
**アンクー（ＧＭ）：**「ヤツのいる人間界がほぼ**魔界化**した。それは、まあ、いい……！　この魔界の領土が増えるだけのことだ！　しかしヤツはその魔界化した人間界を……この魔界の上にそのまま落としてくるつもりなのだっ」 つまり、すごいコロニー落としをするつもりなのだ。
**ハル：**「そ、そんなことできるんですかっ！？」
**ヴァル：**「え、あの、でもアンクーさんたちって、バフォメットの部下とか奴隷なんじゃないの？」
**ＧＭ：**ルール上、そんな状況は想定されてないけど、まあこの小魔界に巨大隕石が落ちて地殻津波が起こるようなもの。大半の魔族・モンスターは生き埋めになり、消滅するかズタボロ。で、そこへ人間界に温存した手下が生き残りを掃討する……という構図なのだろう。
**ヴァル：**うわっ、なんか全然**違うゲームみたい**。
**ハル：**「ヴァル様……バフォメットはたぶん、部下も奴隷もまとめて潰すつもりじゃ……」
**アンクー（ＧＭ）：**「ああ。今、この魔都やサマエルの迷宮で犯されている魔族も。大半が元々バフォメットの領民や奴隷だ！　ヤツがそんなこと気にするものか！」 かなり怒り心頭の様子だ。
**ハル：**「……でしょうね」
**ヴァル：**「落ちてきた世界も無事じゃすまなそうだけど……」
**アンクー（ＧＭ）：**「だから、お前たちが頼りだっ。何とかしてきてくれっ！」 ヴヴンッ、とゲートが起動する。
**ハル：**「とにかく何とかしましょう、ヴァル様。この魔界が滅んだら本末転倒です！」
**ヴァル：**「ちなみに、残り時間ってどれくらい？」
**アンクー（ＧＭ）：**「密偵の報告では、５日後らしい」 ゲートに人間界が映り始める。
**ハル：**「あの〜、帰りはどうすれば……」
**アンクー（ＧＭ）：**「**大魔将**奴隷がいるだろう！」
　そう言って、二人をゲートに放り込む。
**ヴァル：**ご、強引な導入だっ！
**ＧＭ：**まあ、時間かけてもしょうがないしね（笑）。

　こうして、たどり着いた人間界。
　その光景はもはや、魔界も同然。
　しかも場所は瘴気漂う沼地だった。

**ゲート**
　領地経営の際に設置できる施設の一つ。調査済みの人間界へと次元移動できる。

**小魔界**
　魔界は無数の小魔界の集合体である。小魔界はそれぞれが一つの人間界と同様の広さを持つと言われている。

**魔界化**
　人間界そのものを堕落させ、魔界に併合すること。特にそういうルールはないので、今回の特殊イベント。

**コロニー落とし**
　『機動戦士ガンダム』における有名な戦術。スペースコロニーを質量兵器として相手惑星ないし衛星に落とし、大量破壊を起こす。

**違うゲームみたい**
　絶対隷奴はゆるくエロく楽しむゲームなので、こういう状況は普通起こらない。

**大魔将**
　魔界と人間界を行き来するには、ゲートか、大魔将以上という階級が必要である。

**ハル：**「ここが人間界……魔界とあんまり変わらないですね～」
**ヴァル：**「うん、もっと違うとこなのかなって思ったけど、つまんないよね」
**ＧＭ：**さて、ここからは今回のセッションの特殊ルール！
**ヴァル：**おお？
**ＧＭ：**一日は　朝・昼・夜に分かれる。今は１日目の朝。この人間界が魔界堕ちして、元いた魔界を押しつぶすのは４日目の夜！　バフォメットとの戦闘にも時間は必要だから４日目の昼には、バフォメットの元にたどりつかないといけない！
**ハル：**これはゆっくりしていられませんね！
**ヴァル：**急ごう！
**ＧＭ：**では１日目、開始ー！

**●１日目朝～昼**
**ＧＭ：**ここで行えるのは、この場所を探索するか、移動するかだが……どうする？
**ヴァル：**「沼地で誰もいないしなぁ、他に行こう」 移動してみよう。
**ハル：**「ですね～。早く見つかるといいんですが……」

ここで判定してたどり着く土地を二人で**決定**。

向かえる場所は森か都市。
情報の欲しい二人は迷わず都市に向かい、調査を開始する。

**ＧＭ：**都市に近づいても瘴気が渦巻いている。様子から察するに、よくある中世風ファンタジー系の人間界だね。
**ヴァル：シェイプチェンジ**で人間に化けて入ろう。
**ハル：**こっちもお願いします～。

人間に化けて都市に入る二人。

そこで二人が見たものは、広場にそびえる少女像（おそらくバフォメット）と、その周囲で乱交を繰り広げるダムンドやオークの群れだった。
探索の結果、なんとか生き残りの人々を見つけて４つの**情報を得る**。

・魔王はこの世界を魔界に変えている
・天使軍が降臨したが、魔王に敗れた
・天使の浮遊要塞を魔王は奪った
・魔王は北にいる

**ヴァル：**まずい状況だね……時間もないしさっさと移動しよう。
**ハル：**移動しましょう～。誰かに助けられるといいですね～。
**ＧＭ：**あ、あと**人がけっこう死んでる**ので……200 ソウル手に入るよ。
**ヴァル：**うわー、人間界侵略って儲かるなぁ！
**ハル：**魔界じゃなかなか手に入りませんよねー。

魔族は人間の事情など顧みないのだ。

**●１日目夜～２日目昼**
**ＧＭ：**おっと、次の移動先では荒野とイベントだね。自動的に荒野でイベントが発生したという演出だよ。６を出したハルが２ＤＲで発生イベントを決めたまえ。
**ハル：**あ、１ゾロ……**隷奴でよかった**です。

都市を離れ、荒野を進む二人に突風が吹きすさぶ。
空を見れば一人の**堕天使**を連れたフィーンドの群れ（小隊）が！

彼らは既にヴァルたちを見つけている。
逃げるか、戦うかだが……。

**ヴァル：**欲しい……！
**ＧＭ：**単に倒すなら、即座に移動できる。ただ

**決定**
ここでは１Ｄ６で途中の土地を決めた。［１：沼／２：山岳／３：荒野／４：森／５：都市／６：イベント］としている。イベントの内容は別表を２ＤＲで振って決定する。

**シェイプチェンジ**
ヴァルが初期から持ちながら、使う機会のなかった変身呪文。外見だけで能力値は変わらないが、潜入やエロ描写ではそのファジィさが珍重される。

**情報を得る**
ここで使ったのは誘惑判定。［合計成功値÷２］個の情報を得た。二人の話術や美貌が、人間から情報を引き出したということだ。

**人がけっこう死んでる**
魔界の通貨ソウルは人間の魂。なので、人間界で暴れれば暴れるほど儲かる。

**隷奴でよかった**
１ゾロがファンブルというＴＲＰＧはかなり多い。普通、出目は大きいほどいいのだ。

**堕天使**
かつて天使だった魔族をこう呼ぶ。魔族化した過程にもよるが、たいていＭ属性である。魔族アーキタイプの堕天使データをそのまま使用。

し奴隷にしたら、全快する代わり２日目の朝も消費するよ。
**ヴァル：**魔族奴隷増やしたいなあ。
**ハル：**奴隷にしましょう！　魔族的に考えて！
**ヴァル：**ＰＬもエロい展開の方がいいしね！
**ＧＭ：**なお、奴隷になるのは堕天使さんだけね。フィーンドはならないよ。
**ヴァル：**まあそっちは手に入らなくてもいいや（笑）。
**ＧＭ：**堕天使さんは若鹿のような肢体の美少女だ。堕落させられたとはいえ、まだ気高さを感じる……。
**ハル：**っと、階級はいかほどでしょう～？
**ＧＭ：**魔人だよ。
**ヴァル：**よし、リスクも少なそうだし。やる気出てきた！

ともあれ、ヘルハウンド２匹とルノー、ニコを連れたヴァルたちに、フィーンド小隊など簡単に抑えておける相手。
二人はじっくりと堕天使を攻略する！
まずはルノーの＜淫香＞によって堕天使を問答無用の『発情』に陥らせ……。

**堕天使（ＧＭ）：**「はぅ……」　発情状態でふらふらと落ちてきた。
**ハル：**「うふふふ、たっぷり馴染ませてあげますよ～♪」　きゃっちです。
**堕天使（ＧＭ）：**「ぅぅ……くぅぅ……ん」　発情して体をもじもじさせてるよ。
**ヴァル：**「えへへ、こういう子もいいねっ」　ニコとハルはむっちり系だし、珍しげにいじくり回す！
**ハル：**「天使って初めて見ましたけど、結構敏感な方なんですね～♪」
**堕天使（ＧＭ）：**「い、いいわ。魔族なら、あんな猿どもより、マシよっ……好きに、味わえば、いいじゃないっ」　生意気に言いつつも二人に積極的に体を絡めてくる。
**ハル：**やっぱり、フィーンドに輪姦されてたんですね～。
**ヴァル：**「ふふ、お姉さんも、いっぱい僕たちのこと味わってねっ……♪」　馴れてるみたいだし、挿れちゃおう。

このまま、二人がかりの調教であっさりと堕天使は奴隷化。
バフォメットの浮遊要塞の位置も確認する。
しかし……。

**ヴァル：**「ありがと……、これは、お礼、っ♪」
というわけで欲しがる堕天使さんに中出ししてあげようー。
**ハル：**「うふふ、羨ましいですよ～」　中出しと同時に、クリトリス吸ってあげますね♪
**堕天使（ＧＭ）：**堕天使さんは天使の頃に抑圧され、堕落してからもモンスターに犯されてばかりだったのだろう。二人を積極的に求めてくる！
**ヴァル：**淫乱な子でかわいいなぁ。
**ＧＭ：**と、ここで自尊判定！　目標は２成功！
二人とも成功しないと堕天使さんに求められるままエチして、時間をさらに消費する。
**ヴァル：**うへー。厳しいな……０成功。
**ハル：**３成功ですね。
**ヴァル：**★使うのはもったいないし……一回くらいいいかなと個人的に思うんだけど、どうだろう。
**ハル：**一回くらい、いいですよね！
**ＧＭ：**では、**キンクリさん**乱入！　ニコやルノーたちも加わって、みんなで昇った日が暮れるまで乱交した！
**ヴァル：**「そ、**そろそろ**行かないとまずいかな……っ」　ヘルハウンドと堕天使さんをサンドイッチにして射精しつつ！
**ハル：**「そう……っ、です、ねっ」　ルノーに奉仕しながら、ニコとヘルハウンドに犯してもらってます～。
**ヴァル：**じゃあ、移動しよう。

実に魔族らしい旅と言わざるをえない。

**●２日目夜～３日目昼**

今度は都市でイベント。
都市はモンスターに乗っ取られ、**ゾンビ**が蠢いている。
広場の中央に立てられたバフォメット像の周りでダムンドたちが絡み合い。
リッチが奇怪な儀式を行い、魔界と人間界をリンクさせていた！

**キンクリさん**
時間が一気に飛ぶこと、あるいはエロいシーンを省略すること。『ジョジョの奇妙な冒険』第五部のボス、ディアボロのスタンドであるキング・クリムゾンの能力から。

**そろそろ**
限界のない魔族は、放置しておくと延々と飽きるまで続ける。相性がよければ年単位で続ける魔族もいる。

**ゾンビ**
魔族的には弱すぎるのでエキストラ扱い。つまり、倒したと一言いえば倒したことになる程度のモンスター。

交わり合うダムンドたちが紡ぐ瘴気が呪文に力を与え、二つの世界を重ならせていく……！

このリッチが全てを行っているわけではあるまいが、役割の一部を果たしていることは**間違いない**。

**ハル：**「ヴァル様、あのリッチを何とかすれば時間稼ぎになるかもしれません～」
**ヴァル：**「よし、やっちゃおう！　こんな大魔法が使えるならもっと楽しいことに使えばいいのに！」
**ハル：**「そうですよね～　それじゃあ……」 爪を剥き出しにして戦闘態勢！
**ＧＭ：**では、こちらの陣容はリッチ１体、ダムンド一個中隊、ヘルハウンド１体だ！　手下同士は相殺して、リッチと戦闘してもらおう！

とはいえ前回、強化リッチとリッチのコンビを倒した二人である。
★を使うまでもなく、倒されるリッチ。
もっとも、二人も無傷ではない。

**ハル：**うーん、けっこうダメージ受けちゃいました。
**ＧＭ：**リッチの行っていた儀式は途切れ、この世界に満ちていた瘴気がいくぶんか薄まる。期限が５日目の昼まで延びた。

余裕を感じた二人は、都市の探索を選ぶ。
情報判定の結果、ヴァルはリッチの懐から**呪法典**を発見。さらに都市の死者たちから 400 ソウルを回収した。

一方、ハルは二人を監視する謎の存在に気づく。
特に手出ししてくる様子はないようだが……。

**ハル：**「姿をお見せになってはどうです？」
**？？（ＧＭ）：**「……キミたちはアンクーの手下？」 ハルの背後から耳元に囁くようにして何者かが話しかけてきた。
**ヴァル：**「んふふー、得したなーっと」 気づかず、呪法典手に入れてよろこんでる（笑）。
**ハル：**「きゃうっ！　はい、そんな所ですね～」
**サフィー（ＧＭ）：**「ボクはサフィー。アンクーに密偵を頼まれた**シャドウストーカー**だよ」 ボクっ子だね。中性的だけど女の子だよ。ハルの体へ、衣服を通り抜けて肌を直接撫で回すように小さな手で弄ってくる。
**ハル：**「そういえば、アンクーさんのスパイがいるって言ってましたね」 ちょっと息荒くしちゃいます。
**サフィー（ＧＭ）：**「バフォメットを倒すなら急がないと……」 サフィーの指はハルの体中を這い回り。うなじを小さな舌が、ぴちゃぴちゃと音を立てて舐めてくる。奉仕で 11 点回復だ。
**ハル：**「それで、バフォメットについて何か……ああ……ありがとう、ございますっ！」 奉仕のお礼言っておきます！
**サフィー（ＧＭ）：**「ん、はむ……急いだ方が、いいよ。要塞にも、大量のモンスターがいるからっ、んっ、ちゅ」 耳を甘噛みしたかと思うと突然、下から秘所を舐められる。
**ハル：**「そうですか、要塞に着いてもすぐに戦えるわけじゃ……っきゃひぃぃんっ！！？」
秘所への一舐めがトドメとなり思わず絶頂に持ってかれてしまいます～。
**サフィー（ＧＭ）：**「っと……ごめんね、やりすぎちゃった♪」 くにっくにっ、と絶頂中のクリトリスをお詫びにいじってくれる。13 点回復どうぞ。
**ハル：**「はぅ、はぁっん……」 痙攣しつつ全快です～。
**ヴァル：**「あれ？　どうしたの？」 まるで気がついてないよ！
**ハル：**「あ、あの、こちらアンクー様の密偵のサフィーさん……」 気付いてくださいよ！
**サフィー（ＧＭ）：**「よろしくね♪」 その間も、ハルの体をいじりっぱなしだけど（笑）。
**ヴァル：**ハルばっかりいいなあとか、羨ましそうにしてるー。
**ハル：**「はぁっい……ありがとうございます……あふっ」
**ＧＭ：**さて、どうする？　さらに時間を使うかな？
**ヴァル：**「僕もちょっと消耗してるし、奉仕して欲しいかな……」 時間使おうー。
**サフィー（ＧＭ）：**「ふふ、いいよ。でも時間にならないよう気をつけて……」 サフィーはそのまま影を通し二人を同時に奉仕してくれる。
**ヴァル：**「んっ、あ、すごい、上手ぅっ♪」 わーい！　堪能させてもらおう。

二人は、影を通してあちこちから這い出す指と舌と蜜壷に、さんざん弄って舐めて搾ってもらい、

**間違いない**
省略しているが、情報判定の結果である。

**呪法典**
魔力を増加するコモンアイテム。

**シャドウストーカー**
隠密行動に長けた魔将級モンスター。痴漢プレイが得意。情報の低い魔族には天敵と言える。

全快した。
　ひとしきり楽しむと、サフィーは二人に詳しい情報を伝え、さらにアンクーへの報告のため立ち去る。

**ハル：**「ああん、あの子も奴隷に欲しかったです～」
**ＧＭ：**とりあえず情報効果のおかげで、二人はバフォメットの要塞について多くを知った。以後、敵の奇襲は無効。**トラップ**に対する判定には＋２のボーナスだ。
**ヴァル：**おー。それはありがたい。次に進もう！

**●３日目夜**
　そしてまた**イベント発生**。

　バフォメットの要塞が近づくにつれ、街道へ等間隔にバフォメットの少女像が立ち並び始める。
　草原風になったそこかしこでデストリアが草をはみ、ハーピーが空を飛び回っている。
　のどかではあるが……それは明らかに魔界の光景だ。
　そしてその彼方に。
　**ワイバーン**、フィーンド、堕天モンスターなどが飛び回る……浮遊要塞が見えてきた！

**ハル：**「いよいよ、ですね……」
**ヴァル：**「まあ、気楽に行こうよ。どうせえっちするだけなんだし」
**ＧＭ：**飛行能力がないと要塞には入れないよ。何かアテはあるのかな。
**ヴァル：**うん、問題ないよ。さっきの堕天使さんを呼んで、**ナイトウイング**の呪文をかけてもらう！
**ＧＭ：**っと、そうか。アーキタイプ通りの内容って言ったもんな……**了解**。

**ハル：**はいー。じゃあ行きましょう！
**ＧＭ：**では要塞へ！

　破壊の跡が残る浮遊要塞。
　穴だらけの要塞は侵入もたやすく、防衛装備もロクにない。攻められることなど考えていないのだ。
　この要塞は滅ぶ魔界と人間界から身を守るための箱舟に過ぎないのだから！
　飛び交うモンスターの間をかいくぐり、要塞へ入り込めば奴隷たちを呼び出していくヴァル。
　ついに決戦が始まろうとしていた。

**●４日目朝～夜**
**ＧＭ：**というわけで、バフォメットまであとわずか！　しかしそれゆえに番兵のモンスターやトラップも苛烈！
**ヴァル：**むむむ！
**ＧＭ：**モンスターとは自ら戦ってもいいけど時間を消費するよ。同じ★分の奴隷を置いていくことで時間消費せず次に向かうことができる！
　魔族奴隷を置いていっても★はそのままだよ。
**ハル：**「流石に近くにはいろいろありますね～」

　しかしサフィーから得た情報のおかげでトラップはことごとく打破！

**ＧＭ：**するとそこにはマントラップが……。
**ヴァル：**ルノーを置いていく！
**ＧＭ：**オーク小隊が……。
**ヴァル：**さっきの堕天使さん置いていく！
**ＧＭ：**ソウルイーターが二体……。
**ヴァル：**ヘルハウンド二体置いていく！

　モンスターを置いて一気に突っ切っていくが……！

**ＧＭ：**最後の番兵は**サラマンダー**と**ダークドラゴン**だ。

**ヴァル：**う。ハルが置いていけない以上、ニコに片方相手してもらって自分で戦うしかないか……。
**ＧＭ：**ただ、バフォメットのところにいるのが

**トラップ**
　絶対隷奴のトラップはイベントや敵の能力のように演出されることもある。いわゆる一般的な「罠」とは異なる外見のことも多いが、ルール上では全てトラップとして扱う。

**イベント発生**
　３回目のイベントで浮遊要塞が見つかることになっていた。

**ワイバーン**
　飛行系モンスター。そこそこの強さ。

**ナイトウイング**
　運動上昇と飛行能力を与えてくれる呪文。

**了解**
　実はここで飛行モンスター確保をしてもらおうと思っていたことは秘密である。

**サラマンダー**
　魔将級ふたなりモンスター。かなり強い。

**ダークドラゴン**
　大魔将級ふたなりモンスター。すごく強い。

バフォメットだけとは限らない、とだけは言っておこう！
**ヴァル：**できればここで奴隷増やしたいよね……時間はまだ余裕あるし。
**ハル：**ドラゴン欲しいですけど、戦ったら★使っちゃいますよね……。
**ヴァル：**ＧＭ、それぞれ外見はどんな感じなんです？
**ＧＭ：**サラマンダーは**氷属性の**クールなロリっ子。ドラゴンは、堕落したシャインドラゴンなのだろう。チャイナドレスの艶っぽいお姉さんだ。
**ヴァル：**よし！　ロリっ子にしよう！
**ハル：**そうですね！

そんな基準で選ぶのが魔族クオリティ。

**ヴァル：**じゃあ、ドラゴンは**ニコにお任せ**で！
**ハル：**サラマンダーさんと戦いましょう！
**サラマンダー（ＧＭ）：**「……面倒だし、このまま帰ってくれないかな」

しかしＧＭは失念していた。
ハルは第四話で、対リッチ用に属性両手武器（火）をもらっているのだ。
氷属性サラマンダーにとって、火属性は倍ダメージである。
倍ダメージでズタボロにした後、余裕を持ってヴァルが魅了し、ハルが陵辱する……。

**ハル：**「うふふ、ちっちゃい体で真っ赤になっちゃってかわいいですね～」 サラマンダーさんのおちんちんを弄ってあげましょう。
**サラマンダー（ＧＭ）：**「奴隷に、するの……？」 小さく身を捩じらせてる。
**ヴァル：**「後で僕にも貸してほしいなー」 いっしょに後ろから挟んじゃおう！
**ハル：**「だいじょうぶですよー。わたしも奴隷ですけど、気持ちいいことしかしませんから～」 ペニスを犬舌で舐めてあげて。
**サラマンダー（ＧＭ）：**「ん、消されちゃうより、いいし……」 顔は無表情だが、体はひくひく震えて反応してる。
**ヴァル：**「僕もよろしくねー」 後ろから小さなお尻にペニスを擦りつけてあげよう。
**ハル：**「くす、いっぱい乱れていいんですよー」
正常位で幼いペニスを誘いながら、後ろのヴァル様に目配せです～。

**サラマンダー（ＧＭ）：**「どうせ他の奴隷と……遊んで、すぐ……忘れるんでしょ」 睨みつつもハルに引き寄せられて。
**ハル：**「そんなことしませんよ～。一日中、くっついててあげます♪」 腰を浮かせて挿入しつつ、こっちから抱きしめてあげるのです♪
**ヴァル：**じゃあ、こっちは後ろから思いっきり……。

そんなわけで、サラマンダーを奴隷に手に入れる二人だった。
そのまま最終戦闘前の景気づけにと、二人がギリギリまでサラマンダーの奉仕を受けたことは言うまでもない。
横ではニコが延々とダークドラゴンとの死闘を続けていたのだが。

**●５日目朝**
かくして、門前での短い戦闘と長い淫行が終わり、ついに最後の扉が開く！
そこは浮遊要塞の司令室！
元々は清潔だったろう司令室だが……今は見る影もない。
そこかしこに精液や尿が飛び散っていやらしい異臭を放つ上、今も中央にはモンスターの一群と。

魔王バフォメットがいた。
少女の姿、青紫の肌、山羊の角、黒い天使の翼、全身に浮かぶ魔紋……淫らな、隠すべき所を隠さない衣装の魔王である。

さらに、その玉座は怪物の群れ。
背もたれは数多の堕天使を捕らえたプリズンケージ！
マント代わりに体を這い回るのはテンタクルス！
肘置きは二体のダークウォリアーの巨根！
さらに股間には二頭のヘルハウンドが舌奉仕！

**ヴァル：**何それ、うらやましい！
**バフォメット（ＧＭ）：**「ふ～む。魔界堕ちが遅れておると思ったら、邪魔者がおったのか」
**ハル：**「ええ、そろそろこの戯れもお終いにして。新しい遊びを教えてさしあげます♪」
**バフォメット（ＧＭ）：**「ま、もうすぐじゃ。せっかくじゃし、おぬしらもここで見物しておくとよいぞよ～。何せ世界が二つもぶっこわれるんじゃからのう。そうそう見れるものではない

**氷属性の～**
魔界のサラマンダーは元素の化身であり、火・氷・雷の３タイプがいる。

**ニコにお任せ**
実際には奴隷もアンコモン呪文やアイテムもない大魔将が、ダークドラゴンに勝つことはほぼ不可能なのだが。簡易戦闘では何とかなってしまうのである。

ぞ」 足をバタバタさせて笑ってる。ヘルハウンドが顔けられてキャンキャン言ってるけど気にしてないようだ。
**ヴァル：**「こらーっ、かわいそうでしょ！　今からでもみんなに謝って魔界に帰りなよ！」
**ハル：**「やっぱりどこまでも慢心ですのね……」
　様子を見てますます倒したくなってきました。
**バフォメット（GM）：**「ん？　かわいそう？こういうのかやwwww？」 げしっと小さな足でヘルハウンドを蹴る。
**ヘルハウンド（GM）：**「ギャイン！」 傍の壁に**叩きつけられ**倒れ、瘴気に分解される。
**ヴァル：**「……言うこと聞かない子は、お仕置きしちゃうよ？」
**バフォメット（GM）：**「はぁ～？　お仕置きぃ？」
**ハル：**「うふふ……ヴァル様、話は通じないようですし、ここは仕掛けちゃっても……構いませんよね？」 さすがに青筋が浮いちゃいます。
**バフォメット（GM）：**「ぷひゃひゃひゃひゃwwww　やってみたらどうじゃwwwww　無理無理無理wwwww」
**ヴァル：**「泣いて謝ったって、もう許してあげないからっ！」 う、うぜぇっ！
**バフォメット（GM）：**「ちょwww　泣いて謝るとかwww　謝らせてwwwwwwwww」
　ごすごすと、もう残ったヘルハウンドの背中殴ってる。
**ハル：**「……奴隷に落としましょう。ヴァル様、いいですよね！？」 珍しく怒ってます！
**ヴァル：**「いいよっ、好きにしちゃって！」 こっちも呪文発動準備開始！
**バフォメット（GM）：**「ひーwww　ひーwww　あー、笑った笑った。久しぶりに大爆笑じゃw　褒美をとらせよう。魔族はぜんぶ触手漬けの予定じゃったが、褒美にわらわの玩具にしてくれようww」
**ハル：**「……貴方こそ、こちらの玩具にしてあげますっ！」 飛びかかる！

**GM：**では相手側は、バフォメット、プリズンケージ、ヘルハウンド、テンタクルス、ダークウォリアー×２。バフォメット以外で★は８つ。
**ハル：**こりゃまた多いですね……こっちで残ってるのはニコとサラマンダーさんですか。
**ヴァル：**向こうの★一つ分が通っちゃうね……ダークウォリアーはこっちで相手しよう！

　さらにここで情報判定。

　二人はバフォメットの魔王特性を感じ取る。

**GM：**トリックスターとサバトの主、という魔王特性を持っているね。サバトの主は効果不明。けど、トリックスターについてはルール参照していいよ。絶対隷奴 P118 だ。
**ヴァル：**えーと、どれどれ……。

　モニターの向こうでルールブックを見る二人。

**ヴァル：**ああ、だからエンスレイブ使えってことなのか。
**ハル：**倒すと逃げちゃうんですね……加減、しないと。
**GM：**ただしこっちからも攻撃はできないけどね。
**ヴァル：**HP を減らさずに PP だけギリギリまで減らしてエンスレイブ使わないと……！
**ハル：**あとはオリジナル魔王特性も注意しましょう。

**●第１ターン**
**GM：**それじゃあ戦闘に入ろう！　行動はバフォメットが 10、ダークウォリアーが６だ！
**ヴァル：**さすが魔王、速いな！
**GM：**しかしその前に、バフォメットの魔王特性「サバトの主」！　自尊判定せよ！
**ハル：**さっそくきましたね！　２成功！
**ヴァル：**０成功……。
**GM：**ああ、成功さえすれば何ともないよ。
**ヴァル：**ううん、失敗するとどうなるんだろう。不気味な能力だ……。
**バフォメット（GM）：**「ほーれ、楽しませてくれようぞ」 行動で召喚呪文使用！　プリズンケージ！　発動成功！
**ヴァル：**うげ……。
**GM：**ずののののっと巨大なプリズンケージが追加で現れる。戦闘参加は次ターンから……でも常駐能力は発動！　全員『発情１』！　抵抗不可！
**ハル：**「ハッ、ハッ、ハッ……（発情中）」
**ヴァル：**「ふああああぁぁ、あ、んっ、匂いっ、くらくらしちゃうよぉ……」 あれ？　全てってことはバフォメットも？
**バフォメット（GM）：**「ほれほれ、魔族は難しいことを考えずによがっておればよいのじゃwww」 ふんぞり返って、すじから愛液たらしつつ高笑い。明らかに発情してる。
**ハル：**わ、わたしの番ですね！　モンスターを

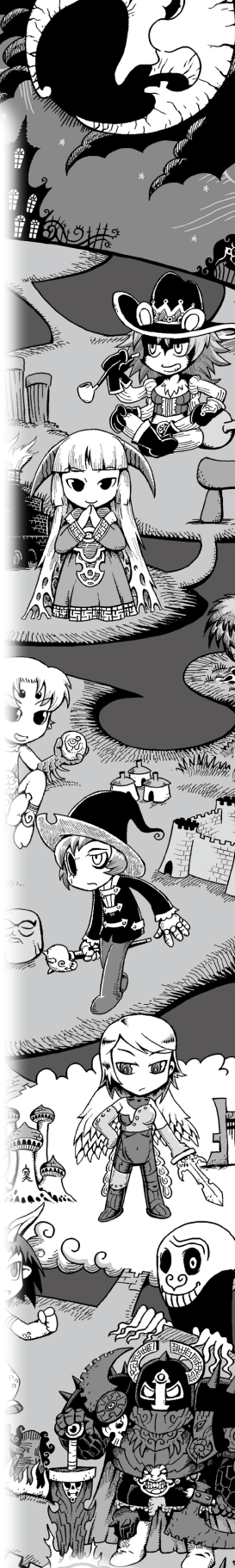
**ww**
（笑）と同じような意味。生理的嫌悪感を持つ人も多いので、ネット上での使用は計画的に。

**叩きつけられ**
犬好きの二人に対する挑発である。ＰＬの嗜好を知っておけば、こういう時にも利用できる。

倒しときましょうか！？
**ヴァル：**「そっちだってとろとろにしちゃってるくせにっ！」 発情してるから、バフォメットをガンガン調教して！
**ハル：**了解、調教！　モンスターには目もくれず、バフォメットを押し倒し、組み伏せます！
**バフォメット（GM）：**「わぎゃー！　こっ、後頭部がっ！　後頭部がっ！」 ふんぞり返ってたら押し倒されて床に後頭部ぶつけてる。
**ハル：**「貴方が、いけないのですよ。こんな格好で、そんな生意気な口でっ……」 唇で、バフォメットの口を塞ぎ。深く、舌を入れて。体中を肉球のついた手で弄ってあげるのです！
**バフォメット（GM）：**「おおー、いだだだ……ふむっふ……もごー！」 いきなり唇を奪われてもごもごじたばた。
**ハル：**「魔王だって、発情すればただの魔族……まだまだこれから、ですよ？」 涎を交換しあうように舌を絡め、ぐちゃぐちゃと混ぜ合うのです！　以上！
**GM：**では調教＋４どうぞ！
**ハル：**でも、元が調教４なんですよね……あう、１成功。
**GM：**５成功で抵抗！
**ハル：**……５DPで振りなおします。４成功！
**ヴァル：**短期決戦！　★で７成功にして調教成功させる！
**ハル：**じゃあ８ダメージは入ります！
**GM：**甘いわぁ！　アンコモンアイテム「親衛隊」使用！　傍にいたモンスターに庇わせて初回ダメージ無効！
**ヴァル：**げぇ！　硬い！
**GM：**キャンペーンボスをナメるなよ！
**ハル：**低いダメージでよかったと考えましょう！　ヴァル様も調教を！
**バフォメット（GM）：**「んむぅぅぅ……ふふふふ……おぬしのよーな、身の程知らずは今までもおったわい。しかし、わらわを奴隷にできた者などおらん。やめておいた方がよいぞ……」
**ヴァル：**「あーっ、ハルばっかりずるいよっ」 こっちも調教開始！　バフォメットの脚を広げさせて幼い秘所を嘗め回してやろう。
**ハル：**「うふふふふ……」 獣が子を愛でるようにバフォメットの顔を舐めてあげるのです♪
**バフォメット（GM）：**「ひゃぅっ！　おおぉぉのれぇ、二対一とは卑怯なぁ……」 発情した秘所はさっきのヘルハウンドの唾液が混じって獣臭く、また大量の蜜がどろりとあふれ出す。
**ヴァル：**「んっ、ちゅ、ケモノの味……っ、ふふ、ヘルハウンドとするの好きなの？」 音を立てて蜜を啜り、舌先で軽くクリトリスを弾いて。中にまで舌を這いこませて。以上で！
**バフォメット（GM）：**「ふんっ　あやつらの舌は熱ぅて巧みじゃからの！」 ぺちぺちと山羊しっぽでヴァルの顔をはたいてくる。魔王の愛蜜はさすがに甘露だ。
**GM：**では調教＋５でどうぞ！
**ヴァル：**う、４成功……。
**GM：**10成功！
**ヴァル：**な、なにー！　うぐぐ……★２つ！ クリティカルにして26ダメージ！
**GM：**了解。★を景気よく使うねぇ（笑）……魔界メイド使用。６ダメージにしとく。
**ヴァル：**ぐぅぅぅ。減らないー！

その後、発情したダークウォリアーの調教にハルは何とか抵抗する。

**●第２ターン**
**GM：**さあ、バフォメットの「サバトの主」だ。自尊判定どうぞ！
**ハル：**えぅ？　ファンブルです！
**ヴァル：**１成功……そこは振りなおして！
**ハル：**……何とか、２成功。
**GM：**ちなみに失敗すると、ターン終了までバフォメットを行動対象に選べなくなるよ。
**ハル：**うわぁ……きつい……。
**GM：**さらにバフォメットの行動！　追加でヘルハウンド召喚！　発動成功！
**ヴァル：**げっ。
**ハル：**また増えました……。
**GM：**プリズンケージは行動７だから、ハルがお先にどうぞ。
**ハル：**「んふふ、かわいい。ん……ちゅぅぅぅぅっ」 調教で！　乳首に吸い付いて、おしおき代わりに歯で挟んで転がしてあげます！
**バフォメット（GM）：**「お、おのれー！　美少女に対してエンリョエシャクのない奴らじゃっ！」
**ハル：**「ふふ、そんなにピクピクして、本当にかわいいですね……」 後ろに手を伸ばして……お尻の穴をくにくに弄ってあげるのです～。
**ヴァル：**「んっ、おいしいね……でも、おちんちんにはちょっとキツいかな……？」 ぴちゃぴちゃと音を立て、膣内に舌を出し入れして。
**バフォメット（GM）：**「んぎゅぅぅぅぅふぅぅぅ！！　侮るでなひぃっぉぉおおおおおお！！！」 激しく弄られ舐められると、二人の目の前でびくんびくんと腰が跳ねる。
**ヴァル：**「へー、じゃあ入れてもいいよね？ いいんだよね？」
**バフォメット（GM）：**「ぅぐ？　ま、待てー！」
**ハル：**「まあ。それは美味しそうですわ～」 れろんと顔を舐めて……以上で。



ここでハルは素の出目で何とか９ダメージを与える。
これもバフォメットは魔奴隷で打ち消してさらに１点回復。

**ヴァル：**まるで減らない！
**ハル：**けど、さすがにもう回復手段はもうないはずです……！
**ＧＭ：**では、プリズンケージが二人の体に触手をまとわせてくるよ。命中すると『拘束２』だ。
**ヴァル＆ハル：**ぎゃー！！

ここで★を１つ使って何とか二人とも触手から逃れる。

**ヴァル：**さらに調教！　試しにつぷりと指を入れて、バフォメットの膣内を確かめてみよう。
**ハル：**「さすがは魔王様～。でしたら、こっちも馴れてますよね？」 こちらもつぷっと、お尻に指を入れてあげましょう～。
**バフォメット（ＧＭ）：**「ひゃわっ……！　や、やめぬか、格下がー！」 ちっちゃいお尻の穴をきゅっきゅっと窄ませて見せてくれる。挿れ馴れてるようには思えないね（笑）。
**ハル：**「うふふふ……かわいい魔王様ですこと」
**ヴァル：**「くす、狭くて気持ちよさそうだね♪」
くちくちと差し入れた指でかき混ぜて、下準備をするように――以上で！

さらにヴァルは★を使って強引にクリティカルを出し 26 点のＰＰダメージを与える。
その後、ダークウォリアーが抵抗に成功。
通常攻撃で、ヴァルの HP に 17 ダメージ。

**ヴァル：**うぁ、地味に痛い！

**●第３ターン**
**ＧＭ：**ではまたしても「サバトの主」に抵抗せよ！

ここでハルがまたファンブル。
５DP で振りなおすことになる。
これでハルの DP は０である。

**ＧＭ：**そしてバフォメットの行動！　ダムンド召喚！　発動成功！
**ハル：**ダムンド？　この状況で？
**ヴァル：**……まさか。

そう、バフォメットは回復手段として奉仕用モンスターを召喚し始めたのだ。

**ヴァル：**早く落とさないと物量責めされちゃう！

**ハル：**「じゃあ……遠慮なく、やっちゃって良いんですよね？」 調教です！　ヴァル様にお尻は任せて、クリトリス弄ってあげましょう！
**バフォメット（ＧＭ）：**「……くっ！　あきらめの悪い連中じゃな！」
**ヴァル：**「素直に謝ったら、優しくしてあげるよ？」 言いながら、すぐには入れずに亀頭を擦りつけて、くちくち音を立てて。
**バフォメット（ＧＭ）：**「ハッ、こっちの台詞じゃ。このひょうたくれがーー！」
**ヴァル：**「ふぅん、もう許さないからねっ！　ん、っ、く……！」 一気に貫いてバフォメットの中を押し広げ、尻尾で尻穴も同時に犯してやるー。
**ハル：**「少し黙っていてくださいね？」 言葉を封じるように、再度バフォメットとキスを始めて。舌を絡め、唾液を何度も入れ替えてあげます。
**バフォメット（ＧＭ）：**「っ！　んっ……！　んぷっ……ふぅっ！」 二人がかりの攻めに、ぴくぴくと小さな体は震え、ヴァルのものをきつく締め付けてくる。
**ヴァル：**「んんっ、キツ、いっ……、ほら、ほらっ、苦しいならちゃんと苦しいって、ごめんなさいって言ってよっ！」
**バフォメット（ＧＭ）：**「んぅーっ！　んーっ！」
口を塞がれて返事はできず。
**ハル：**「んふっ……ふぅ……ちゅっ、ちゅぱっ……」 口内を徹底的に犯し、きつくクリトリスを摘んで……以上で！

ハルの調教にもヴァルは★を使い、バフォメットに９ダメージを与える。
これで魔王にはほとんど PP は残っていない……！
しかし、呼び出した手勢も無駄ではない。
そしてここまで来ればＧＭは手加減しない。

**ＧＭ：**ヘルハウンドとプリズンケージの行動！
ヴァルに背後からヘルハウンドが尻を舐めてきて、プリズンケージの触手が体中に媚薬粘液を塗りこんでくるぞ！　どちらも調教だ！
**ヴァル：**「ひああぁっ、あ、っ、熱ぅいっ……♪」
思わず尻を振ってしまって、その分ぐりっとバフォメットの中をかき混ぜ。
**ＧＭ：**ヴァルの尻が十分に馴らされていることに気づいたヘルハウンドは、陰嚢もぺろりと一舐めしてから。獣らしく、獣欲のままにヴァルのお尻を犯してくる！　さらに、プリズンケージの触手がどろどろと、ヴァルの体を媚薬粘液まみれにしてきた。

**ヴァル：**「きゃうううぅぅんっ！　あ、っ、は、せっかちすぎだよぉっ、ちょっとしか舐めてないのにぃっ♪」 犯されながら、バフォメットをより激しく突くことになって。

**バフォメット（GM）：**「んぎぃっ！　こらっ！　アホ犬っ！　ワシにまで響いておるではないかぁっ！！」

**ハル：**「うふふ……もう、ヴァル様ばかりずるいですね」 トロンとした目で２人と一匹とさらに触手を見つめて……。

ここでヴァルは普通に抵抗失敗。
合計 17 点の PP ダメージを受ける。

**ヴァル：**「んんんんっ、ごめんねっ、あとでハルも、いっぱいしたげるからっ♪」 魔王をさらに激しく犯しつつ……。

**GM：**調教かな？

**ヴァル：**ちがうよ！　エンスレイブ使うよ！

**GM：ちっ。**

**バフォメット（GM）：**「ぷはっ……はぁっ、はぁっ、ク、クククッ……た、楽しかったがっ、お前たちと遊ぶのもそろそろ終わりじゃっ！」
　ヴァルが中に射精した瞬間が消え時だな……とか計算している様子。

**ハル：**「あらあら……そんな事を言わずに楽しみましょう？　……永遠に♪」

**バフォメット（GM）：**「なに、おぅ……おぬしらごときがっ……はぁっ、このワシを奴隷にできると……っ」

**ヴァル：**「永遠に、僕の奴隷にしてあげるよ……っ！」 中に遠慮なく射精しながら……エンスレイブ発動！　★使って無理やりクリティカル！

**GM：**む、それをされるとどうしようもないな……バフォメット、魔族奴隷いないから★持ってないんだよなぁ。では、ヴァルの魂からバフォメットの魂へ、見えない鎖が伸びて拘束する！

**ヴァル：**「ほらっ、わかるっ！？　身も、心もっ、僕のものになっていってるんだよっ！」 そのままさらに犯してあげよう！

**バフォメット（GM）：**「んひぃぃぃ……って、ん？　な、なんじゃこれはっ！」 ステータスが奴隷になったことに慌てふためいてる。よほど驚いているのか、ぎゅぎゅっ　と、痛いくらいにヴァルのものを締め付けてくる。

**ハル：**「これでわたしとお揃いですね～♪」 術がかかったのを確信し、メガロファロスを詠唱しましょうか～♪

**ヴァル：**「ひゃああぁんっ、だめだめっ、そんなにぎゅうってしたら、出ちゃうよおぉっ♪」
　その締め付けに連続で達してしまい、バフォメットの中にさらに精液を注ぎ込んで……。

**バフォメット（GM）：**「なっ！　ちょっ、ま、待たぬか……ぁっ！　ひっ！！　あつっ……！！！！」 ヴァルに連続射精され、ハルに抱きつきながら激しく絶頂し。

**ヴァル：**「ふふ、これからいっぱい、いーっぱい、躾けてあげるからね……」

**GM：**戦闘終了だ。モンスターたちは全てバフォメットが呪文で召喚したものだったのだろう。ヴァルのお尻を犯していたヘルハウンドも消えてしまう。

**ヴァル：**「ちょっと残念～」

が。

しかし。

……がっくん

ずずずずずずずず

**GM：**突然、落下していくような感覚が。

**ヴァル：**「あれ……、ね、ねえっ、なんか、落ちてない？」

**ハル：**「はえ、え。あー……えーと、バフォメットさん、どういうことなんでしょ？」

**バフォメット（GM）：**「ぁぅ～……わ、わらわが仮の魔界王として制御しておったこの世界が、奴隷化で暴走したのじゃ……小魔界一個、滅ぼしてやるつもりじゃったのに……」 まだ生きてるモニターのいくつかを見れば、地上全体が急速に魔界化しているのがわかる。

**ヴァル：**なるほど……まあここにいれば安全なんだっけ。

**バフォメット（GM）：**「単にふつーに**魔海**に落ちるだけじゃ……（がっくり）」

**ヴァル：**「その分気持ちよくしたげたじゃん……ていうか、どうしてそんなことしようと思ったの？」

**バフォメット（GM）：**「せっかく魔王になったんじゃし、大魔王になりたいではないかー！」
　かわいくじたばたしてる。

**ハル：**「はいはい。そんな子には、おしおきですよー」 こっそり生やしたペニスでバフォ

**ちっ**
　演出である。ちゃんと本当はエンスレイブを使って欲しいと思っているのだ。だからわざわざ聞いているのだ。本当だよ？

**魔海**
　小魔界それぞれを隔てる魔界の海。液体化した瘴気の塊であり、原初の混沌とも呼ばれる。

メットを容赦なく犯してあげましょう。
**バフォメット（GM）**：「ふぎゃっ！　や、やめよー！」
**ヴァル**：「あ、ハルも好きなだけ味見していいよー♪」 この歴史的瞬間を、奴隷に犯されながら迎えさせてやろう。
**ハル**：「はい～」 それはもう、ずこずこと犯してあげるのです。

落下を続けた人間界はやがて、奇妙な次元間重力の反発によりゆっくりと……魔界に融合していく。

**GM**：さて、ここでヴァルは情報・調教・魔力判定をして成功値を合計してもらおう。
**ヴァル**：おお？　合計で……10 成功。でも、★が 1 個まだ残ってるな。
**ハル**：使っちゃいましょう！　世界の運命とか決まるっぽいですし！
**ヴァル**：使っちゃおう。15 成功！

バフォメットにより通常と異なる堕落パターンを描かれていたこの人間界は。
存在自体を魔界へと変換され、空気を瘴気へと変えながら。
どことも接しない魔海の真ん中へと顕現する。
ゆるやかな融合はさしたる災害も起こしていない。
この人間界は新たな小魔界となったのだ！

**ヴァル**：おおー！
**ハル**：孤島状態ってことですか？
**GM**：うん、アンクーたちと連絡取りたかったら、領地経営して「ゲート」か「貿易港」を作らなくてはいけない。そして、今この小魔界にいる魔族は、ヴァルとその奴隷。それにいくらかの堕天使（たぶん全員モンスターの奴隷）だけだ。つまり――
**ヴァル**：つまり？
**ハル**：あー！
**GM**：ヴァルは魔王になった瞬間、この小魔界の魔界王になるということだ。
**ヴァル**：おおー！
**ハル**：魔界王になれば、大魔王にも手が届きますよー！
**ヴァル**：「なってみたいなあ……、大変そうだけど。まあ大変だったらやめちゃえばいいよね」
**ハル**：「なれなかったらその時はその時ですよ♪」
**GM**：では、ヴァルは浮遊要塞をそのまま領地にしていいよ。
**ヴァル**：もらおう！　そしてどっか都市の上に浮かんで市街地はそっちに機能を任せるんだ！
**GM**：本来はいろいろ機能があったが、大半をバフォメットが壊しちゃったので施設「**移動要塞**」としてのみ使える。
**ヴァル**：う……移動要塞の**生産**－ 100 がやばいな。
**ハル**：毎シナリオ 100 ソウル減っていくんですね……。
**GM**：あとは DP だね。今回はすごいぞー。二人にはセッションボーナス＆モンスター諸々で 30 点ずつ。ヴァルにバフォメット、堕天使でさらに 30 点。ハルにサラマンダー、リッチで 18 点だ！
**ハル**：わぁい、ハルも魔将になります！
**ヴァル**：とりあえず、大魔将にならなきゃ……。
**GM**：と、バフォメットが持ってたアンコモンとレアのアイテムと呪文もあげよう。**魔王の玉座、親衛隊、教団、サバト、プリズンケージ**だ。**恥辱王の鎧**もあるけど、リムーブカースをどこかで手に入れないと外せないね。
**ハル**：しばらくつけっぱなしにしときましょう。
**ヴァル**：似合ってるしね。しかし、魔法系アイテムが多いな……ハルは何か欲しいのある？
**ハル**：どれもヴァル向けっぽいです……とりあえず、親衛隊でしょうか。
**ヴァル**：いいよー！
**ハル**：残りはどうぞ～。ヴァル様はこれから領地経営ですしっ。
**ヴァル**：ありがとう！

そんなわけで、新たな魔界に領地を手に入れたヴァル。
しかし魔界化した以上、新しい魔族やモンスターも湧いてくるだろう。
世界中に散ったモンスターや堕天使、天界の生き残りも何か画策するかもしれない。
ともあれ、バフォメットはヴァルの奴隷となり、三界を巻き込む危機は退けられたのだった……！

**移動要塞**
戦争には強いが、恐ろしく高コストで維持費も高い施設。

**生産**
その施設を置いたことでセッションごとに得られる領地の収入。初期はこれの高さが重要。

**魔王の玉座～**
どれもアンコモンないしレアアイテム＆呪文。通常のコモンより、かなり強力なアイテムや呪文である。キャンペーン最後なのだし、出し惜しみはナシだ。

**恥辱王の鎧**
レアアイテム。とてもエロい呪われた鎧。マイナス要素も多いが、防御力は最強級。

# 最後に



**ＧＭ：**というわけで、長々とお疲れ様。
**ヴァル：**お疲れー！
**ハル：**お疲れ様でしたー……こんなにロングランしたのは初めてです。
**ＧＭ：**とりあえず、ちゃんと形になってよかったー。
**ヴァル：**だねー。なんか続きのやりたくなる終わりかただったけど。
**ＧＭ：**まあ、こっから先はそんな強敵もいないからね。魔界王になって他の魔界王に攻めてこられるまで、わりと安泰でしょ。
**ハル：**当分は平定しつつ、のんびりえっちして過ごす生活ですかね。
**ヴァル：**なるほど。じゃあ単発セッションとかＣＣする程度でいいか（笑）。
**ＧＭ：**そうだねぇ。
**ヴァル：**バフォメットは更正のためにもカースト最下位の扱いをしなければ。モンスター奴隷より下の扱いにしないと反省しなさそう！
**ハル：**しなさそうですねー。
**ＧＭ：**うん、ぜんぜん反省してないよ（笑）。
**ヴァル：**もう首輪つけてヘルハウンドといっしょに犬部屋に入れとこうか？
**ハル：**それじゃご褒美になっちゃいますよ。

それはどうだろう。

**ハル：**うーん、屈服させるのも一苦労ですね。
**ＧＭ：**まあがんばるといいよ。
**ヴァル：**がんばって、びしばし躾けるぞー。
**ハル：**ハルも魔将になりましたし、独立して領地経営してみましょうか〜。
**ヴァル：**いいよー。そういうのはハルの意志を重視するし。そういえば、ゲート作れば前の魔界とも行き来できるようになるんだっけ。
**ハル：**よーし、独立しちゃいましょう！
**ヴァル：**まあ、魔界王になったら作ろう。味方の流出と第三戦力の流入が怖いし……。
**ＧＭ：**あ。そうそう、そういえば元いた世界の**名前さえ**決めてなかったけど。
**ヴァル：**そ、そういえば知らないな……。
**ハル：**知りませんね（汗）。
**ＧＭ：**ヴァルが、この新たな魔界の名前を決めるんだ！　それで最後に〆にしよう！
**ヴァル：**ええっ、そんなこといきなり言われても！
**ハル：**やっぱり［**漢字二文字＋界**］なんでしょうね〜。
**ヴァル：**ど、どうしよっ！
**ＧＭ：**さあさあ、決めろよ、**ハリー！　ハリーハリー！！**
**ハル：**テキトーに決めちゃいましょうよ。
**ヴァル：**うーん……じゃあ、ヘルハウンドとか好きだし、『獣欲界』でっ！
**ハル：**了解！　獣欲のままに振舞います！
**ＧＭ：**獣欲中心のモンスターがきっといっぱい生まれるよ！
**ヴァル＆ハル：**わーい！

かくして新たな魔界の歴史が始まった！

その舞台の名は――獣欲界！！！

**ＣＣ**
キャラクターチャット。特にルールとか使わずに適当にチャットで遊ぶ。この場合は要するにエロなり茶。

**名前さえ**
みんなは最初に決めよう！　できれば『絶対隷奴』や『永劫快姫』に載ってる世界を使うといいよ（宣伝）！

**［漢字二文字＋界］**
一応、そういうしきたりである。

**ハリー！　ハリーハリー！！**
『ヘルシング』で何度か使われたフレーズ。気心の知れた相手以外には使わない方がいい。

## “魔界神（笑）”バフォメット

**階級**：魔王（★★★★★）
**領地**：饗宴の魔都サバティア
**性別**：女性

| | | |
|---|---|---|
| **戦闘**：　6 | **調教**：６－１ | **体力**：１０ |
| **運動**：１０ | **奉仕**：１３ | **魔力**：１０+1 |
| **情報**：６－１ | **誘惑**：１２+3 | **自尊**：１０+1 |

**魔王特性**：トリックスター、サバトの主（視界内の全存在は毎ターン開始時に自尊判定を行う。失敗した者は、ターン終了までバフォメットを行動対象に選ぶことはできない）

**魔族特性**：56 番、獣人（山羊）、異色の肌（青紫）、闇の翼（黒天使羽根）、闇の紋章

**アイテム**：恥辱王の鎧（Ｒ）、魔王の玉座（ＵＣ）、親衛隊（ＵＣ）、教団（ＵＣ）、魔王珠、淫蛇、魔界メイド、催淫ガス、魔奴隷

**呪文**：プリズンケージ（Ｒ）、サバトマスター（Ｒ）、サバト（ＵＣ）、オーク、ダムンド、ダークウォリアー、テンタクルス、ヘルハウンド

illustrator: あわじひめじ

### 「わらわを倒すとかｗｗｗｗ　アｗｗｗホｗｗｗじゃｗｗｗｗ」

言動も政策も問題だらけの魔王少女。魔界でも古参の魔族であり、人間界に対しては大きな影響力を持っているのだが、周囲にそれを認める者はいない。自身以外について思いやることなどまるでなく、他者を完全無欠なまでに道具扱いする。特にモンスターに対する扱いは酷く、気まぐれにその領内地位を変えるため魔族からの信頼も低い。

好奇心のままに行動し、人間界へ行き来することも多い。当人の特性上から天使とも何度もぶつかりあっており、手下らを使って堕天使を大量に生み出してもいる。このため、当人はまるで意図しないままに天界に対して多くの情報的アドバンテージを得ている。彼女の手下には堕天使奴隷はもとより、堕落した天界モンスターも多数いる。自ら戦うということは皆無だが、こうした手下を使うことについて、彼女の……否、彼女の手下の力を甘く見てはいけない。バフォメットの歴史は長く、その軍勢は長い歴史にふさわしく、むやみに充実しているのだ。

## これがバフォメット軍の全貌だ！

本書 P13 において６つの土地が提示されていた。しかし、ＰＣたちが実際に向かったのは半分程度に過ぎない。

提示時点ではＧＭも、なんとなくこんな感じとしか考えていなかったが……キャンペーンが終結した今、彼らについてもいくつかの設定ができあがっていた。ここでは残った土地を中心に、バフォメット軍の構造を紹介しておこう。

**●各サバト**

サバトマスターによるバフォメット軍の端末。疫病界だけでも多数が存在する。彼らが集める無数の雑多なモンスターや下級魔族、人間奴隷たちによって、バフォメット軍は潤沢なソウルと労働力を獲得している。また、バフォメットの個人的な遊びの場でもある。

魔女ヶ森のサバトは中の上程度。ただし、バフォメットの作戦決行の時は迫っており、多くのサバトマスターが彼女の戦略について（自慢話として）聞かされていた。

**●菌類帝国**

元は魔将シルヴィアの領地“安らぎの森”。ファンガスクイーンによって支配され、スライムとテンタクルスの巣窟と化している。密かにプリズンケージとワームヒドラを開発生産していた。

**●白濁湖**

生臭い匂いと湯気を放つ白濁した精液で満たされた湖。湖底にはクラーケンが棲んでおり、近づいた淫乱な魔族を捕らえ、奴隷とする。彼女は湖水と捕らえた射精奴隷によって常にテンタクルスを出産し、バフォメット軍の各拠点に配給している。また、彼女にとって無益な女性奴隷はサバティアへと送られる。

また、ホワイトスライムと呼ばれる特殊なスライムが多数周囲を徘徊している。

ここに向かっていた場合、クラーケンは習性を利用されているのみであり、実際にはバフォメットの使いたる魔族となった。

**●けだもの峠**

かつて天使によって片目を失ったという凶暴なフェンリルが棲む山。バフォメットによって多数の人間界ゲートが設置されており、送り込まれる傷ついた天使らをフェンリルと、その子である氷属性ヘルハウンドたちが念入りに堕落させている。

子らを虐待するバフォメットに、フェンリルは悪感情を抱いている。このため、天使に対する敵意を見せて説得すれば、十分に説得は可能だった。その場合、アンクーのポジションにこのフェンリルが配置される。

**●凍れる竜の巣**

全てが凍りついた城。複数のダークドラゴンの卵が氷付けにされており、バフォメット配下のベインゴーレムやガーディアンと氷属性サラマンダーが番人となっている。バフォメットはこの城に隠した卵を人質に、ダークドラゴンの夫婦を配下としていた（人間界でヴァルたちが倒したのはその一頭）。

サラマンダーはこの行為について、心の中では憤慨しており、何とかして解放しようとしている。対話さえできれば簡単に説得し、他の手先を倒す協力をさせることができた。

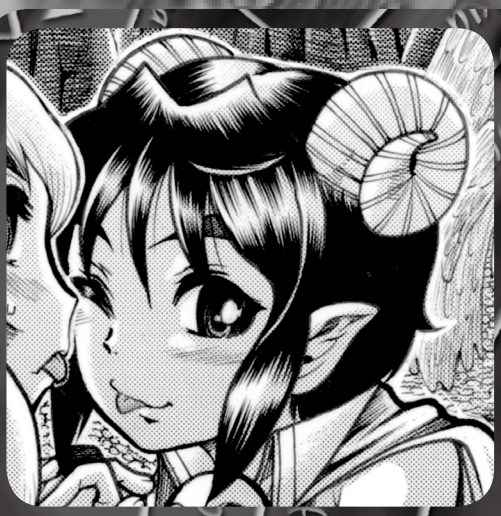
なお、ここで登場するサラマンダーはヴァルたちの奴隷となったサラマンダーの母親である。

**●魔宴の都サバティア**

バフォメットの支配魔都。拠点としては最重要地。モンスターが魔族より高く扱われており、獣姦願望や奴隷願望の持ち主には人気のスポット。ただし、領主に人望はない。現領主代行のデュラハンが高い支持を得ている。

**●監獄迷宮**

サバティアから無数の魔族奴隷を運び込み、監禁している迷宮。絶え間ない陵辱で彼らに DP を発生させては、ベインゴーレムやオートマタを量産している。リッチたちが冷徹に運営するこの迷宮に一度囚われれば、脱出は不可能と見てよい。



## “獣欲王（仮）”ヴァラック

**階級**：魔将（★★★）
**領地**：獣欲都市ベスティア
**性別**：男性

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **戦闘**： | 4 | **調教**： | 8 | **体力**： | 5 |
| **運動**： | 6 | **奉仕**： | 8 | **魔力**： | 8＋1 |
| **情報**： | 6 | **誘惑**： | 8＋2 | **自尊**： | 6 |

**魔王特性**：大魔王の器
**魔族特性**：悪魔の尾、魅惑の声、56番、名器
**アイテム**：魔王の玉座（ＵＣ）、教団（ＵＣ）、魔道杖、魔娼着、責め具一式、魔界メイド、闇のまとい、抗魔の盾、闇の牢獄、魔奴隷
**呪文**：プリズンケージ（Ｒ）、エンスレイブ（Ｒ）、サバト（ＵＣ）、ボンテージング（ＵＣ）、ブリザード、ドレインライフ、シェイプチェンジ

illustrator: あわじひめじ

### 「僕はとってもやさしいよ。僕を楽しませてくれるならね」

目下の魔界にとって最も新しい魔界、獣欲界の魔界王候補。当人は未だ魔将だが、『大魔王の器』を持ち大魔将や魔王をも奴隷として従えている。心身ともに未熟だが、他者に思慮できる気質と高い性的能力を持つため、領主としての評価は高い。今は獣欲界を安定させ、人間の生き残りを魔族化させたり、現れたモンスターを管理下に置いたりといったことに忙しい日々を送っているようだ。武力ではなく快楽による緩やかな支配体制を進めており、強力な部下を持つことから治安も悪くない。その領地である魔都ベスティアは暫定的ながら獣欲界の首都として機能しつつあるのだ。

しかし、長年のパートナーであった魔族奴隷ハルディアが獣欲界の誕生と同時に独立し、彼の実戦闘力は大きく低下した。戦争や物量戦、情交ならばともかく、物理的戦闘において彼の戦闘力は並みの魔族以下なのだ。このことは大きな弱点となっており、何者かが彼を討とうと暗殺者を送り出さんとしている噂もある。

## “乱れる白狼”ハルディア

**階級**：魔将（★★★）
**領地**：淫狼の森ネアゾス
**性別**：女性

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **戦闘**： | 9＋1 | **調教**： | 4 | **体力**： | 6＋1 |
| **運動**： | 8 | **奉仕**： | 8 | **魔力**： | 6 |
| **情報**： | 5 | **誘惑**： | 6 | **自尊**： | 8 |

**魔王特性**：怪物の王（ヘルハウンド）
**魔族特性**：戦闘形態、吸血牙、獣人（狼）、豊穣の乳房
**アイテム**：封魔剣（ＵＣ）、親衛隊（ＵＣ）、属性両手武器（火）、死神の鎌、魔獣装甲、淫欲軟膏、戦鬼の腕輪、下級魔獣、闇の牢獄、魔奴隷
**呪文**：ネイキッドロア、メガロファロス、フィジカルピット

illustrator: あわじひめじ

### 「もう……我慢出来ませんっ！！」

獣欲界を作った立役者の一人であり、おそらくは現獣欲界における最強の武闘派魔族である。もっとも、野心や侵略性とは無縁の人物である。かつてはヴァラックの奴隷であり、今も彼とは心身ともに強い関係を持ち続けているようだ。ただし、快楽に弱く、自ら奴隷となることに抵抗を持たないため、いつまで領主であり続けるかは微妙だ。魅力的な、あるいは強力な者が目の前に現れれば、彼女は再び奴隷に身を落とすかもしれない。ただし、理解ある強力な腹心を得たならば、安定した治世を行うことができるだろう。

彼女の領地ネアゾスは、ヘルハウンドの女王としての彼女の元に集まったヘルハウンドや、ワーウルフなどを中心とした獣系モンスターのコミュニティである。その支配はゆるやかなものであり、明確な上下関係もほとんどない。そこには新たに生まれた獣系魔族も集まりつつある。

# おまけ キャラクター設定ラフ集

絶対隷奴 Absolute Slavery

ヴァラック（ヴァル）
ヴァラクス？
くるりんこ
角
前髪
一箇所だけカール
顔
眉毛は
大く短め
目は
パチリ
口端
ぴ？にっ
マントは
襟付き
マントは
意思を持ち
端っこが
いつも
持ち上がって
いる
（スポーン風）
胸のボンテージ
乳首穴
※背面はヒモ
有り
腕ボンテージ
マント背面にはヴァルの紋章
中指のみ
草模様（テキトー）
ファルスは
小さい上に
普段は
パンツで
押さえつけていて
殆ど男か女か
分からない感じ。
勃起すると
かなり巨大化
陰毛はない。
脚ボンテージ
闇の牢獄
※普段は右手中指に
はめている
レザーパンツの
お尻には
穴
仮性包茎
勃起！

# ハルディア（ハル）

顔

ゲジゲジ眉毛
＋タレ目

※"闇の牢獄"は本来指輪だが、ハルディアは戦闘中手が巨大化するので代わりに首輪の先に装着している。

※成長後はこれぐらいの巨乳に（これ以上のボリュームでもOK）

背面

ホニョロ
＋牙

肩・肘・腰
膝・股間
にモが密集している

しっぽ

戦闘中のみ手が巨大化して爪が飛び出る

獣モの下には綺麗な肌

光沢ある獣モ（筋肉のつぎあいがモの上からでも分かる）

指の第2関節部まで手の甲側に獣モ

常に火が点いている

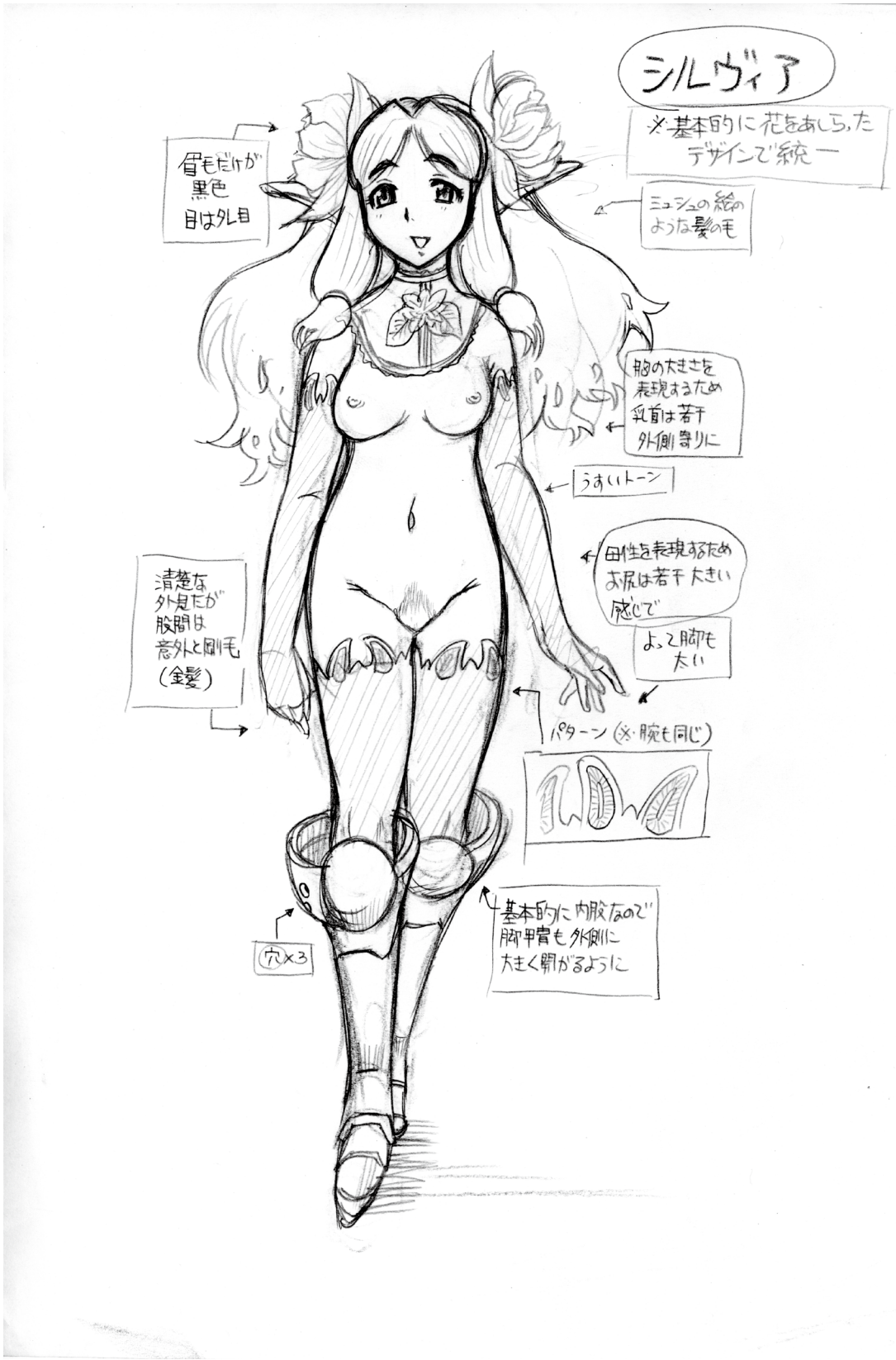
マーク

封魔手甲

足の爪も伸ばせる

ルノー
胸
尻
背面
首にも皮
鼻大きく
水平スリット
瞳
ヒゲ
両肩にルーン
おっぱいは左右離れている
山羊乳
おなかに副乳×4
腰から下、黒い毛
男根は普段毛皮に覆われている
チンコの下の剛毛の中にピンク色のまんこ有り
(あまり使いこんではいない)
しっぽ
爪にマーク

ロベリア
※実際のリプレイイラストでは服は着ておらず
両手袋と靴と~~服の装身具のみ~~
身に着けている
ワークブーツ
ちょいデベソ
ビクッ ビクッ
肉茸
普段はつるつるマンコ
オシリに蒙古斑あり
背面
カボチャパンツ


シルヴィア
※基本的に花をあしらったデザインで統一
眉もだけが黒色
目は外目
ミュシュの絵のような髪の毛
脚の大きさを表現するため乳首は若干外側寄りに
うすいトーン
母性を表現するためお尻は若干大きい感じで
よって脚も太い
清楚な外見だが股間は意外と剛毛(金髪)
パターン(※腕も同じ)
基本的に内股なので脚甲冑も外側に大きく開がるように
穴×3

アンクー
※左利きなので頭を持つときは右手を使う（戦闘が起きても左手が空いてるのでなくに反撃す）
ヘアバンド
背面
胸
ブレストアーマー
首輪
トゲつき
イヤリング
いわゆる霊人といった美貌
左頬にホクロ
口紅アリ
眉毛は上がり形
先っぽ形状は丸
ガントレット
レザー
下半身
サーコート
インナービスチェ
パターン
髪をほどいたら
ラーメンのような
ちぢれた髪が
腰まで伸びる。
だれがラーメンだ
※騎士なので肩の筋肉とか鍛えてある

ニコラ・レミ判事
額に第3の瞳
帽子とジャケットにはトーン
唇はいつもムッツリと結んでいる
ケープ+ジャケット+チュニック
ブラ
実は隠れ巨乳
※股間だけ露出させる事で自分の職業を忘れさせないようにして羞恥度UPさせていた
スッキリ目
眼の下なし
メガネ下フレームなし
背面
※人間のときに女性として判事に推薦してもらう代わりに上級判事に自分の肉体を提供する事を強要されていたので(その時まで処女だった)
SEXに関してはどちらかというと嫌悪感が強い
オリジナル設定

サマエル（変身前）

## 獣欲界について

獣欲界は、獣の如き欲望が第一の魔界だ。

敗北すれば犯されることが当然となっており、魔界の大半は森林で覆われている。なだらかな丘陵や湿地があり、いくらかの建造物は多くが廃墟と化して蔓草などで覆われている。

人間界から堕ちてきたことで、多くのダムンドが生息しているが、半ば野生化した彼らは魔獣たちの性的な餌食として狩られる日々を送っている。獣欲界のモンスターは多くが獣の相を帯びた形質変化をしており、ダムンドやダークウォリアーにおいてその特徴は端的である。

また、獣欲界で生まれた魔族は、通常のものではなく以下の特性表を振る。また、アイテム類は基本的に肉体能力として発現する。

### 獣欲界特性表　D66

| ダイス | 魔族特性 | 能力値修正 | |
|---|---|---|---|
| 11 | 棘刃 | （戦闘＋1／魔力－1） | 肘や肩、脛などから棘や刃が飛び出しており、戦闘で敵を傷つけ威嚇する。 |
| 12 | 棘尾 | （戦闘＋1／誘惑－1） | 鞭のように振り回せる、先端が毒針や棘鉄球などになった尾。 |
| 13 | 肉食牙 | （戦闘＋1／奉仕－1） | ずらりと鋸刃のように並んだ犬歯ばかりの口。 |
| 14 | 獣の鉤爪 | （戦闘＋1／調教－1） | 手足が毛皮に覆われ、先に凶悪な鉤爪を備えている。 |
| 15 | 鳥獣の翼 | （運動＋1／体力－1） | 翼を背中に備えていることを示す。わずかなら滑空や飛行も可能。 |
| 16 | 獣人 | （運動＋1／自尊－1） | 直立した獣のような姿をしており、全身が毛皮に覆われている。 |
| 21 | 蛮勇の毛皮 | （運動＋1／魔力－1） | 体の一部を野生的な毛皮が覆っている。背や四肢、胸元、首周りなどが多い。 |
| 22 | 獣騎体型 | （運動＋1／奉仕－1） | 下半身が何らかの獣の首から下になっている（馬・蛇・鳥などが一般的）。 |
| 23 | 保護色 | （運動＋1／調教－1） | 周囲の風景に溶け込みやすい模様の毛皮や、変化する保護色の肌を持つ。 |
| 24 | 獣耳 | （情報＋1／魔力－1） | 獣の耳と尾を持つ（狼、虎、狐、兎、ネズミなどが代表的）。 |
| 25 | 獣使い | （情報＋1／体力－1） | 感覚のつながった小動物を使い魔として召喚し、情報収集ができる。 |
| 26 | 植物の髪 | （情報＋1／戦闘－1） | 蔓草や枝葉からなる髪を持ち、周囲の植物と強い結びつきを得る。 |
| 31 | 神経毛 | （情報＋1／自尊－1） | 体毛に神経があり、周囲の様子を過敏に感じ取ることができる。 |
| 32 | 威圧の声 | （調教＋1／奉仕－1） | 遠吠えやいななきで相手を圧倒する。 |
| 33 | 傷痕 | （調教＋1／誘惑－1） | 火傷痕、縫い跡、半腐敗、皮膚のない肉質の手足など。歴戦の戦士の証。 |
| 34 | 甘い体液 | （調教＋1／情報－1） | その唾液や精、愛蜜は甘く美味であり、軽い媚薬効果を持つ。 |
| 35 | 獣欲放出 | （調教＋1／自尊－1） | 相手の心身を火照らせる凄まじい獣欲を常に周囲に放っている。 |
| 36 | 豊饒の乳房 | （奉仕＋1／運動－1） | 常に母乳の出る大きく豊満な乳房を得る。 |
| 41 | 長く熱い舌 | （奉仕＋1／誘惑－1） | ２０センチ以上ある長く熱い、奉仕に向いた舌。 |
| 42 | 名器 | （奉仕＋1／戦闘－1） | 特殊な生殖器を持ち、交合者に大きな快楽を与える。形状や特徴は任意。 |
| 43 | 蹄の足 | （奉仕＋1／調教－1） | 足が毛皮に覆われ、先に蹄を持っている。臆病で従属意識が高い。 |
| 44 | 野生の美 | （誘惑＋1／魔力－1） | 高貴な野生の美しさを放つ容姿。体は機能的な筋肉に覆われ、危険さと蠱惑を孕む。 |
| 45 | 燐光 | （誘惑＋1／運動－1） | 全身をゆるやかに覆う青白い光の衣。あらゆる心を惹きつけるが、隠密には不向き。 |
| 46 | 経立 | （誘惑＋1／自尊－1） | その正体は年を経た獣である（狐、猫、狸、虎などが代表的）。 |
| 51 | 濃蜜の香り | （誘惑＋1／情報－1） | 嗅ぐ者の心を惑わせ酔わせる淫らな蜜の香りを全身から発している。 |
| 52 | ぽっちゃり | （体力＋1／運動－1） | 体についた脂肪によって身長から考えるとかなり重い体重を持つ。動きも鈍い。 |
| 53 | 再生能力 | （体力＋1／調教－1） | 強力な回復能力による見かけを超えた撃たれ強さ。 |
| 54 | 怪腕 | （体力＋1／奉仕－1） | 巨大に膨れ上がった腕。細かな作業には向かないが、並々ならぬ腕力を得る。 |
| 55 | 巨体 | （体力＋1／自尊－1） | 体格が大きく、２m以上の身長を持つ。そして相応の怪力も。 |
| 56 | 筋肉質 | （体力＋1／魔力－1） | 頑強が筋肉が全身を覆っており、並々ならぬ筋力を発揮することができる。 |
| 61 | 純白の肌 | （魔力＋1／体力－1） | 生物的とはおよそ言えない純白の肌。魔力に特化された肉体の印。 |
| 62 | まじない紋 | （魔力＋1／戦闘－1） | 体中に魔力を導く刺青が刻まれている。それは強大な魔力をあなたに導くだろう。 |
| 63 | 豊饒の母胎 | （魔力＋1／調教－1） | 常に妊娠し臨月に達しているかのように膨らんだ腹部を持つ。 |
| 64 | 獣の角 | （自尊＋1／情報－1） | 山羊や牛の角を持つ。それは凶暴性や傲慢さの象徴だという。 |
| 65 | 翼手 | （自尊＋1／戦闘－1） | 腕が鳥やコウモリの翼になっている。戦いに不便だが、獣欲界では高貴さを示す。 |
| 66 | 追加獣頭 | （自尊＋1／誘惑－1） | 肩や背、腕の先などに獣の頭を追加で持つ。これは凶暴に唸り、敵には噛み付く。 |

# 絶対隷奴リプレイ　『黒山羊の淫宴』

2012年8月10日　―　初版第1刷発行

2014年6月16日　―電子版第1刷発行

●企画／著者
神谷涼

●編集／ＤＴＰ
大石陽

●テキスト
神谷涼

●表紙
ラヂヲヘッド

●本文・データ挿絵
あわじひめじ

●その他挿絵
吉井徹
hira

●校正
待貴 夜鳥

●スペシャルサンクス
でんねこ

●発行所
ＺＱワークス　http://zqworks.ao-works.net/

●印刷所
ねこのしっぽ

本書の内容の一部あるいは全部を無断で転載・複写・複製することは、著作権者の権利侵害となります。
収録された書く作品の著作権は表記された著作者に属します。この本全体の著作権は著者およびデザイナーに属します。

Copyright © 2014
神谷涼 / ＺＱワークス
All rights reserved.

ついに登場！
成人向けTRPG『絶対隷奴』による
成人向けセッションの様子を描いた、
一心不乱の成人向けリプレイ！

悪辣外道の魔王バフォメットを打倒すべく、
立ち上がったのは、美しき二人の魔人主従！

## 少年淫魔ヴァラック
## と
## 白き獣人の娘ハルディア

相対するは強大無比なる怪物の軍勢。
バフォメットの手下ども。
サバトを支配する山羊頭の半獣悪鬼。
触手やスライムを支配する森の女王。
魔都を支配する美麗なるデュラハン。
魔族を捕らえ、その力を奪うリッチ。

そして物語はついに最後の敵たる魔王へ。
とある人間界にて、
バフォメットの立てる恐るべき計画とは!?

ショートキャンペーンを豪華まるごと一冊で！
多数のコラム・おまけデータも掲載！

本作品はオンラインセッションで行われたものです。
オフラインにて同様のセッションを行うことで起こるいかなるトラブルについても、
当サークルは一切の保障はせず、責任も負いません。
また、オンラインにおいても互いの嗜好を十分にすりあわせてから行うようにしましょう。